

定住自立圏共生ビジョン懇談会 資料

指宿市新たな公共交通体系の構築に向けた 調査・分析業務

<目次>

1. 業務の目的
2. 業務フロー
3. 調査結果
 - (1) 自治会長アンケート調査
 - (2) イッシーバス乗込み調査
 - (3) 主要施設・交通拠点ヒアリング調査
 - (4) 市民アンケート調査
 - (5) 調査結果まとめ

1. 調査の目的

- 指宿市では、平成28年に「指宿市定住自立圏共生ビジョン」を策定し、旧指宿地域を中心とし、旧山川町・旧開聞町と連携した指宿市圏域を形成したまちづくりを進めている。
- 平成14年に旧指宿市で運行を開始した市内循環バスは、市町合併により運行を拡充し、現在は、市内4路線を運行している。
- 一方、イッシーバスの利用者数は、ここ数年減少傾向にある。
- また、民間の路線バスに関しても、公共交通の利用者数は、減少傾向にある。



より効率的で、各地域の特性や住民ニーズに合った交通体系のあり方や、市民にわかりやすい路線や時刻表の工夫や周知のあり方、民間路線バスや観光利用等との効果的な連携のあり方等を目指して、指宿市における新たな公共交通体系の構築に向けた調査・分析を行う。

2. 調査フロー

1. 地域特性の把握

- (1) 人口動向
- (2) 施設の立地状況
- (3) 観光動向 等

2. 公共交通の状況把握

- (1) 公共交通の運行状況
- (2) 交通事業者ヒアリング 等

3. 市民ニーズの把握

- (1) 自治会長アンケート調査
- (2) 市民アンケート調査
- (3) 主要施設・交通拠点ヒアリング調査
- (4) 高等学校へのヒアリング調査
- (5) 観光団体、観光施設等へのヒアリング調査
- (6) 中山間地域、公共交通不便地域等のヒアリング調査

4. 市内循環バスの運行状況の整理

- ・市内循環バスの乗り込み調査
- ・市内循環バスの乗降状況の整理

5. 指宿市の公共交通の課題整理

6. 上位・関連計画の整理

7. 指宿市の新たな公共交通体系の検討

8. 地域特性を踏まえた利便性向上・持続可能な施策の提案

3. 調査結果

(1) 自治会長アンケート調査

<調査概要>

調査目的	高齢者や交通弱者等の規模、自治会住民の移動状況等を把握					
調査対象	指宿市内の自治会長（197名）					
調査方法	指宿市を通じたアンケート調査票の配布・郵送回収					
実施期間	平成29年10月2日（月）～平成29年10月16日（月）					
回収数	上記の方法にて、調査を行った結果、197票の配布に対し、105票の回収があり、回収率は、53.3%となった。なお、地区ごとの回収票数は、下表の通りとなる。					
		指宿地区	山川地区	開聞地区	不明	合計
	配布数	87	77	33	-	
	回収票数	48	37	19	1	105
回収率	55.2%	48.1%	57.6%	-	53.3%	

<調査結果>

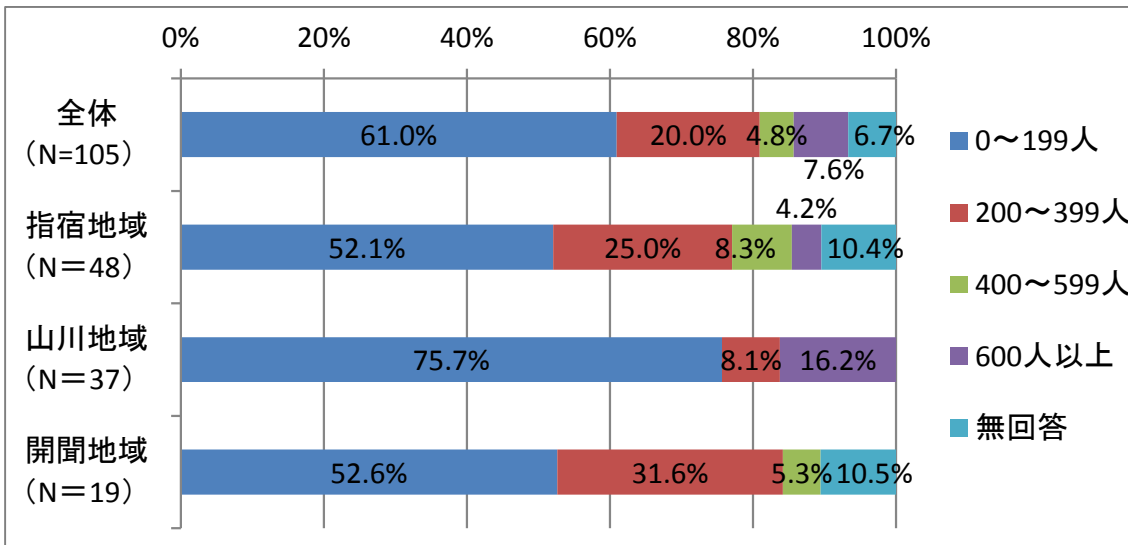
①自治会の状況

<自治会員数>

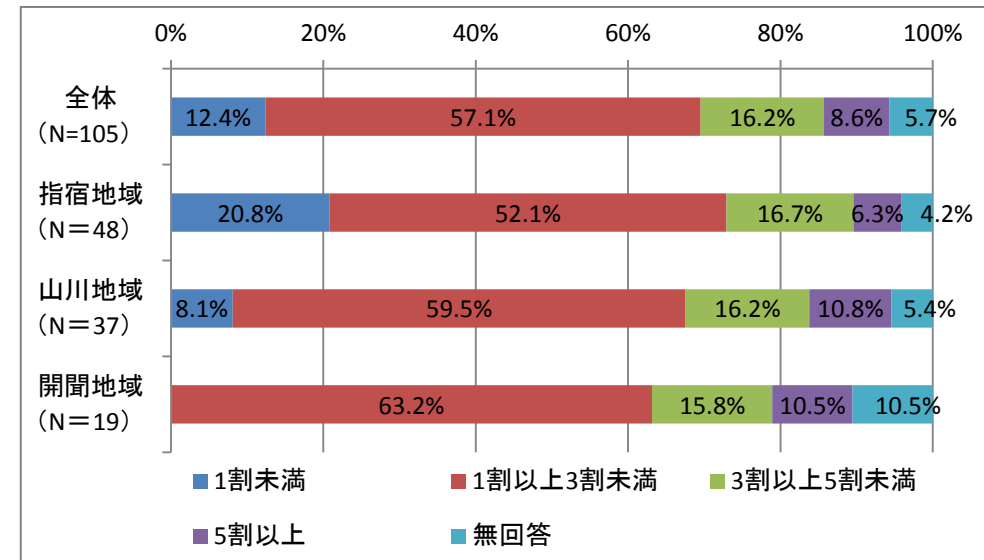
- 全体では、200人未満の自治会が約61%を占め、山川地域では、約7割以上である。
- 開聞地域では、自治会員数が200人以上400人未満の自治会が他の地域と比べて多い。

<交通弱者の状況>

- 全体では、交通弱者の割合が「5割以上」が約9%で、「3割以上5割未満」が約16%となった。
- 地域別にみると、指宿地域では、交通弱者の割合が低い傾向にあり、開聞地域では、高くなる傾向にある。
- 公共弱者の割合を5割以上と回答した自治会は下記の通り
 - ①指宿地域（臼山、鳥山、渡瀬）
 - ②山川地域（小川西、上出、徳光、東上）
 - ③開聞地域（鎮守、川尻上）



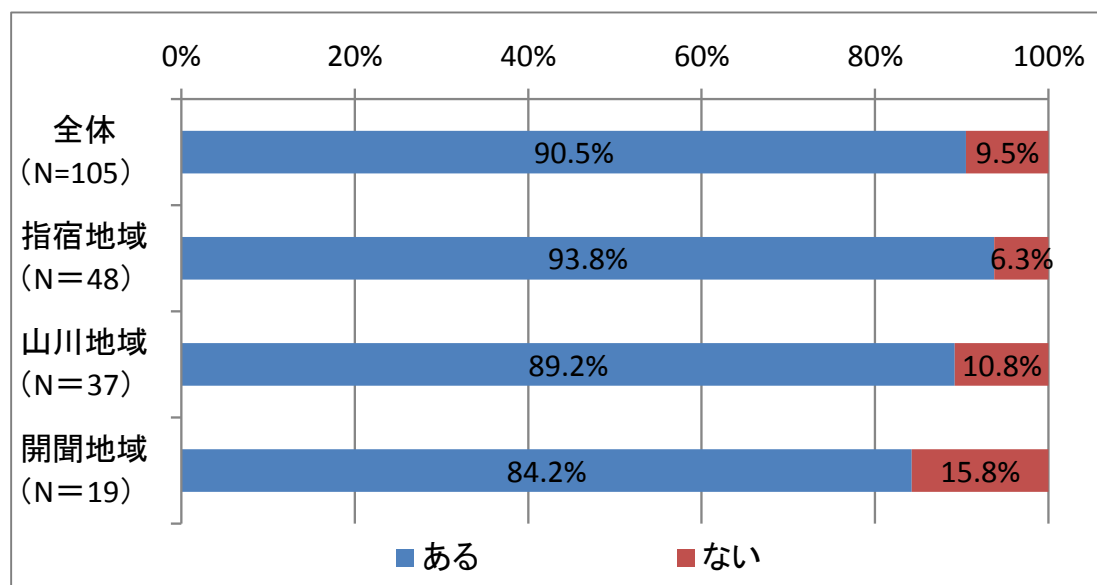
▲ 自治会員数



▲ 交通弱者の割合

②公共交通の状況

- 全体では、約9割の自治会が利用できる公共交通があり、約1割の自治会が利用できる公共交通がないと回答している。
- 地域別にみると、利用できる公共交通がないと回答した自治会は、開聞地域で約16%（3地区）、山川地域で約11%（4地区）、指宿地域で約6%（3地区）となった。



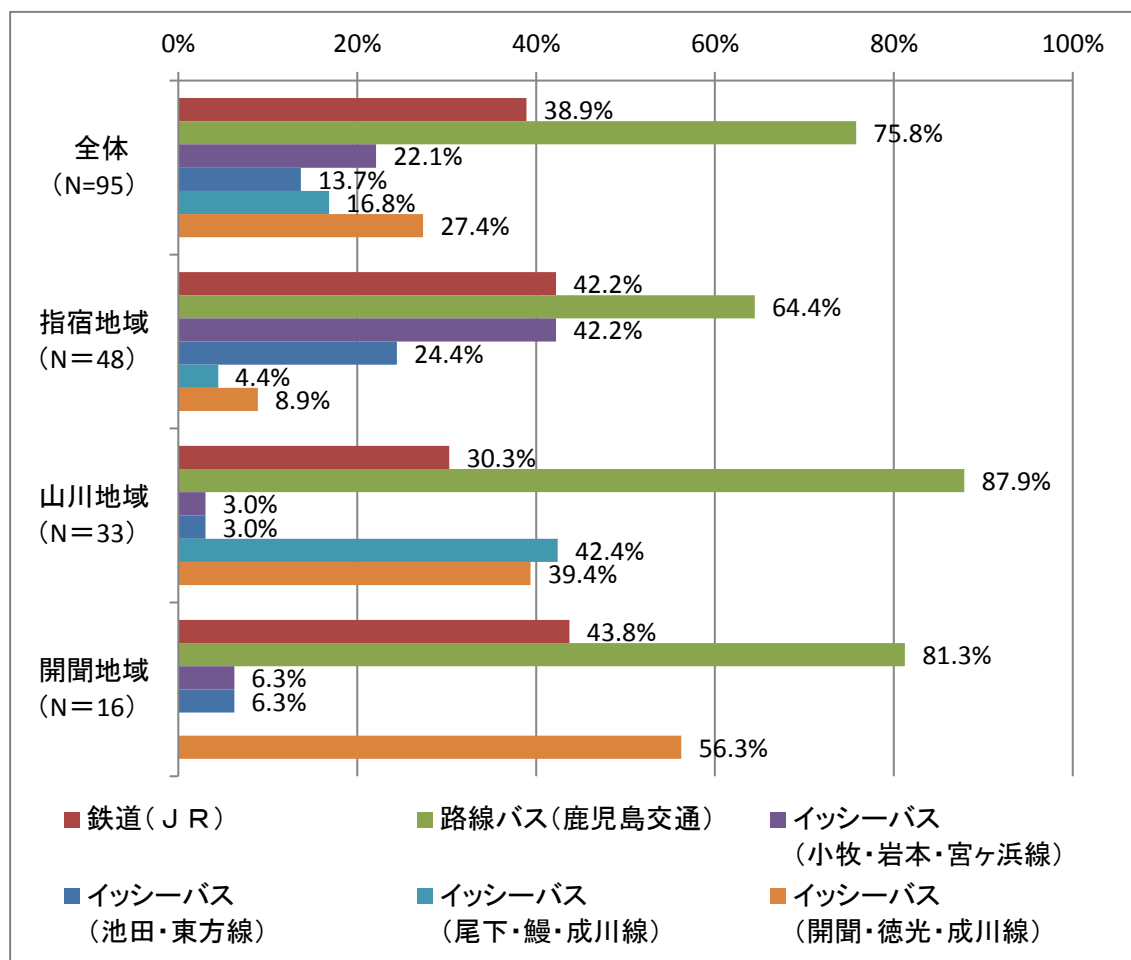
▲ 利用できる公共交通の状況

■ 利用できる公共交通がないと回答した自治会

地域	自治会名
指宿地域	道下、臼山、大牟礼西
山川地域	川口、中野、神方下 大山、上出
開聞地域	谷村、荒田

②公共交通の状況

- 利用できる公共交通について、全体では、路線バスという回答が最も多く、約76%を占め、次いで、鉄道（約39%）となった。
- 地域別でも、3地域とも路線バスという回答が多いものの、山川地域では約88%であるのに対して、指宿地域では、約64%と地域によって若干の差異が見られる。
- 開聞地域では、イッシーバス（開聞・徳光・成川線）の割合が、約56%と高い結果となった。
- 鉄道は、山川地域で最も低く、3割程度であった。



▲ 利用できる公共交通の状況(交通手段)

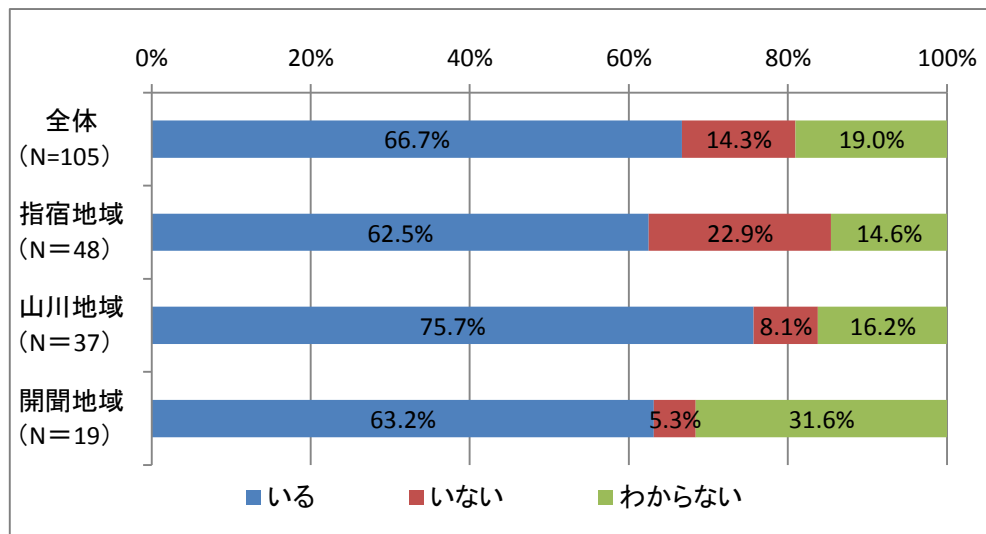
②公共交通の状況

<公共交通を利用している人の状況>

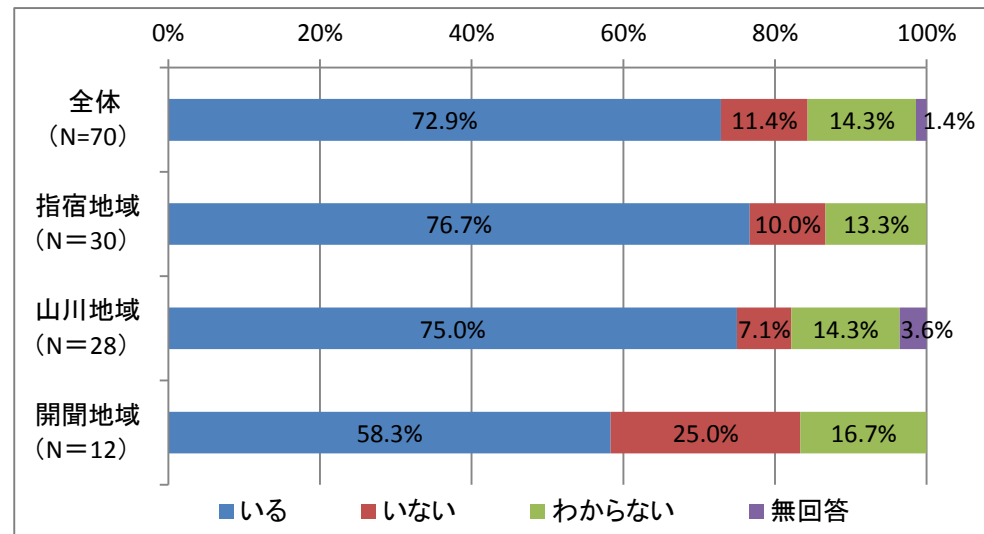
- 全体では、「公共交通を利用している人がいる」という回答が約68%であるのに対し、「公共交通を利用している人はいない」という回答は、約14%となる。
- 地域別にみると、山川地域では、公共交通を利用している人が多く、指宿地域では、公共交通を利用している人が少ない傾向となった。

<イッシーバスの利用状況>

- 全体では、約73%がイッシーバスの利用者がいると回答しており、利用がないと回答した自治会長は1割程度である。
- 地域別にみると、開聞地域では、イッシーバスの利用者がいないと回答した自治会長が25%と他の地域に比べて多い結果になった。



▲ 公共交通を利用している人の状況



▲ イッシーバスの利用状況

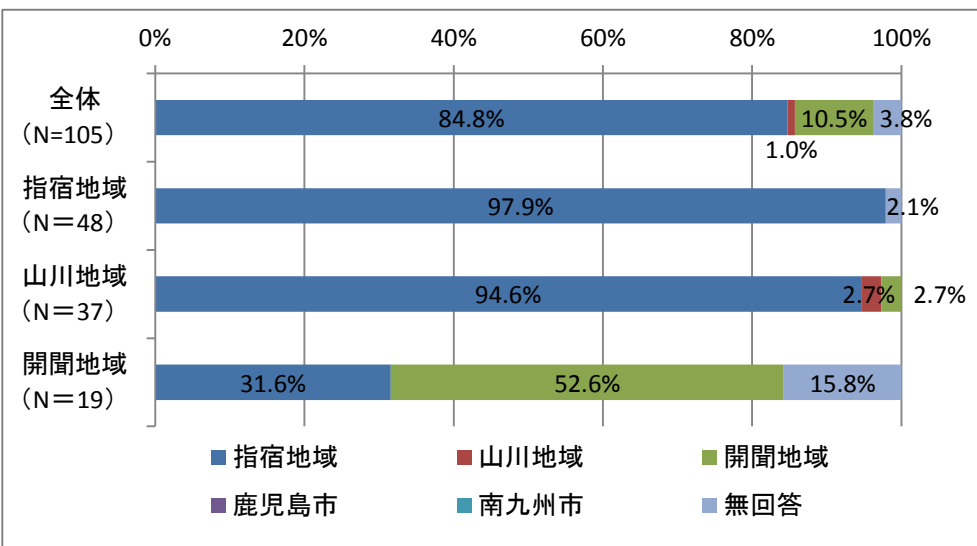
②公共交通の状況

<買い物に出かける場所>

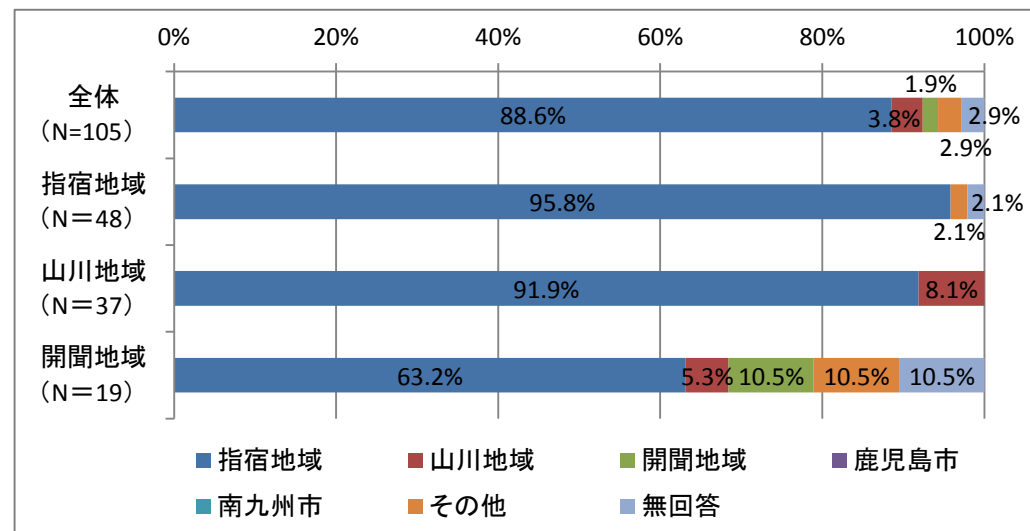
- 全体では、「指宿地域」が約85%で、「開聞地域」が約11%となった。
- 地域別にみると、指宿地域、山川地域では「指宿地域」という回答が大半を占めたのに対し、開聞地域では、過半数が「開聞地域」と回答した結果となった。

<通院に出かける場所>

- 全体では、「指宿地域」が約89%で最も多くなった。
- 地域別にみると、指宿地域、山川地域では、9割以上が「指宿地域」と回答したのに対し、開聞地域で「指宿地域」を選択した自治会長は、約6割程度となった。



▲ 買い物に出かける場所



▲ 通院で出かける場所

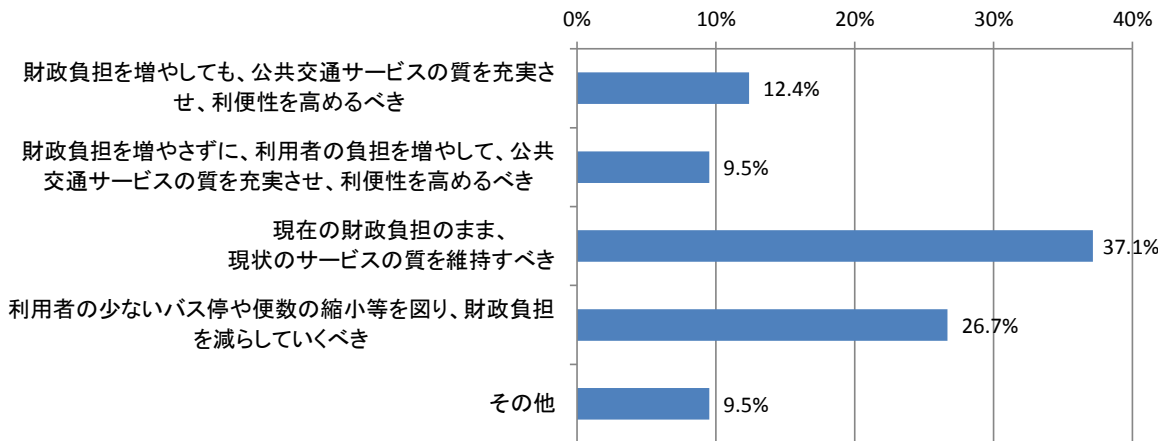
③今後の公共交通に対する意向

<イッシーバスの今後の運行>

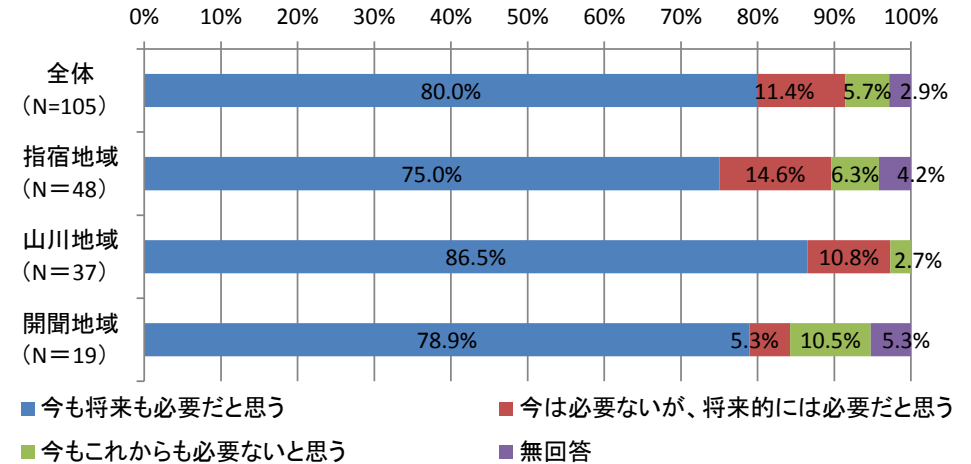
- 「現状の財政負担のまま、現状のサービスの質を維持すべき」が約37%で最も多く、次いで、「利用者の少ないバス停や便数の縮小等を図り、財政負担を減らしていくべき」が、約27%であった。

<公共交通の必要性>

- 全体として、公共交通を必要であるという意見が大半を占めた。
- 地域別にみると、山川地域では、他の地域に比べて、「今も公共交通を必要である」という意見の割合が高く、指宿地域では、将来的に必要であるという意見の割合が、他の地域に比べて高かった。
- 開間地域では、1割の自治会長が、公共交通を必要ないと思っている結果となった。



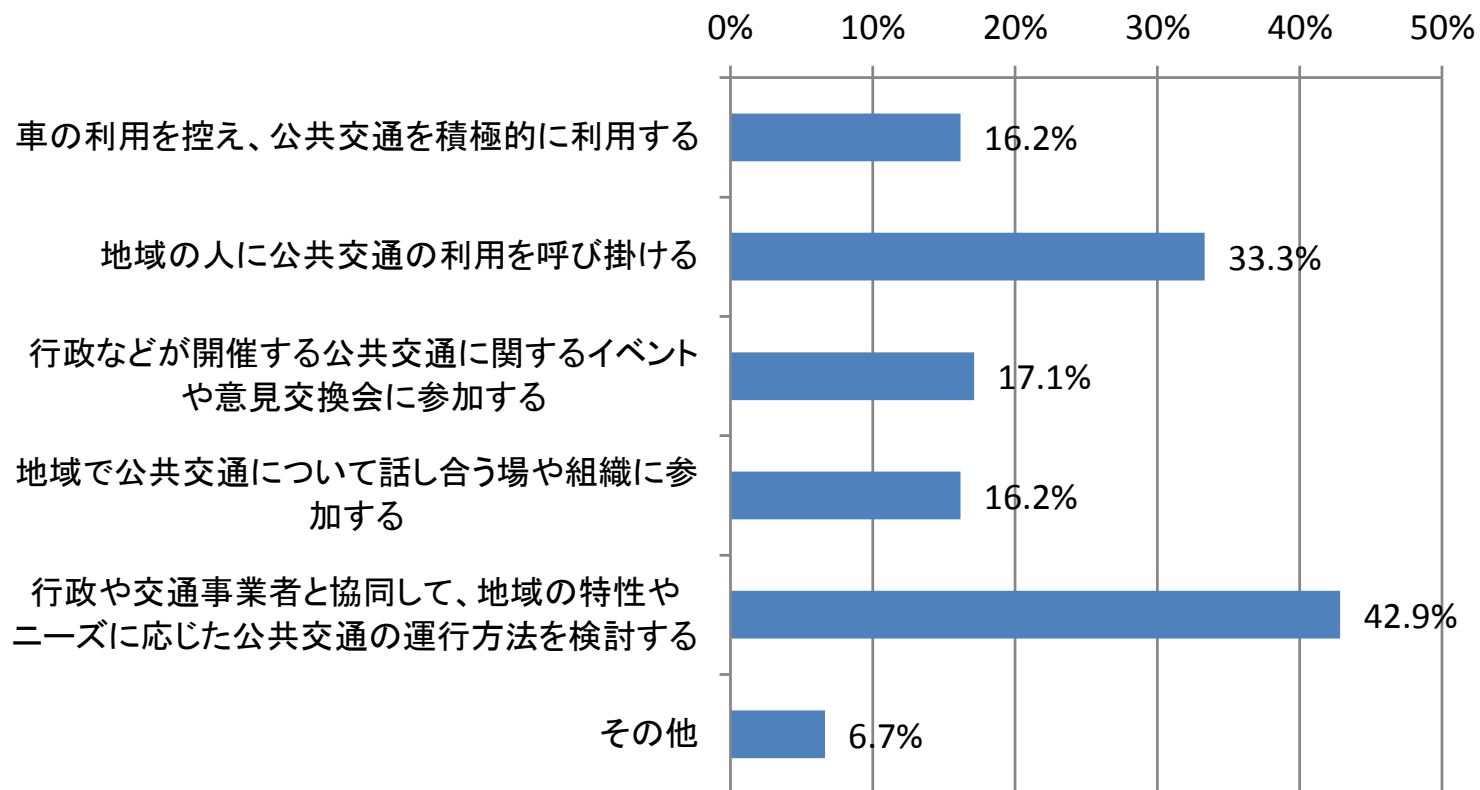
▲ イッシーバスの今後の運行



▲ 公共交通の必要性

③今後の公共交通に対する意向

- 公共交通に対する取り組みとしては、行政や交通事業者と協同して、地域に応じた公共交通の運行方法を検討するという意見が、約43%で最も多く、次いで、「地域の人に公共交通の利用を呼びかける」という意見が、約33%となった。
- 一方で、「車の利用を控え、公共交通を積極的に利用する」という意見は、約16%程度であった。



▲ 市民の取り組みに対する意向

(2) イッシーバス乗込み調査

<調査概要>

調査目的	指宿市内を運行している市内循環バス（イッシーバス）の各路線の詳細な利用実態の把握と、利用者の公共交通に対する満足度や要望などを把握するため
調査方法	指宿市循環バス（イッシーバス）に乗り込み、乗車している利用者に対して、直接対話形式により、イッシーバスの利用実態や要望等を把握
実施期間	平成29年10月30日、10月31日
調査対象	イッシーバス全路線 (小牧・岩本・宮ヶ浜線、尾下・鰻・成川線、開聞・徳光・成川線、池田・東方線)
回収票数	小牧・岩本・宮ヶ浜線：45票 尾下・鰻・成川線：9票 開聞・徳光・成川線：38票 池田・東方線：23票

<調査結果（主要施設ヒアリング調査）>

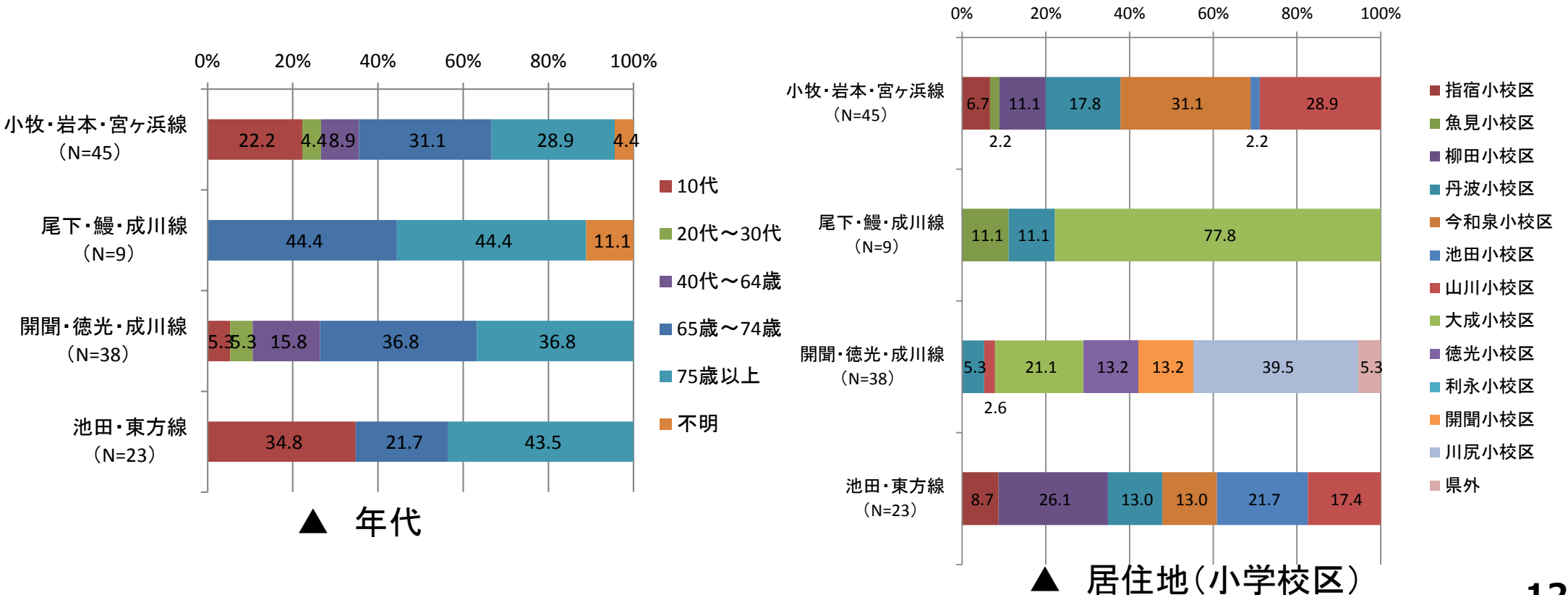
①利用者属性（年代・居住地）

<年代>

- 4路線とも65歳以上の高齢者の割合が6割以上となり、なかでも「尾下・鰻・成川線」では約9割を占めている。
- 「小牧・岩本・宮ヶ浜線」、「池田・東方線」では、「10代」の利用者の割合も高く、高齢者に次いで、多く利用している。

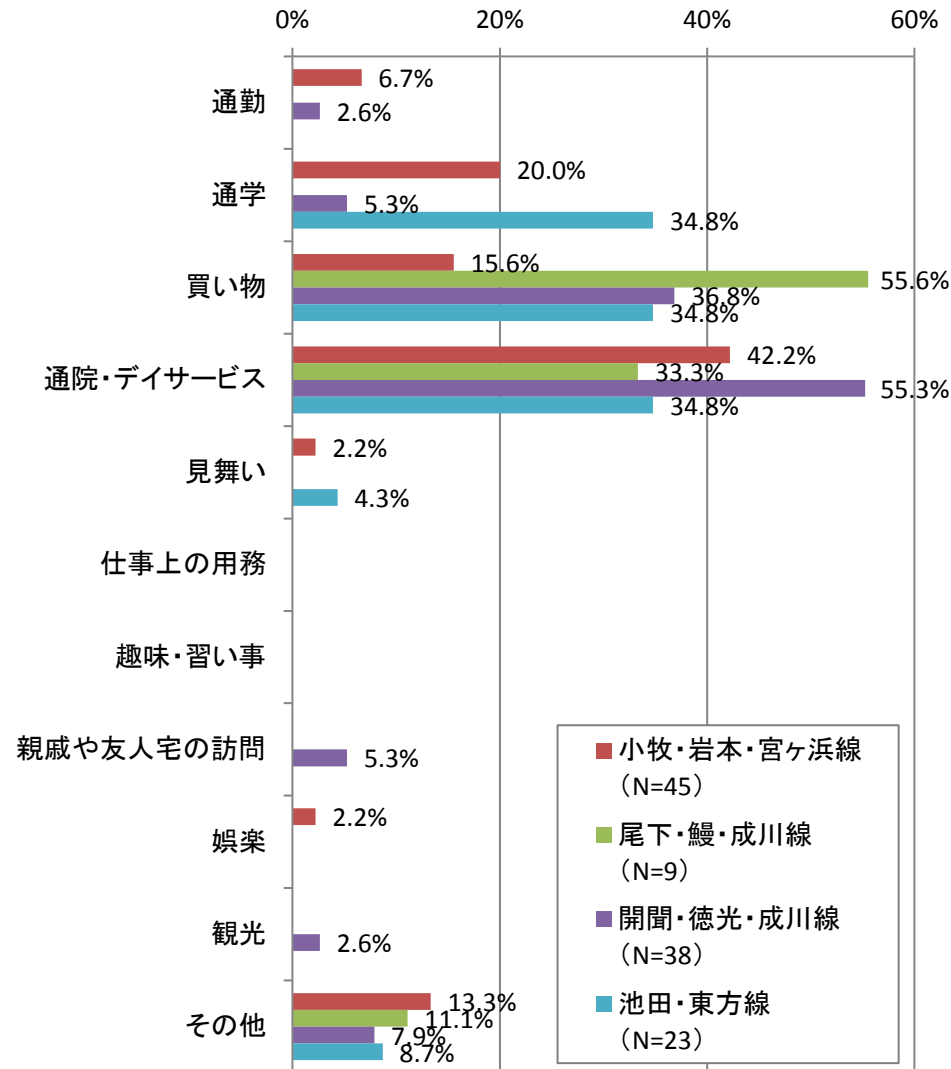
<居住地>

- 「尾下・鰻・成川線」については、他の3路線に比べて、一部の居住地の市民に利用されている傾向がみられる。



②イッシーバスの利用状況

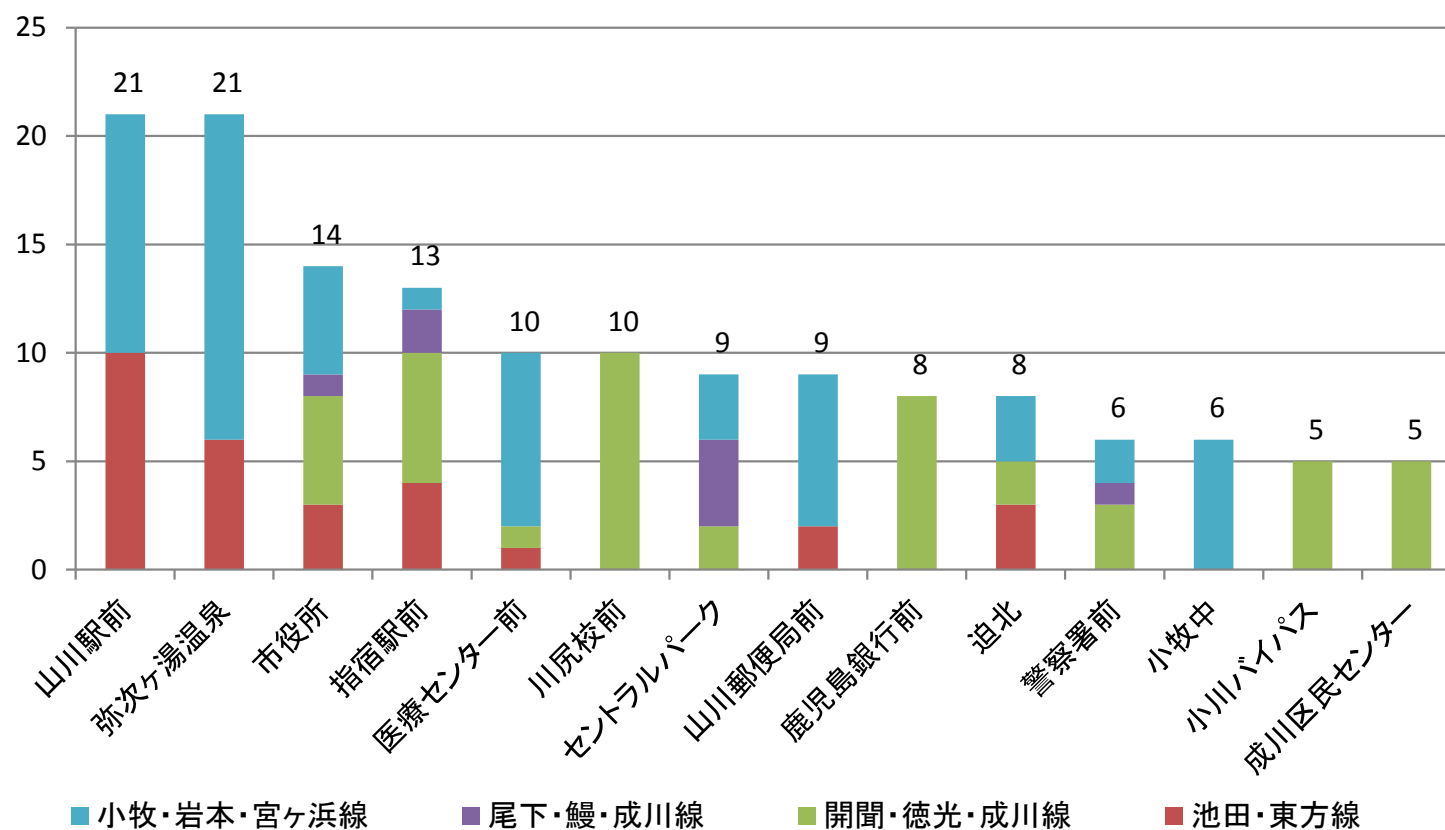
- 「小牧・岩本・宮ヶ浜線」では、「通院・デイサービス」が約42%を占め、次いで「通学」が約20%となる。
- 「尾下・鰻・成川線」では、「買い物」が約56%を占め、次いで「通院・デイサービス」が約33%となる。
- 「開聞・徳光・成川線」では、「通院・デイサービス」が約56%を占め、次いで「買い物」が約37%となる。
- 「池田・東方線」では、「買い物」、「通院・デイサービス」、「通学」が、それぞれ約35%となっている。



▲ 外出目的

② イッシーバスの利用状況

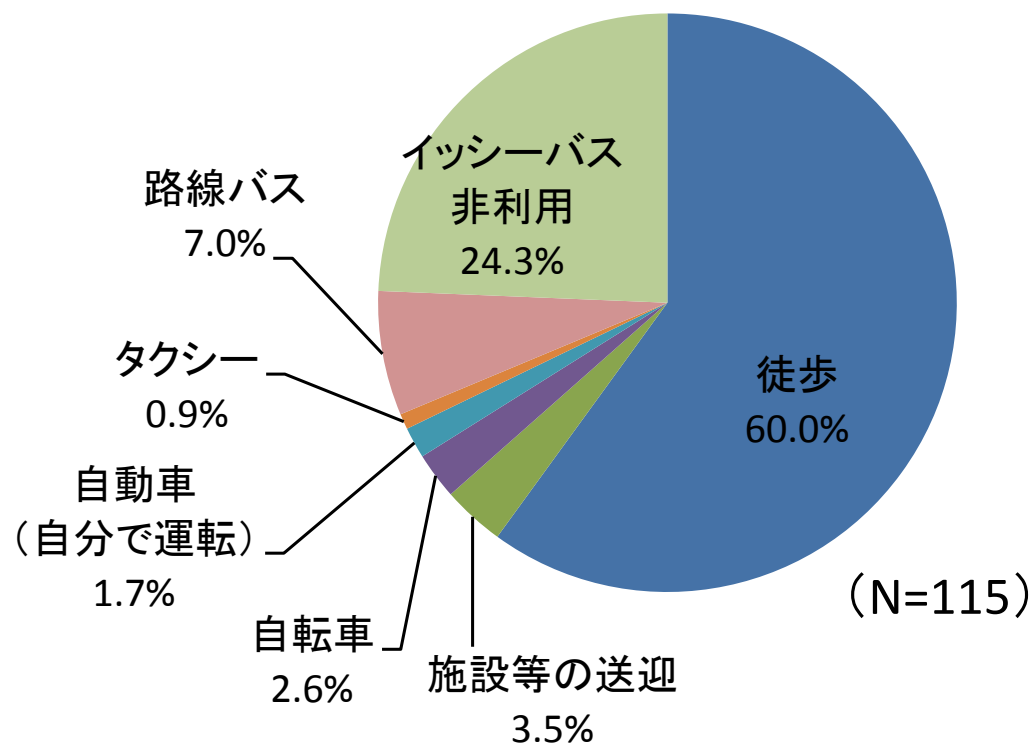
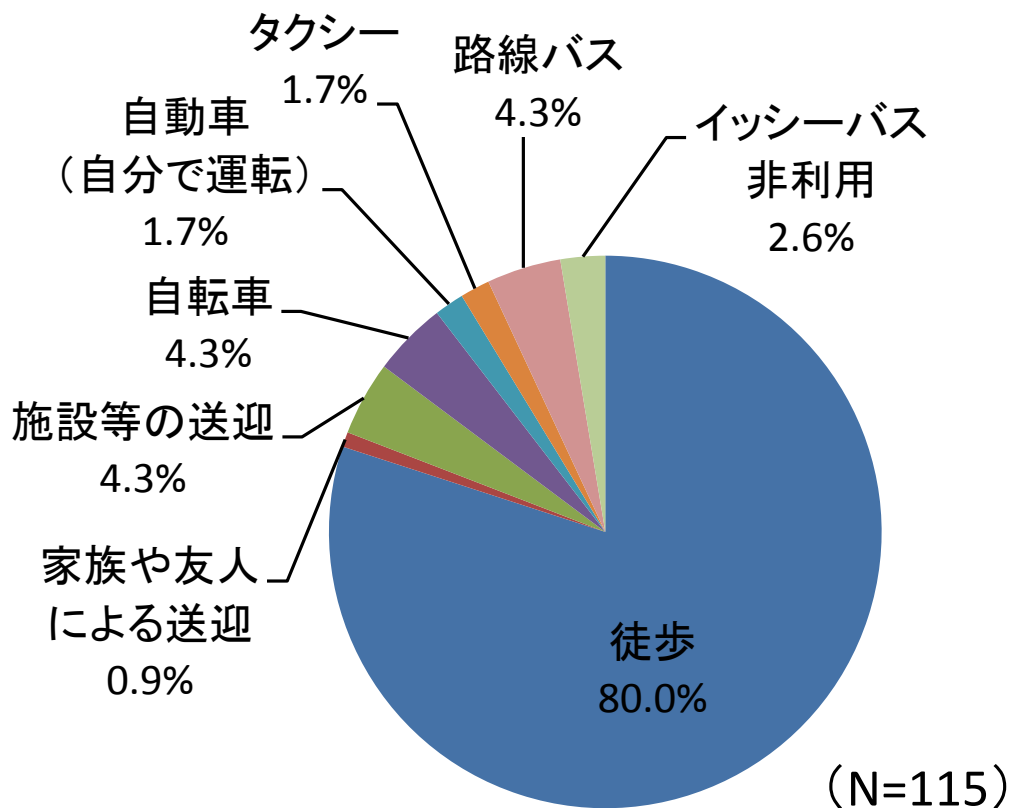
- 最も乗降が多かったバス停は、「山川駅前」と「弥次ヶ湯温泉」の21人となり、次いで市役所（14人）、指宿駅前（13人）となる。
- 10人以上乗降があるバス停において、「川尻校前」のみ、「開間・徳光・成川線」の一路線のみによる乗降であった。



▲ バス停別乗降数

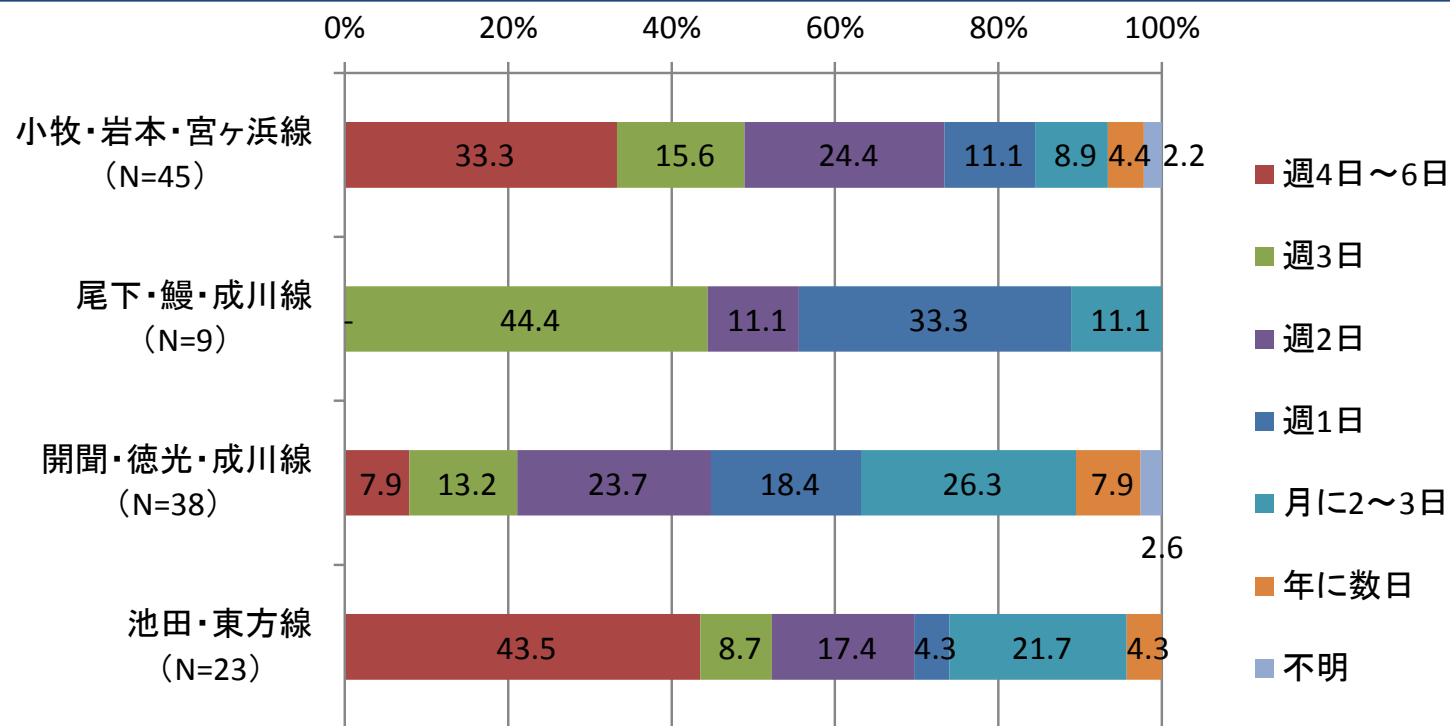
② イッシーバスの利用状況

- バス停までの移動手段としては、行き、帰りともに「徒歩」が最も多い結果となった。
- 徒歩以外の移動手段として、行きでは、「施設等の送迎」、「自転車」、「路線バス」がそれぞれ約4%となり、帰りでは、路線バスが約7%となった。
- イッシーバスを片道しか利用していない利用者については、行きだけ利用している利用者が、約24%と帰りだけ利用している利用者（約3%）に比べて大幅に多い結果となっている。



② イッシーバスの利用状況

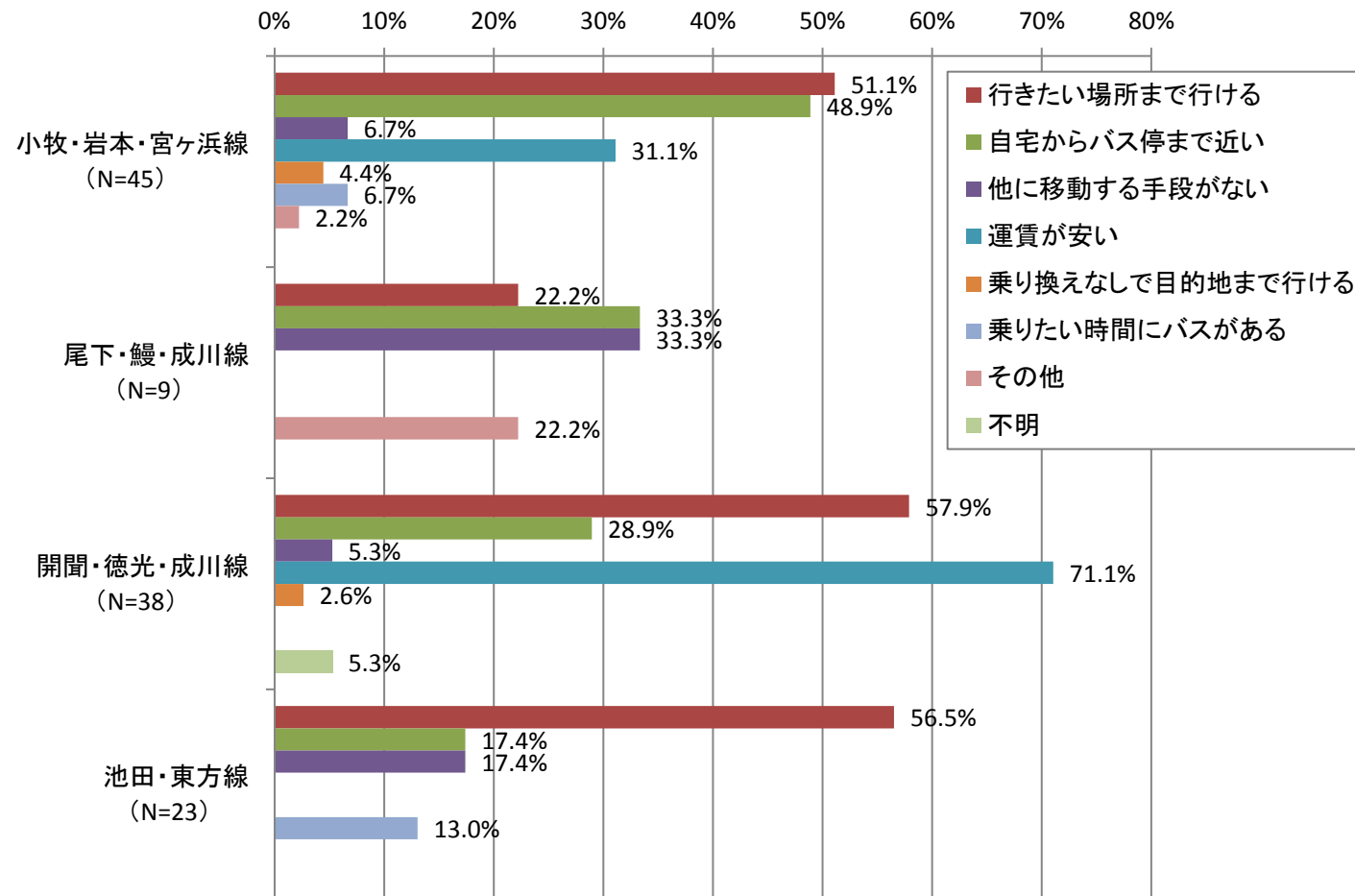
- 「小牧・宮ヶ浜線」、「池田・東方線」では、週4日以上の利用が最も多く、「小牧・宮ヶ浜線」では、約33%、「池田・東方線」では、約44%となる。
- 「尾下・鰻・成川線」では、「週3日」が最も多く、約44%となる。
- 「開聞・徳光・成川線」は、他の路線と比べて、利用者の利用頻度が少ない傾向となり、「月に2～3日」が最も多く、約26%、次いで「週2日」（約24%）となっている。



▲ イッシーバスの利用頻度

② イッシーバスの利用状況

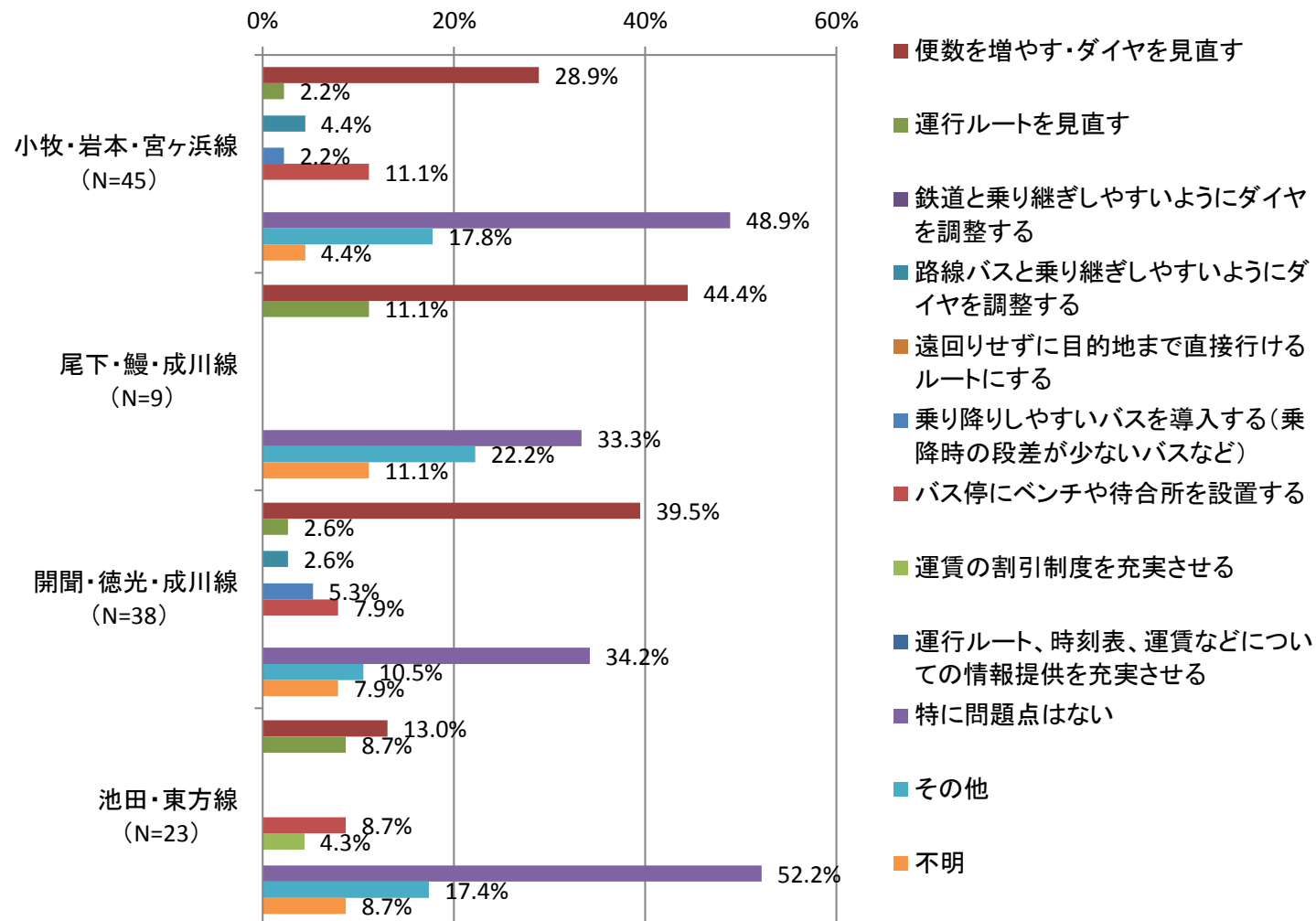
- 「小牧・岩本・宮ヶ浜線」、「池田・東方線」では、「行きたい場所まで行ける」が最も多く、50%を超える結果となった。
- 「開聞・徳光・成川線」では、「運賃が安い」が最も多く、約72%となっている。
- 「尾下・鰻・成川線」では、「自宅からバス停まで近い」、「他に移動する手段がない」が最も多く、約33%となる。



▲ イッシーバスを利用する理由

③ イッシーバスの改善点

- 「小牧・岩本・宮ヶ浜線」、「池田・東方線」では、「特に問題点はない」が最も多く、半数程度を占める。
- 「尾下・鰻・成川線」、「開門・徳光・成川線」では、「便数を増やす・ダイヤを見直す」が最も多く、4割程度となっている。



▲ イッシーバスに対する改善点

3. 主要施設・交通拠点ヒアリング調査

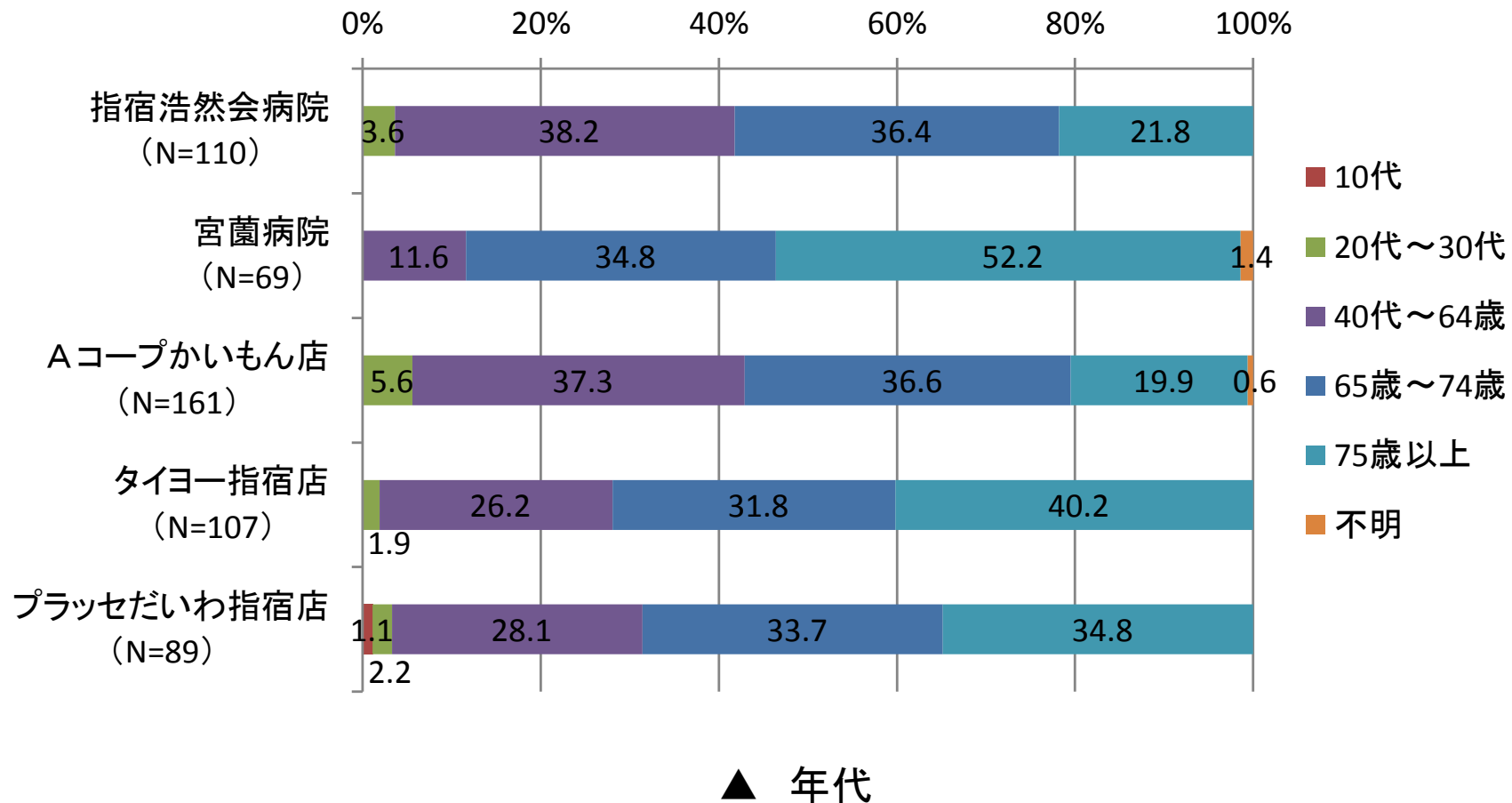
<主要施設・交通拠点ヒアリング調査 調査概要>

調査目的	指宿市内の主要な医療施設、商業施設、鉄道駅における利用者に対して、施設までの移動手段や利用頻度等に関して、聞き取り調査を実施し、施設までの移動手段や市内の公共交通に対する課題、問題点等を把握する。
調査方法	直接対話形式による聞き取り
実施期間	平成29年10月26日、10月27日、12月4日、12月5日
対象施設	(医療施設) 指宿浩然会病院、宮菌病院 (商業施設) Aコープかいもん店、タイヨー指宿店、プラッセだいわ指宿店 (交通拠点施設) 指宿駅、山川駅
回収票数	指宿浩然会病院：110票、宮菌病院：69票、Aコープかいもん店：161票 タイヨー指宿店：107票、プラッセだいわ指宿店：89票

<主要施設ヒアリング調査 結果>

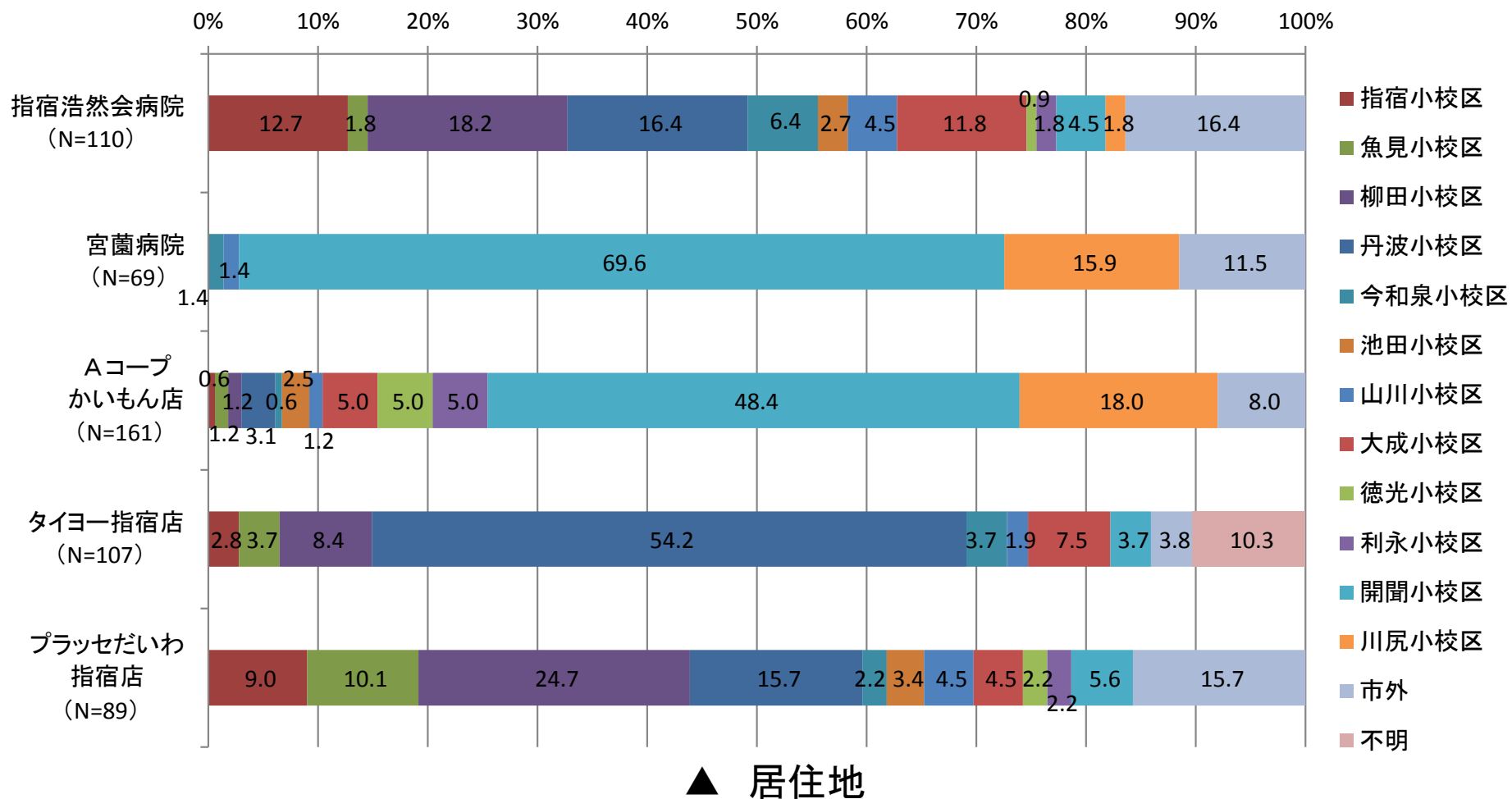
①属性

- 全ての施設において、40歳以上が大半を占めている。
- また、全ての施設で過半数が65歳以上の高齢者となっている。



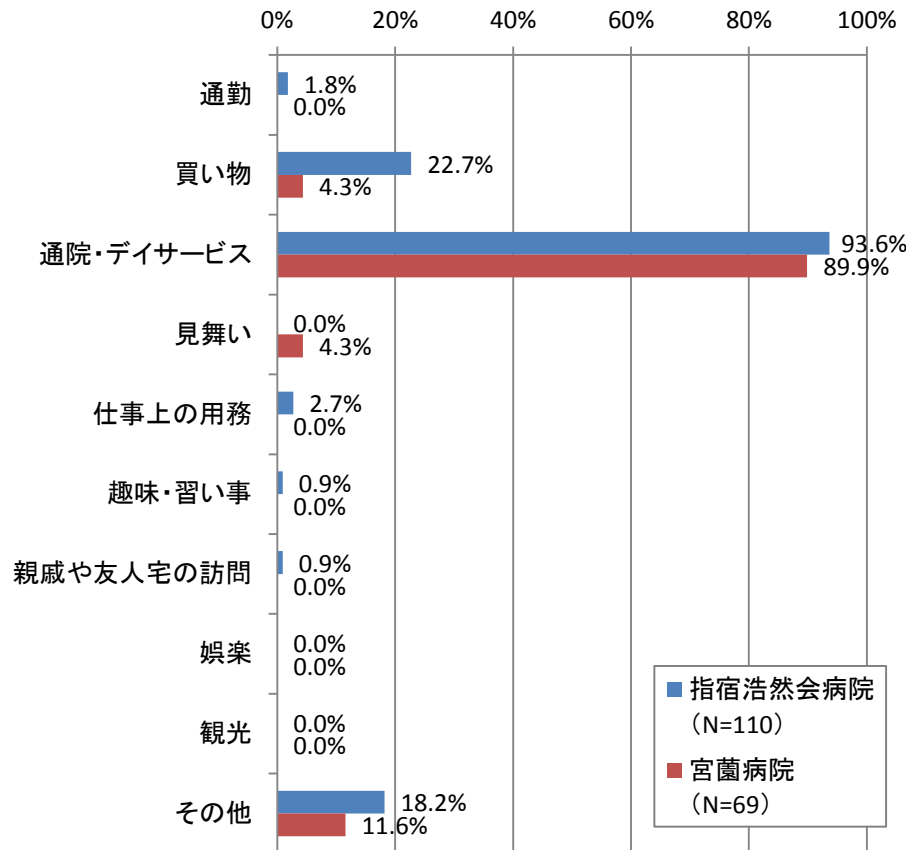
①属性

- 指宿浩然会病院およびプラッセだいわでは、複数の居住地の市民から利用されており、広範囲からの利用がある結果となった。
- 宮菌病院、Aコープは、開聞小校区の利用が最も多く、次いで川尻小校区と、過半数が開聞地域の市民による利用となっている。
- タイヨー指宿店では、過半数が丹波小校区の市民による利用となり、周辺住民に多く利用されている結果となった。

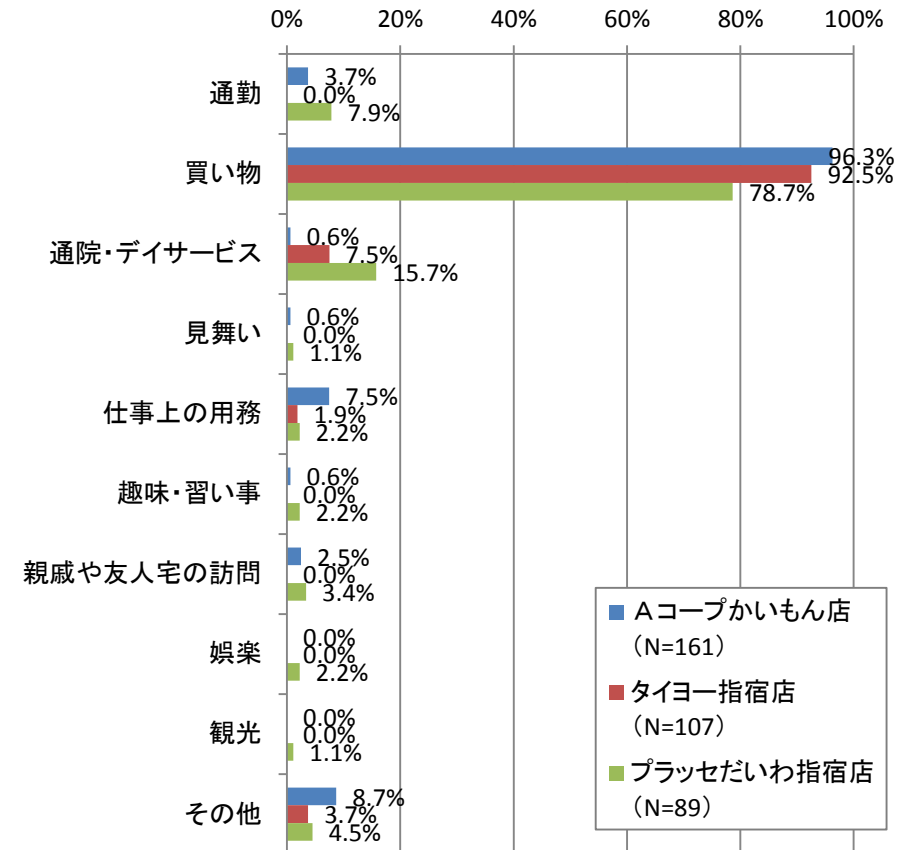


②外出状況

- 医療施設の外出目的について、指宿浩然会病院では、「通院・デイサービス」の目的の他に、「買い物」が約2割程度となっている。
- 商業施設の外出目的について、プラッセだいわ指宿店では、「買い物」の目的の他に、「通院・デイサービス」という回答も約16%となった。



▲ 外出目的(医療施設)



▲ 外出目的(買い物)

②外出状況

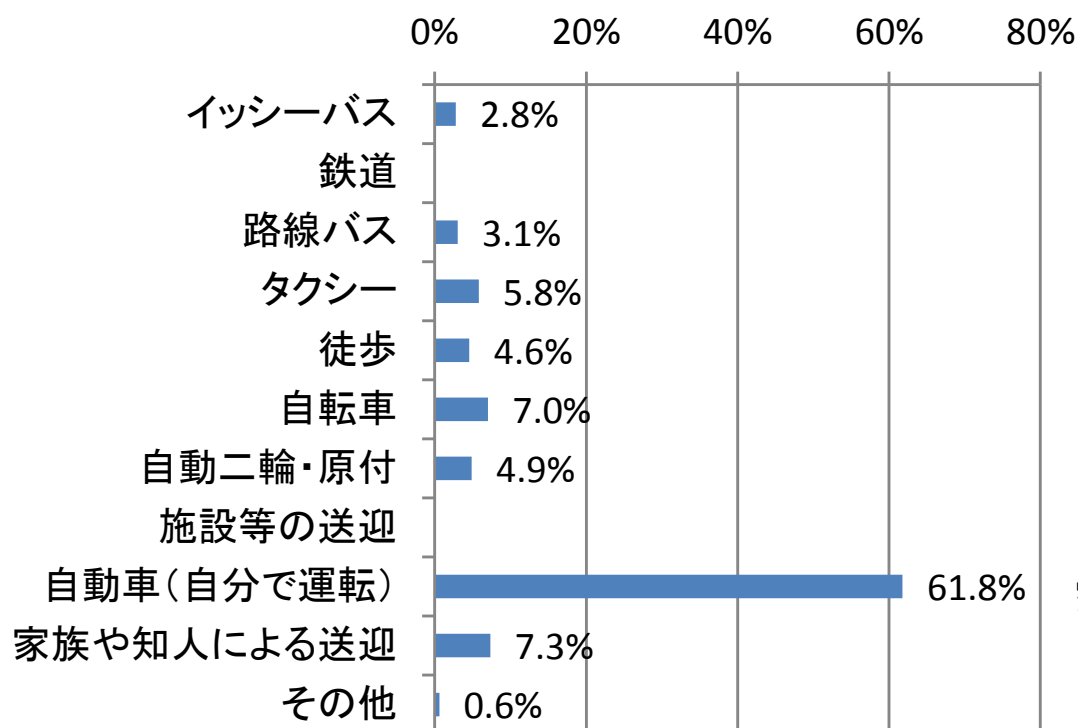
- 全ての施設の移動手段に関して、「自動車（自分で運転）」が最も多い結果となった。
- 施設別にみると、浩然会病院、Aコープかいもん店、プラッセだいわ指宿店では、「自動車（自分で運転）」が半数以上となった一方で、宮園病院、タイヨー指宿店では、4割程度となった。
- 公共交通の利用に関して、タイヨー指宿店では、プラッセだいわ指宿店では、1～2割程度がイッシーバスやタクシーを利用している。

		1位		2位		3位	
指宿浩然会病院	行き	自動車（自分で運転）	71%	家族や知人による送迎	17%	徒歩	5%
	帰り	自動車（自分で運転）	71%	家族や知人による送迎	16%	タクシー	5%
宮園病院	行き	自動車（自分で運転）	42%	施設等の送迎	25%	家族や知人による送迎	22%
	帰り	自動車（自分で運転）	42%	施設等の送迎	29%	家族や知人による送迎	20%
Aコープかいもん店	行き	自動車（自分で運転）	81%	家族や知人による送迎	8%	自動二輪・原付	5%
	帰り	自動車（自分で運転）	81%	家族や知人による送迎	9%	自動二輪・原付	5%
タイヨー指宿店	行き	自動車（自分で運転）	36%	自転車	16%	タクシー	15%
	帰り	自動車（自分で運転）	36%	タクシー	16%	自転車	16%
プラッセだいわ指宿店	行き	自動車（自分で運転）	56%	イッシーバス	9%	タクシー	8%
	帰り	自動車（自分で運転）	56%	タクシー	10%	イッシーバス	8%

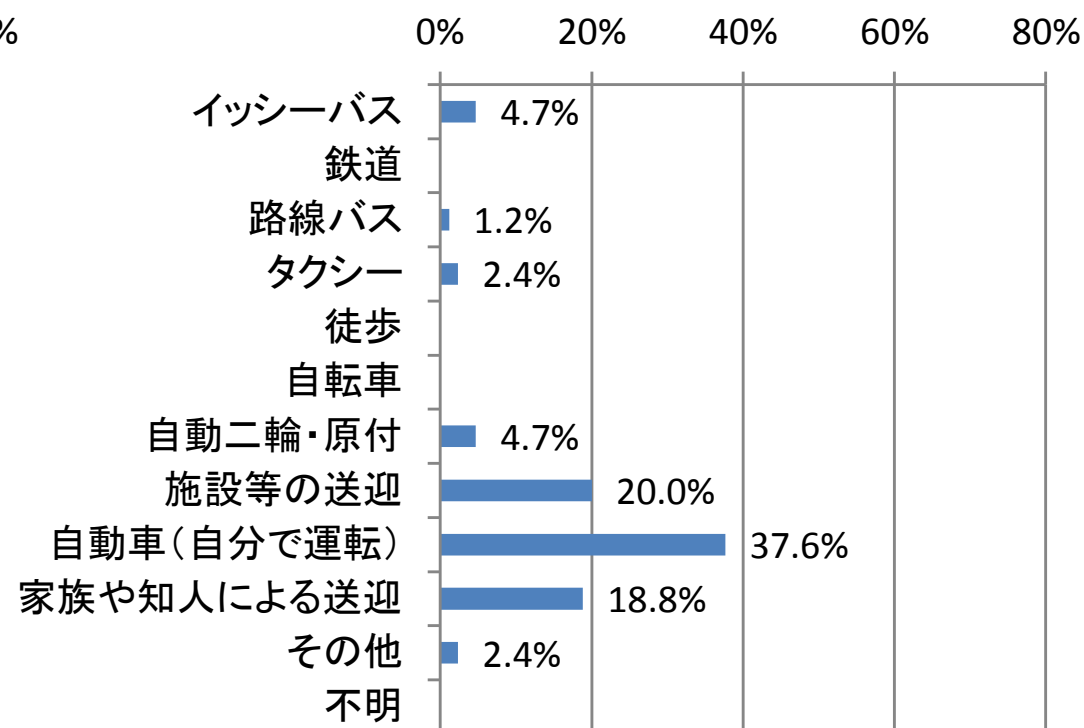
▲ 施設別移動手段(順位)

②外出状況

- 買い物を目的として外出における移動手段に関しては、「自動車（自分の運転）」が最も多く、約62%を占め、次いで「家族や知人による送迎」（約7%）となり、大きく差が開いた。イッシーバスおよび路線バスの利用は、いずれも3%程度となった。
- 通院を目的とした外出における移動手段に関しては、「自動車（自分で運転）」が最も多く、約38%となり、次いで「施設等の送迎」（20%）、「家族や知人による送迎」（約19%）となった。



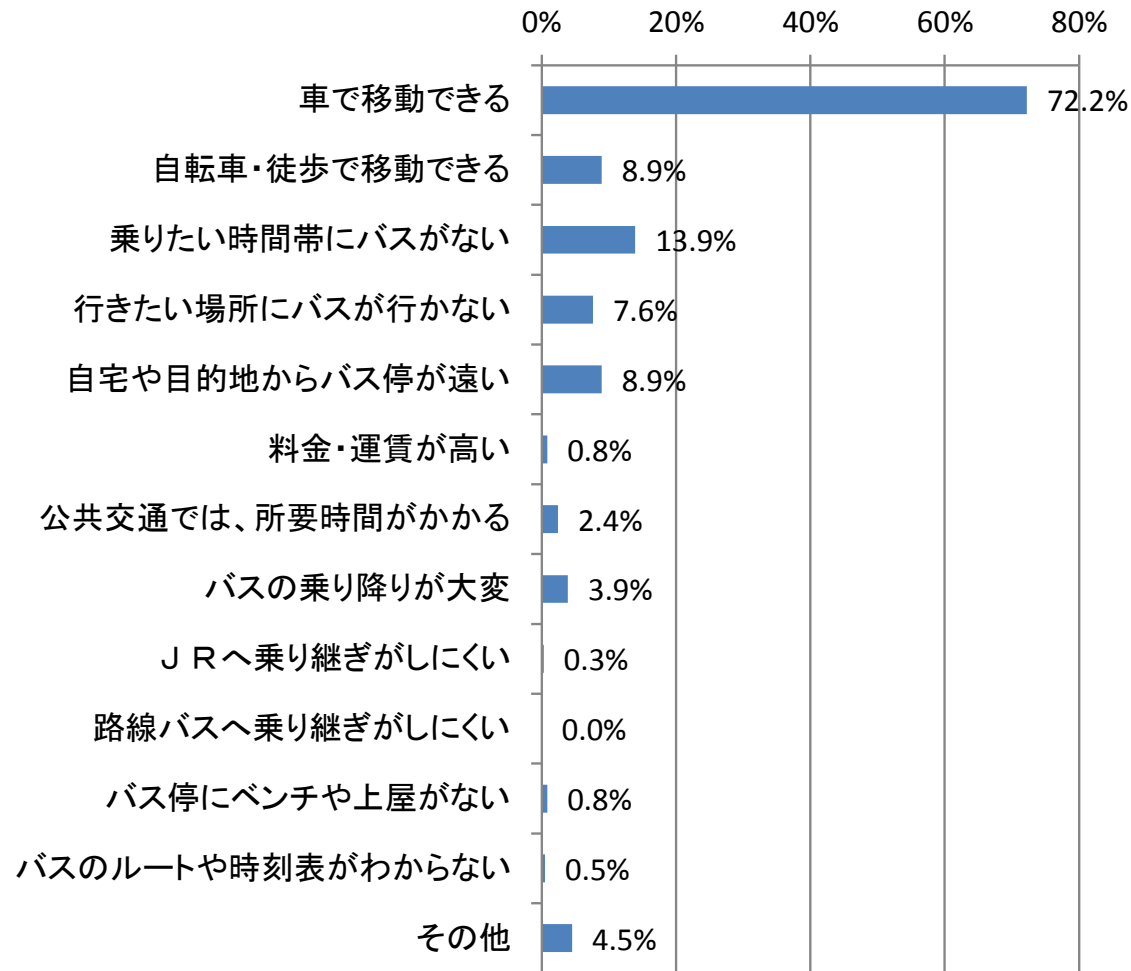
▲ 買い物目的の移動手段



▲ 通院を目的とする移動手段

②外出状況

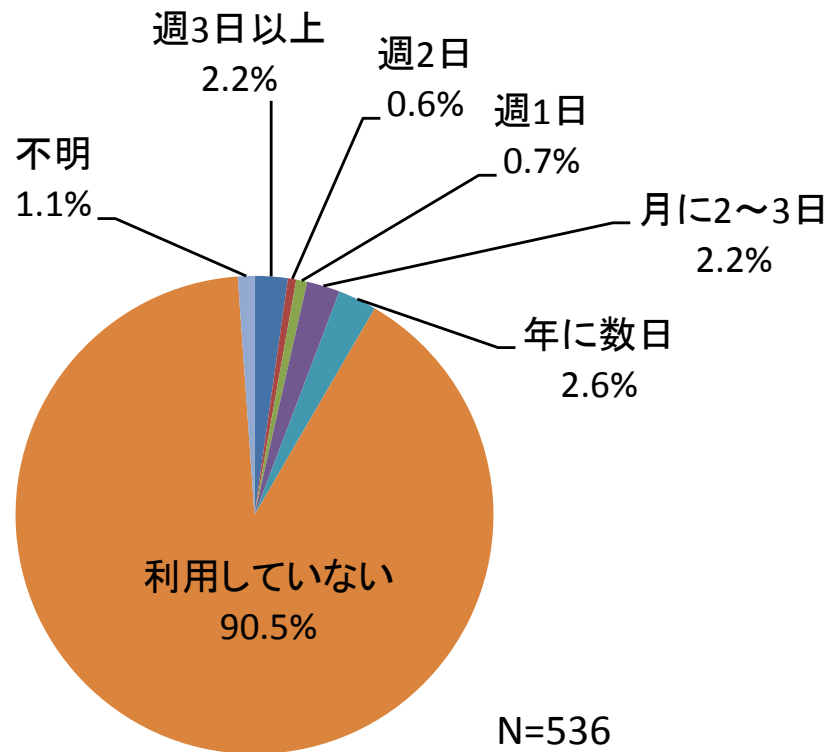
- 公共交通を利用しない理由として、「車で移動できる」が最も多く、約73%を占め、次いで「乗りたい時間帯にバスがない」（約14%）、「自転車・徒歩で移動できる」および「自宅や目的地からバス停が遠い」（約9%）となった。



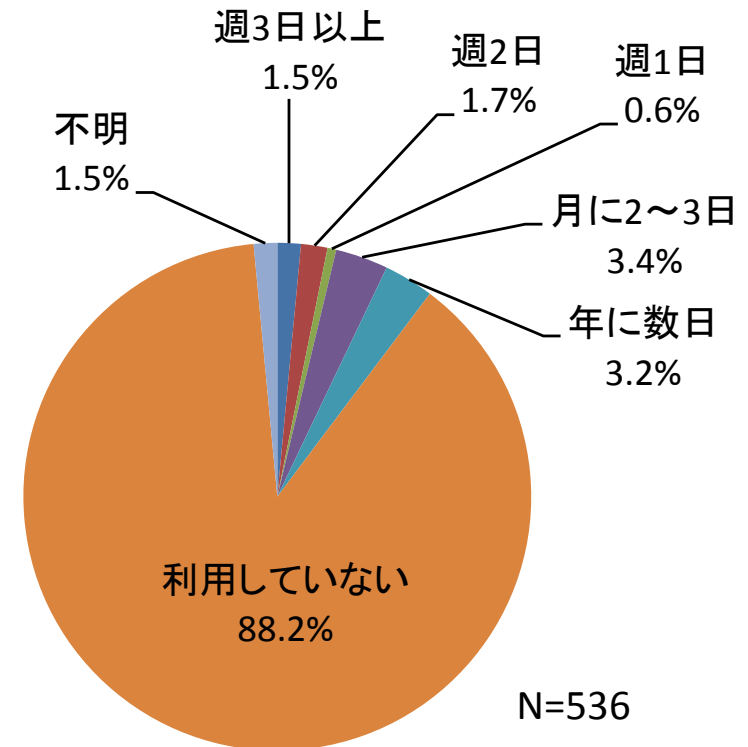
▲ 公共交通を利用しない理由

③公共交通の利用頻度

- 路線バス、イッシーバスともに、「利用していない」が9割程度を占めた。
- 週に1日以上利用する割合に関しては、路線バス、イッシーバスともに、約4%となる。



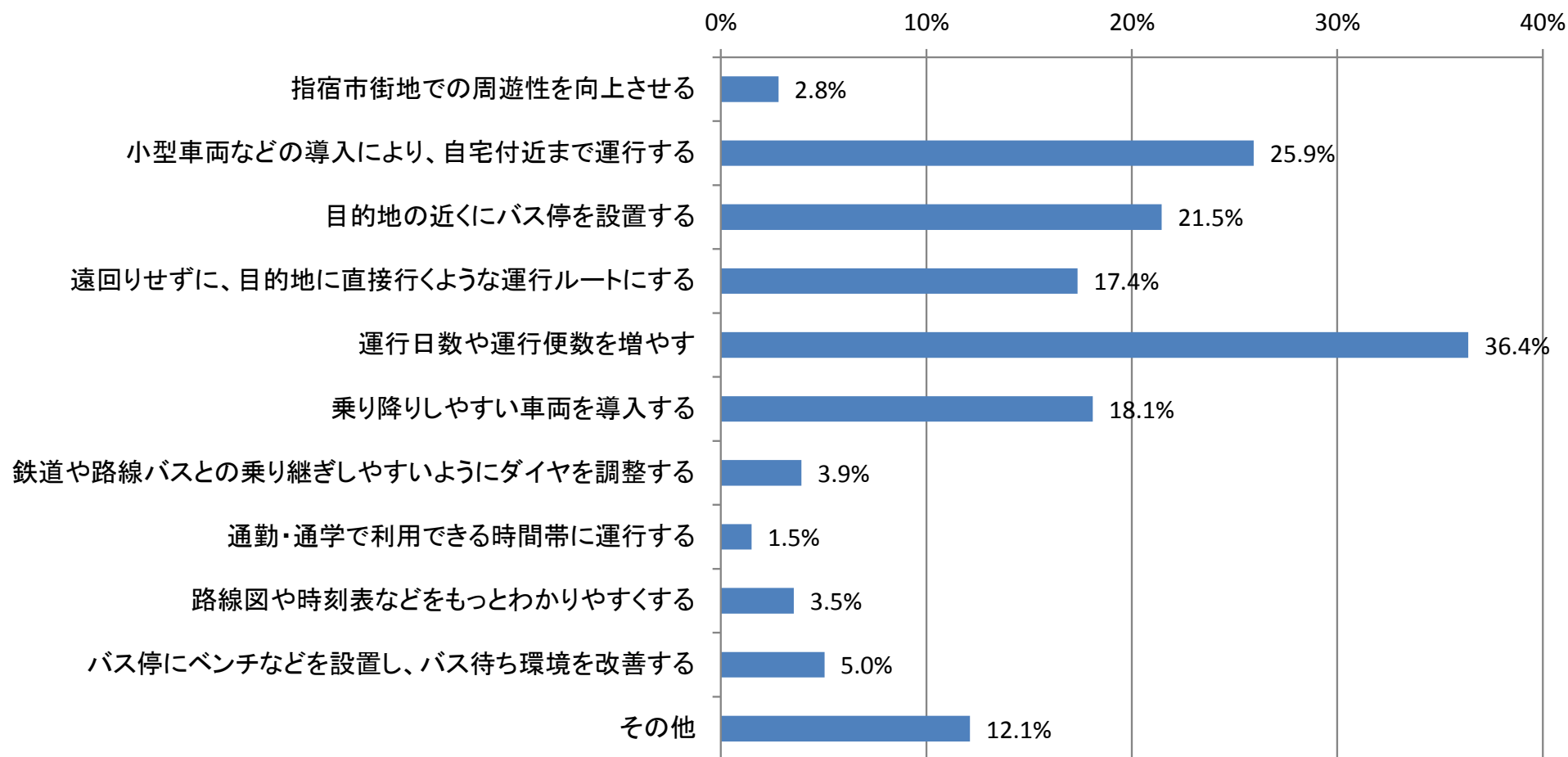
▲ 路線バスの利用頻度



▲ イッシーバスの利用頻度

④公共交通に対する改善点

- 公共交通に対する改善点としては、「運行日数や運行便数を増やす」が最も多く、約36%となり、次いで「小型車両などの導入により、自宅付近まで運行する」（約26%）、「目的地の近くにバス停を設置する」（約22%）となった。

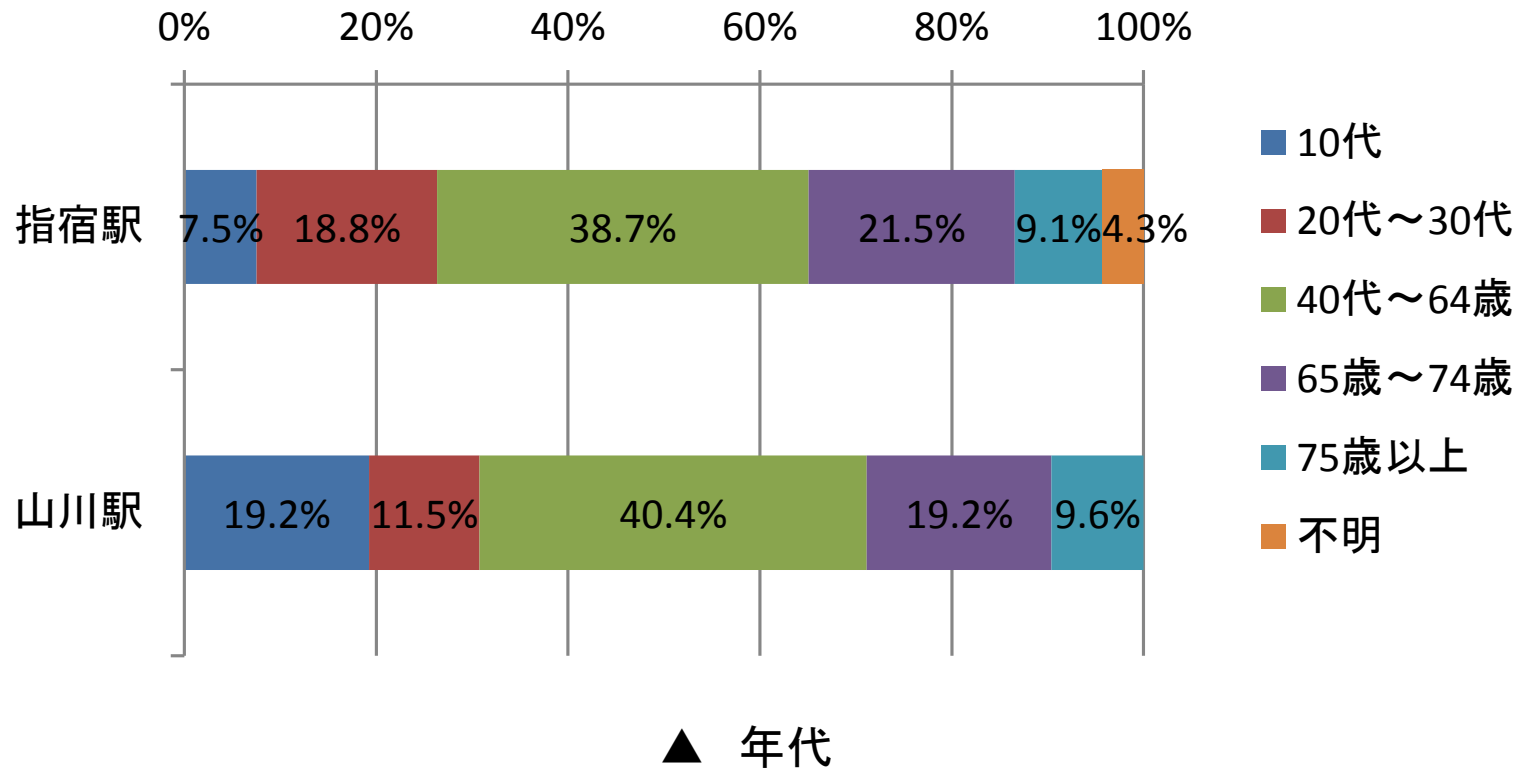


▲ 公共交通に対する改善点

<交通拠点ヒアリング調査 結果>

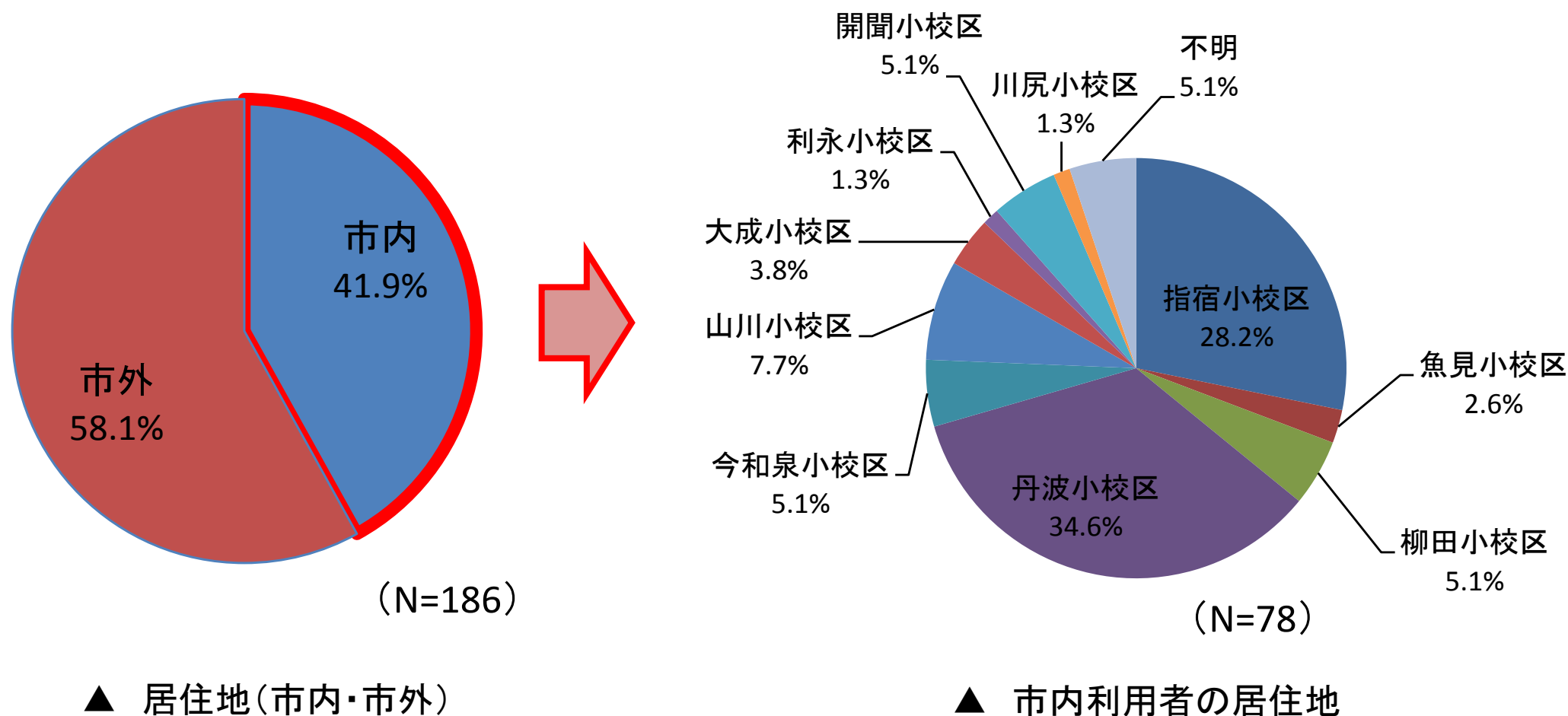
①属性

- 年代に関しては、指宿駅、山川駅ともに40～64歳が最も多く、約4割程度となった。
- 65歳以上の高齢者に関しては、指宿駅、山川駅ともに約3割程度となる。
- 山川駅では、10代の利用者も約2割程度と指宿駅に比べて多い結果となった。



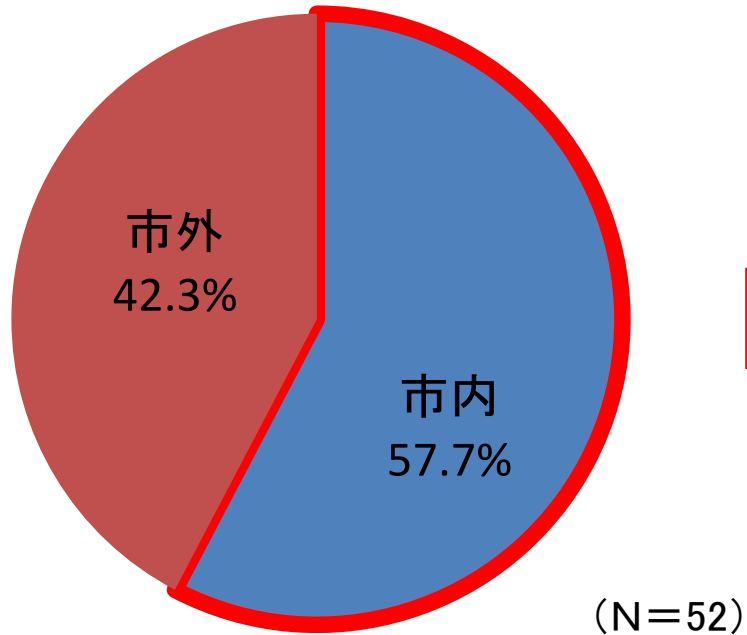
①属性

- 指宿駅の利用者の居住地に関しては、市内が4割程度、市外が6割程度となった。
- 市内利用者の居住地に関しては、丹波小校区が約35%で最も多く、次いで指宿小校区（約28%）となり、指宿駅周辺に居住する市民による利用が多い。

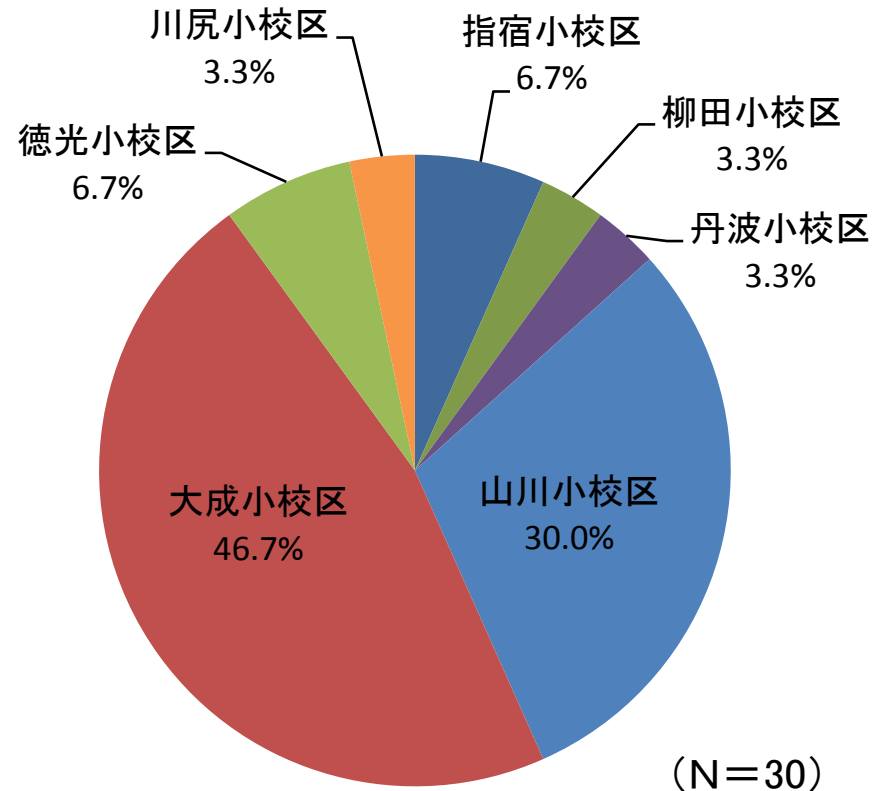
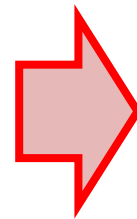


①属性

- 山川駅の利用者の居住地に関しては、市内が6割程度、市外が4割程度となった。
- 市内利用者の居住地に関しては、大成小校区が約47%で最も多く、次いで山川小校区（約30%）となり、8割程度が山川地域の市民による利用となる。



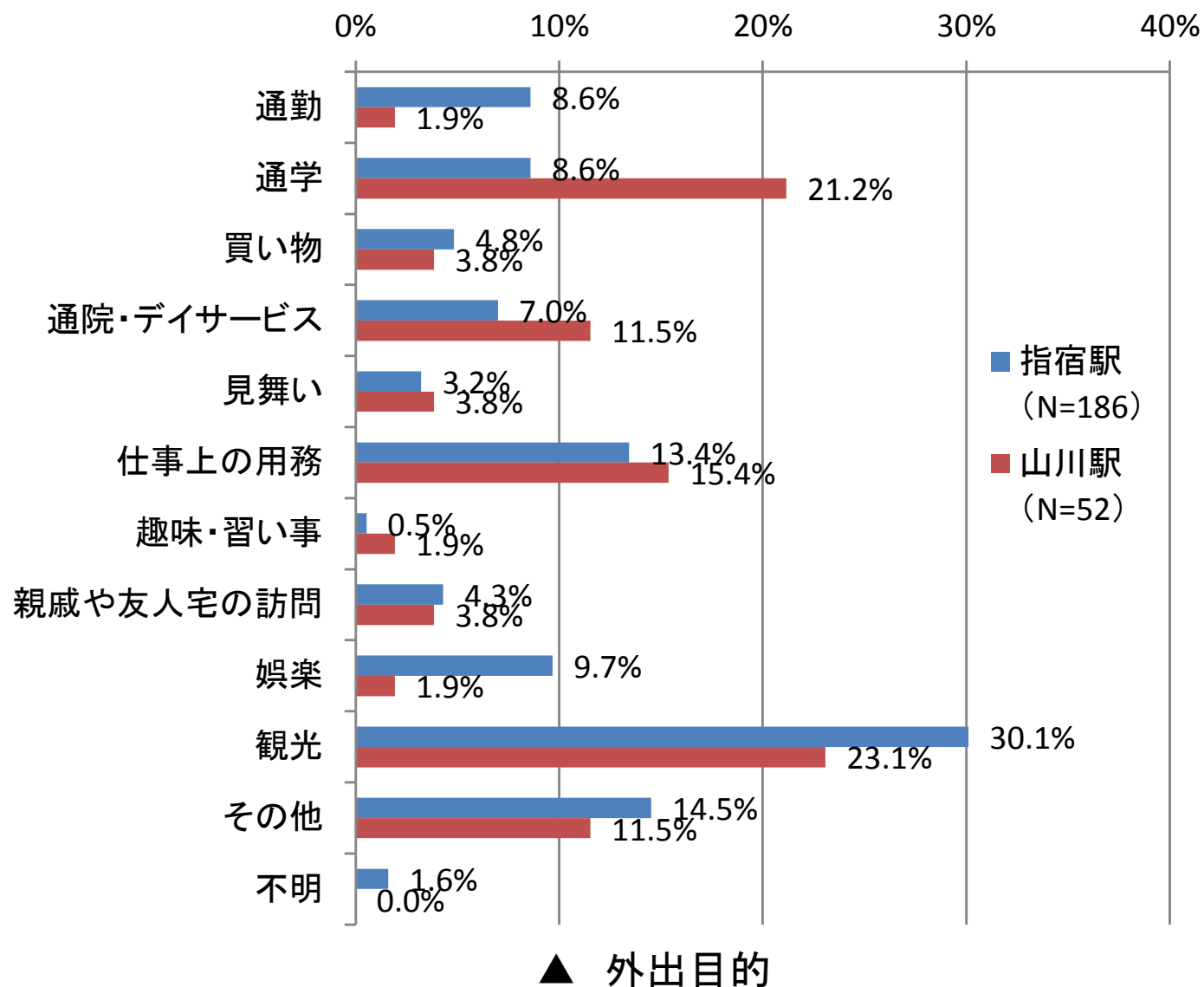
▲ 居住地(市内・市外)



▲ 市内利用者の居住地

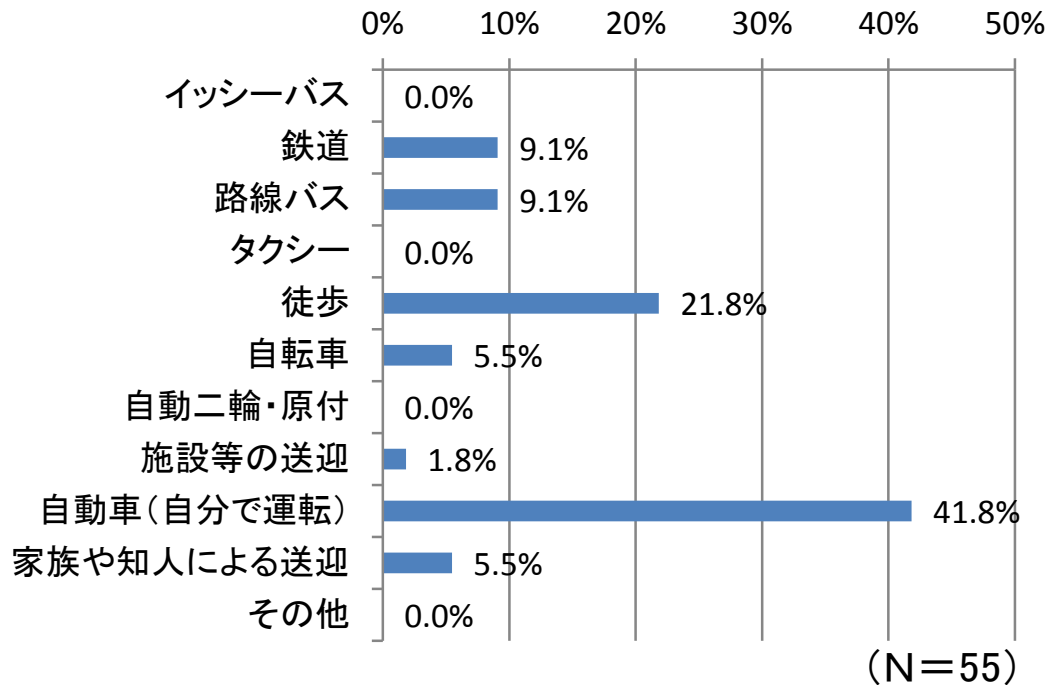
②外出状況

- 外出目的については、指宿駅、山川駅ともに「観光」が最も多く、指宿駅では約30%、山川駅では、約23%を占めている。
- 指宿駅では、その他に、「仕事上の用務」、「娯楽」が1割程度と他の目的に比べて多くなっている。
- 山川駅では、その他に、「通学」が約21%と多くなっている。

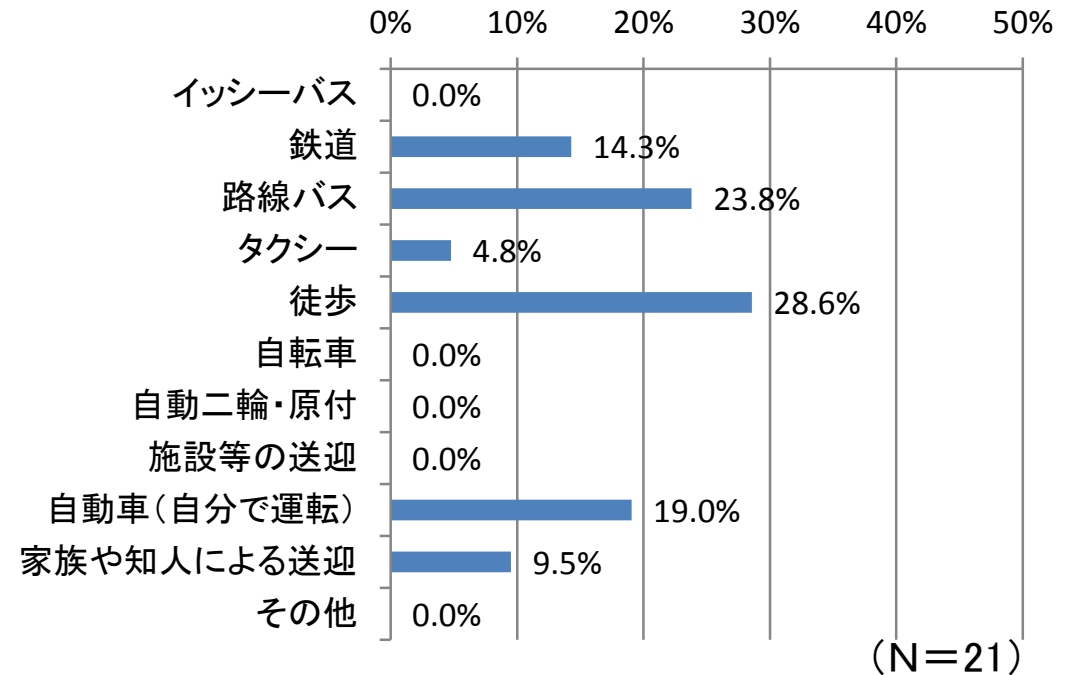


②外出状況（駅から目的地までの移動手段【指宿市民】）

- 指宿駅における、市民の駅から目的地までの移動手段に関しては、「自動車（自分で運転）」が最も多く、約42%を占め、次いで「徒歩」（約22%）となった。
- 山川駅における、市民の駅から目的地までの移動手段に関しては、「徒歩」が最も多く、約29%を占め、次いで「路線バス」（約24%）となった。
- 路線バス、イッシーバスの利用に関しては、指宿駅では路線バスが約9%、山川駅では、約24%であるのに対し、イッシーバスの利用者は、どちらの駅においても見られなかった。



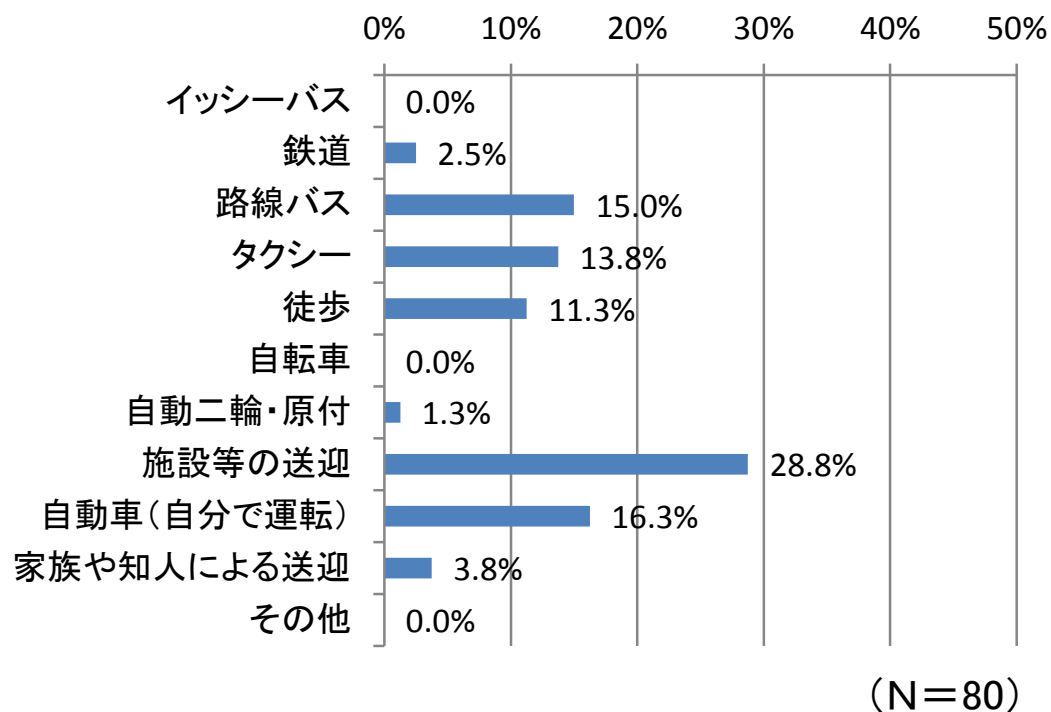
▲ 指宿駅から目的地までの移動手段
（指宿市民）



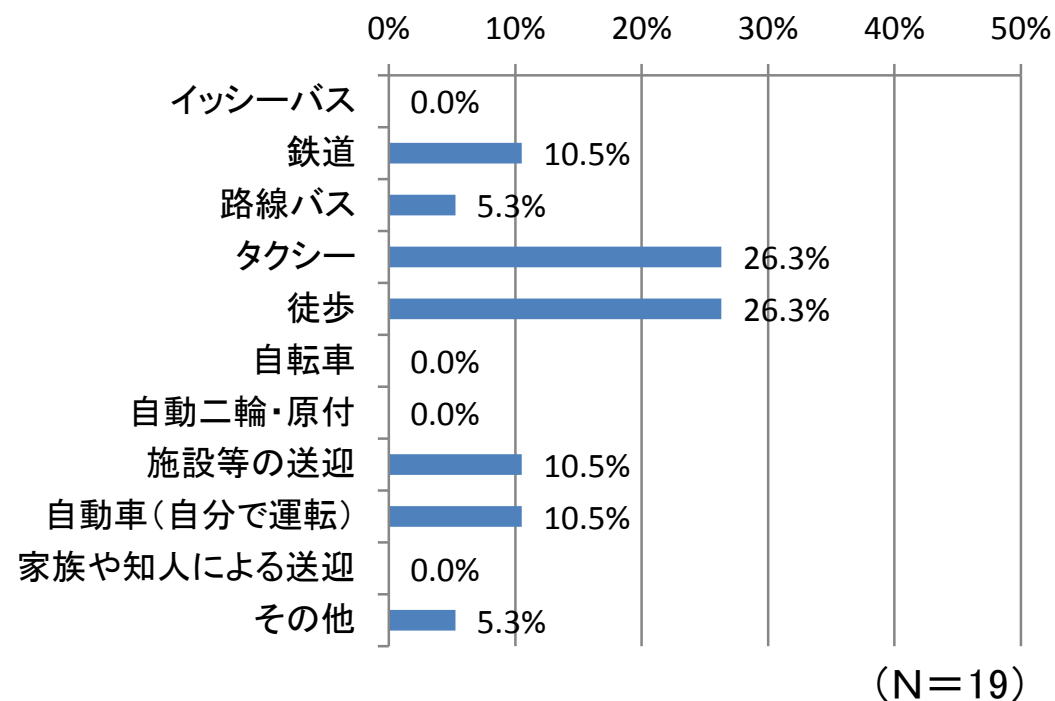
▲ 山川駅から目的地までの移動手段
（指宿市民）

②外出状況（駅から目的地までの移動手段【市外在住者】）

- 指宿駅における、市民の駅から目的地までの移動手段に関しては、「施設等の送迎」が最も多く、約29%を占め、次いで「自動車（自分で運転）」（約16%）、「路線バス」（約15%）となった。
- 山川駅における、市民の駅から目的地までの移動手段に関しては、「タクシー」、「徒歩」が多く、ともに約26%を占めている。



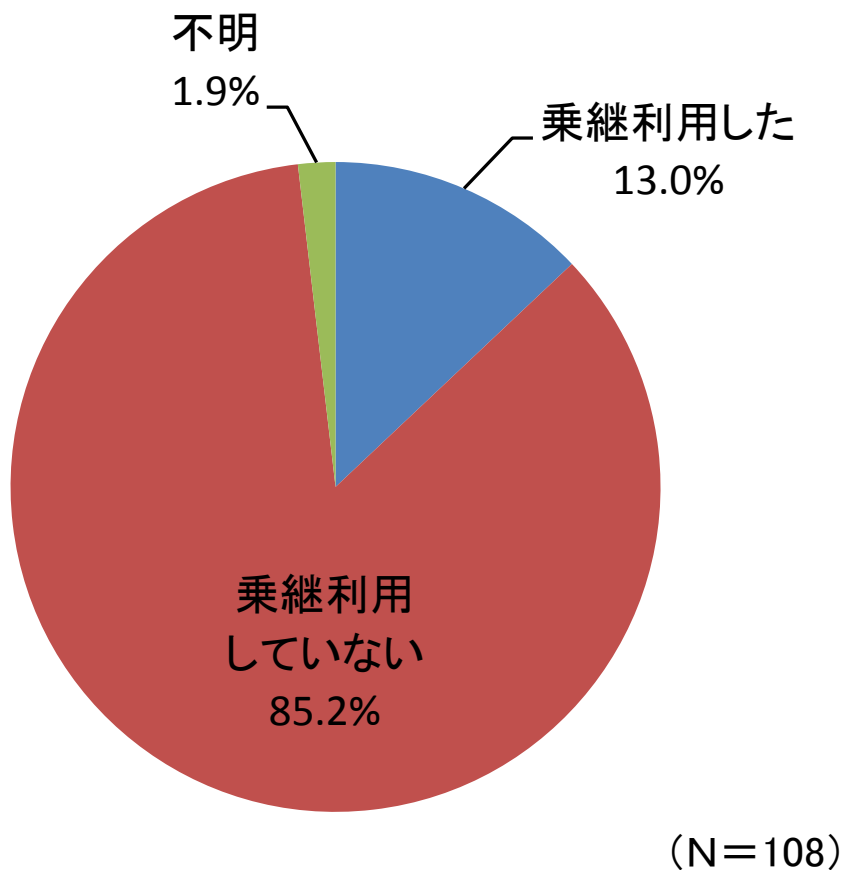
▲ 指宿駅から目的地までの移動手段
（市外在住者）



▲ 山川駅から目的地までの移動手段
（市外在住者）

②公共交通の利用状況

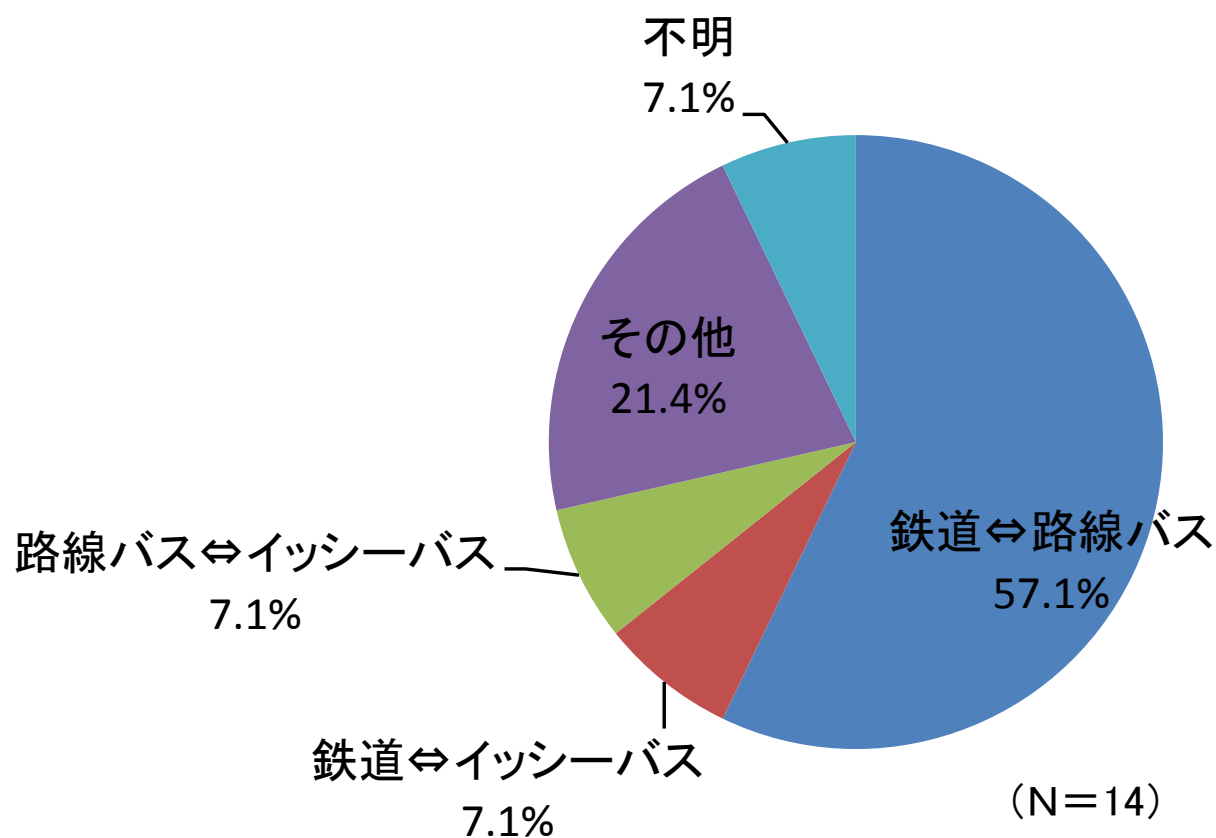
- 市民の指宿市内における公共交通の乗継利用については、「乗継利用した」という回答が約13%で、「乗継利用していない」という回答が約85%となり、あまり乗継利用されていない傾向となった。



- ▲ 市民の直近1ヶ月間での指宿市内における公共交通の乗継利用の状況

②公共交通の利用状況

- 乗り継いだ交通手段としては、鉄道と路線バスが約半数程度で最も多くなった。
- イッシーバスの乗継利用に関しては、鉄道とイッシーバスが約7%、路線バスとイッシーバスが約3%となった。
- 乗継利用の場所としては、指宿駅が6名で最も多く、次いで山川駅（4名）となった。



<乗継利用の場所>

- ・指宿駅
- ・山川駅
- ・南中前

▲ 乗継した移動手段の状況

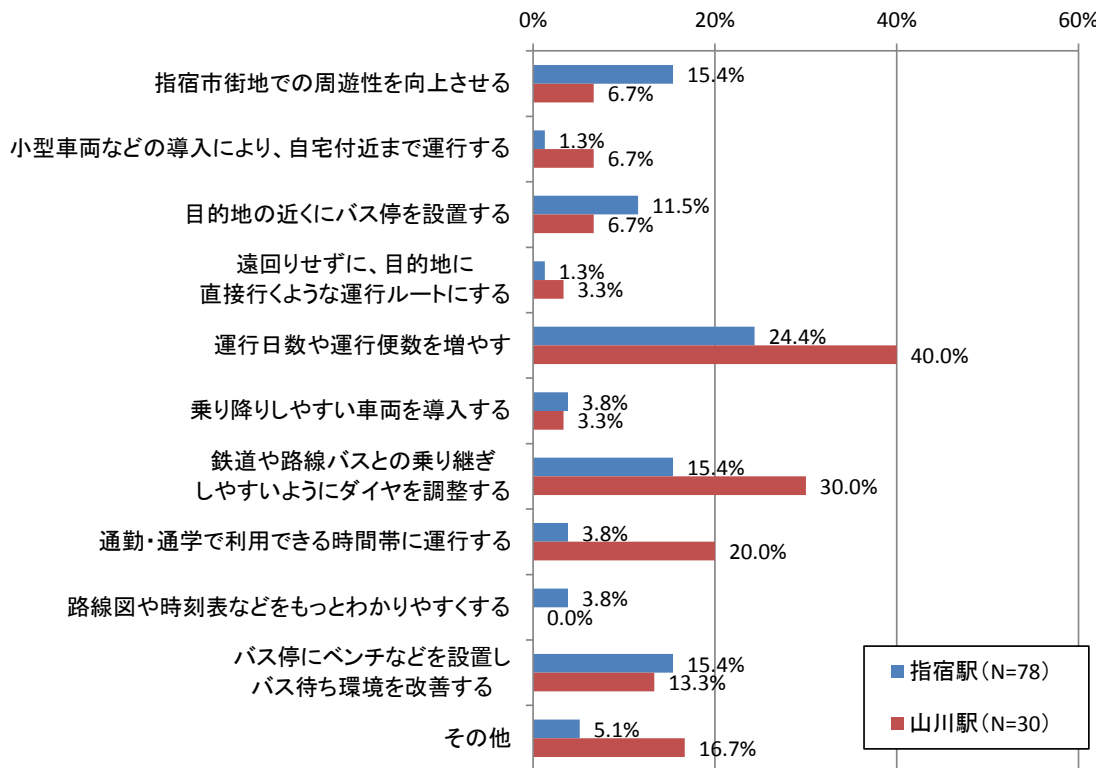
③公共交通に対する改善点

<市民>

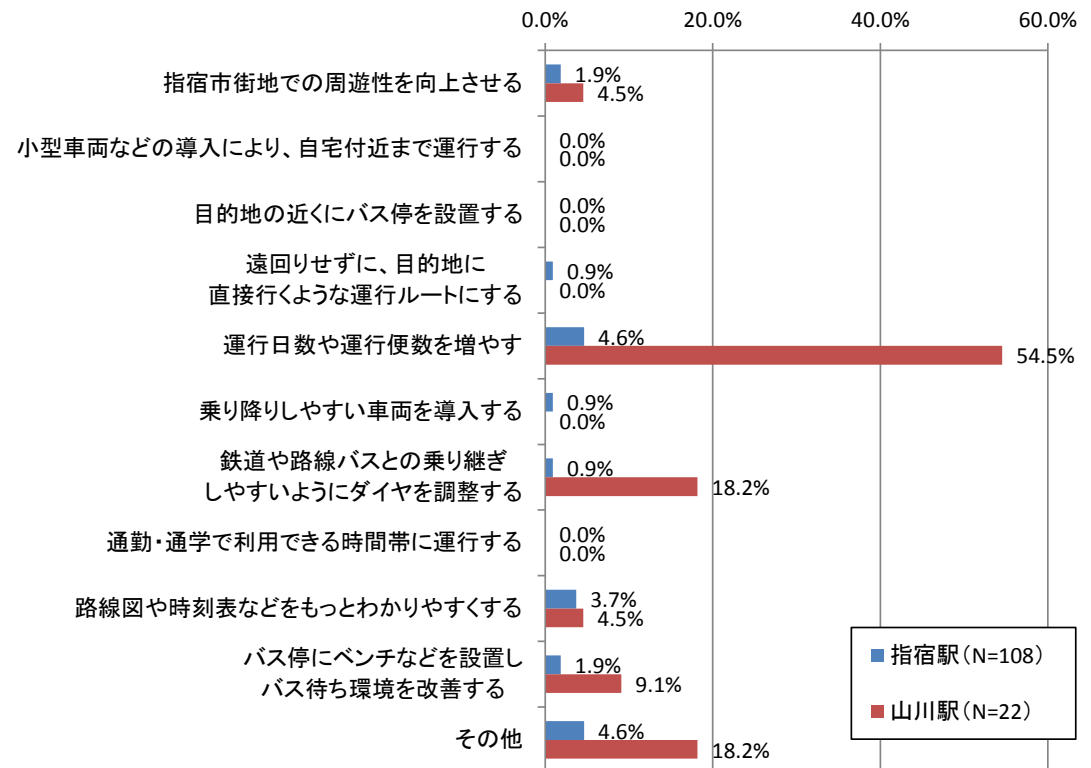
- 指宿駅では、「運行日数や運行便数を増やす」が約40%で最も多く、次いで「鉄道や路線バスとの乗り継ぎしやすいようにダイヤを調整する」（約30%）となった。
- 山川駅では、「運行日数や運行便数を増やす」が約24%で最も多く、その他に、指宿市街地での周遊性や、乗り継ぎしやすいダイヤ調整、バス待ち環境に関する改善点が多い結果となった。

<市外在住者>

- 山川駅において、「運行日数や運行便数を増やす」が約55%と最も多くなった。



▲ 公共交通に対する改善点 (市民)



▲ 公共交通に対する改善点 (市外在住者)

(4) 市民アンケート調査

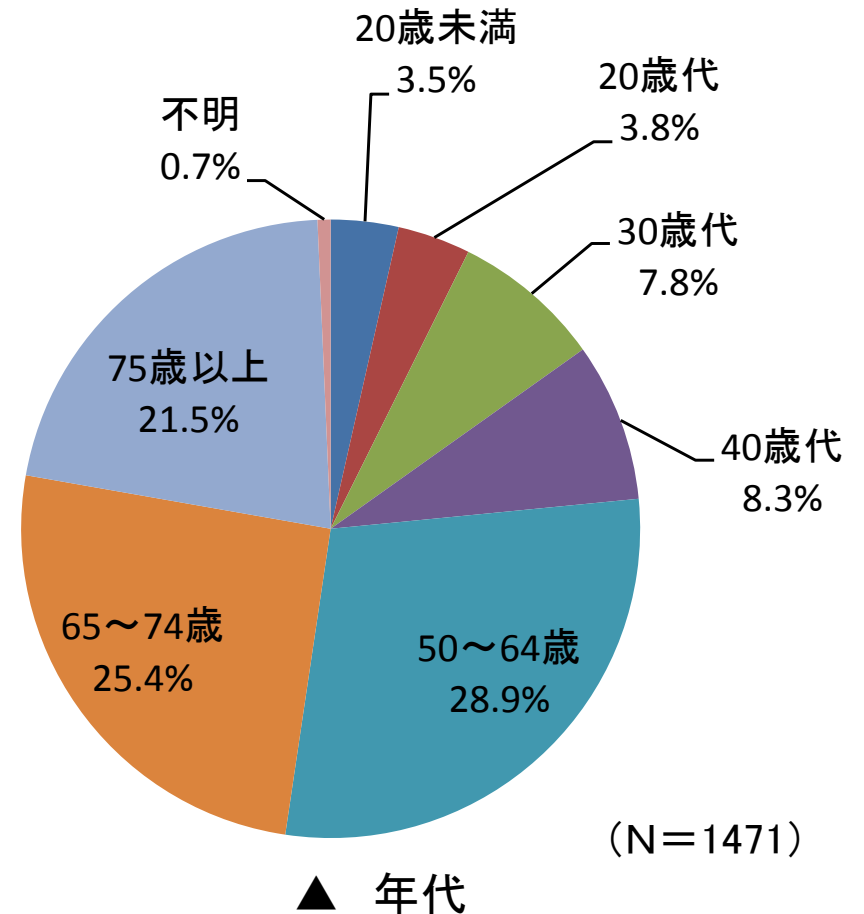
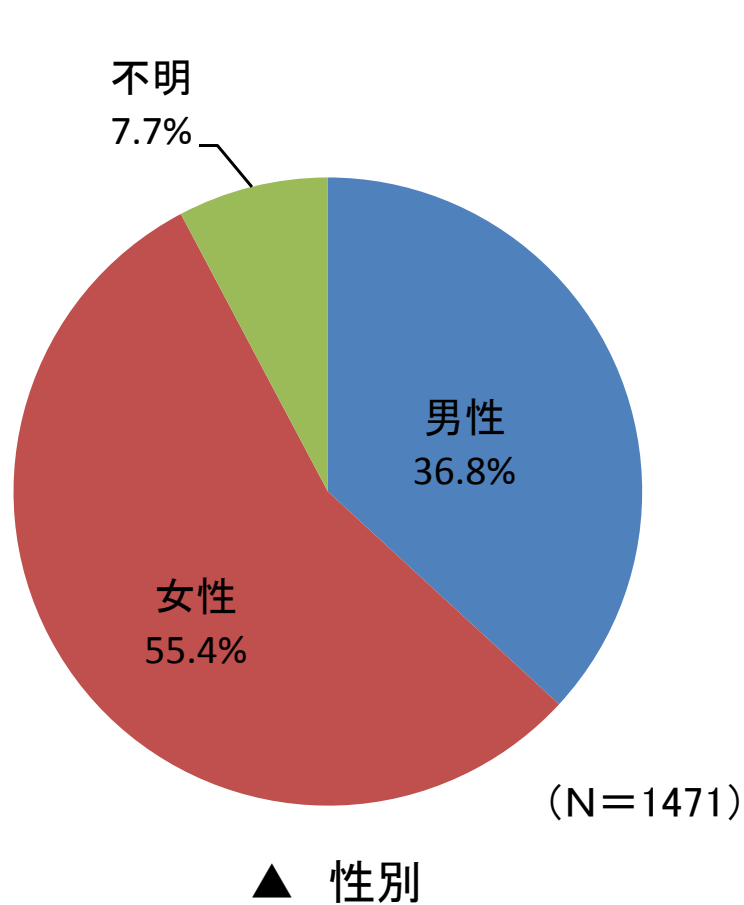
<市民アンケート調査 調査概要>

調査目的	市民の日常の移動実態及び公共交通に対するニーズの把握																
調査対象	指宿市内に居住する15歳以上の市民3,000人 (年代・居住地に配慮して抽出)																
調査方法	郵送による配布・回収																
実施期間	平成29年10月30日（月）～平成29年11月13日（月）																
回収数	<p>上記の方法にて、調査を行った結果、1471票の回収があり、回収率は、49%となった。なお、地区ごとの回収票数を下表に示す。</p> <table border="1"><thead><tr><th></th><th>指宿地域</th><th>山川地域</th><th>開間地域</th></tr></thead><tbody><tr><td>配布数</td><td>1,000</td><td>1,000</td><td>1,000</td></tr><tr><td>回収数</td><td>462</td><td>510</td><td>499</td></tr><tr><td>回収率</td><td>46.2%</td><td>51.0%</td><td>49.9%</td></tr></tbody></table>		指宿地域	山川地域	開間地域	配布数	1,000	1,000	1,000	回収数	462	510	499	回収率	46.2%	51.0%	49.9%
	指宿地域	山川地域	開間地域														
配布数	1,000	1,000	1,000														
回収数	462	510	499														
回収率	46.2%	51.0%	49.9%														

<調査結果>

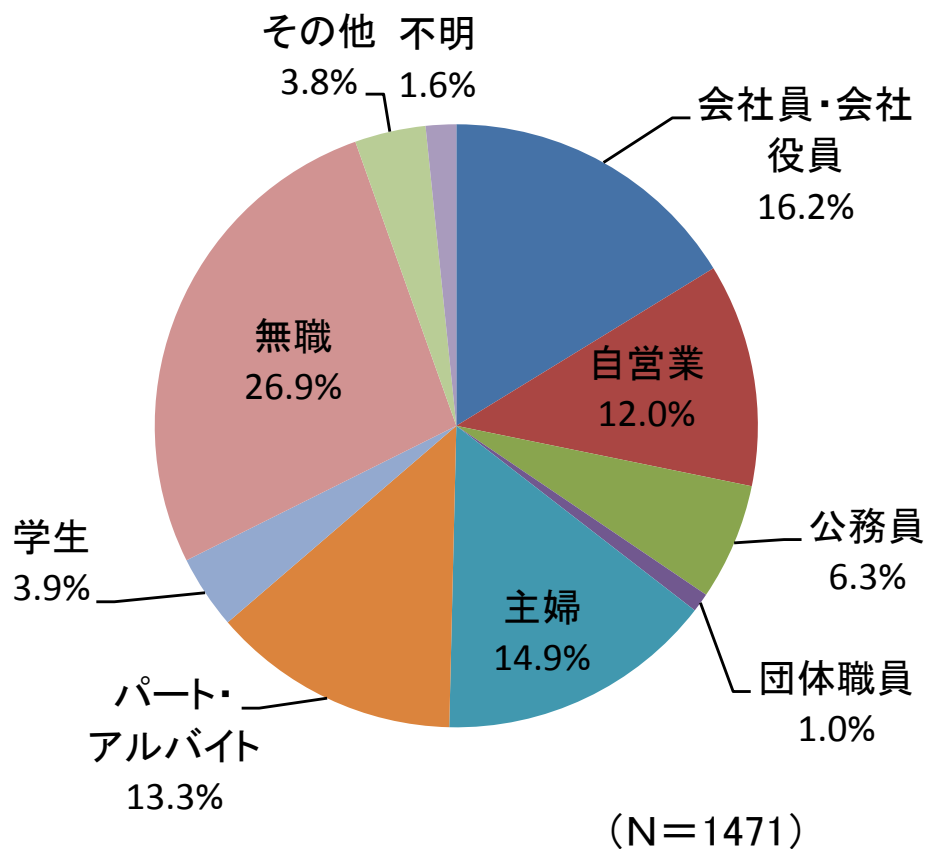
①属性（性別・年代）

- 性別は、男性が4割程度、女性が6割程度となる。
- 年齢は、「50～64歳」が約29%で最も多く、次いで「65～74歳」（25%）、「75歳以上」（約22%）となる。

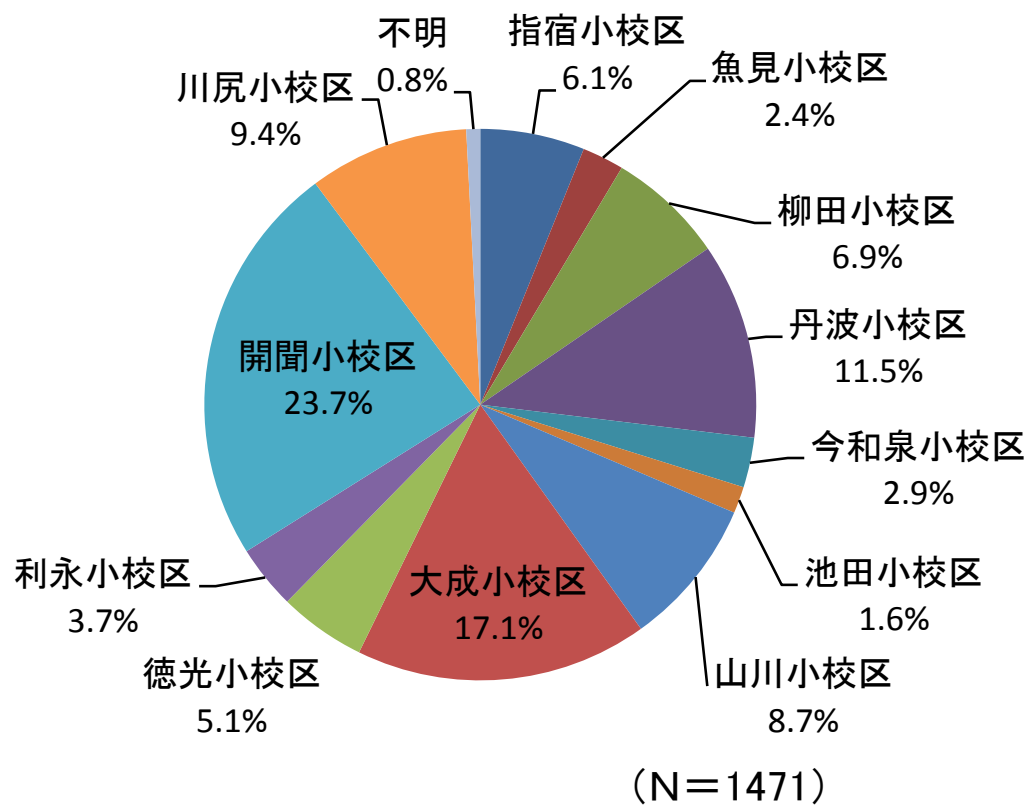


①属性（職業・居住地）

- 職業については、無職が約27%で最も多く、次いで「会社員・会社役員」（約16%）、「主婦」（約15%）となった。
- 居住地については、「開間小校区」が約24%で最も多く、次いで「大成小校区」（約17%）、「丹波小校区」（約12%）となった。



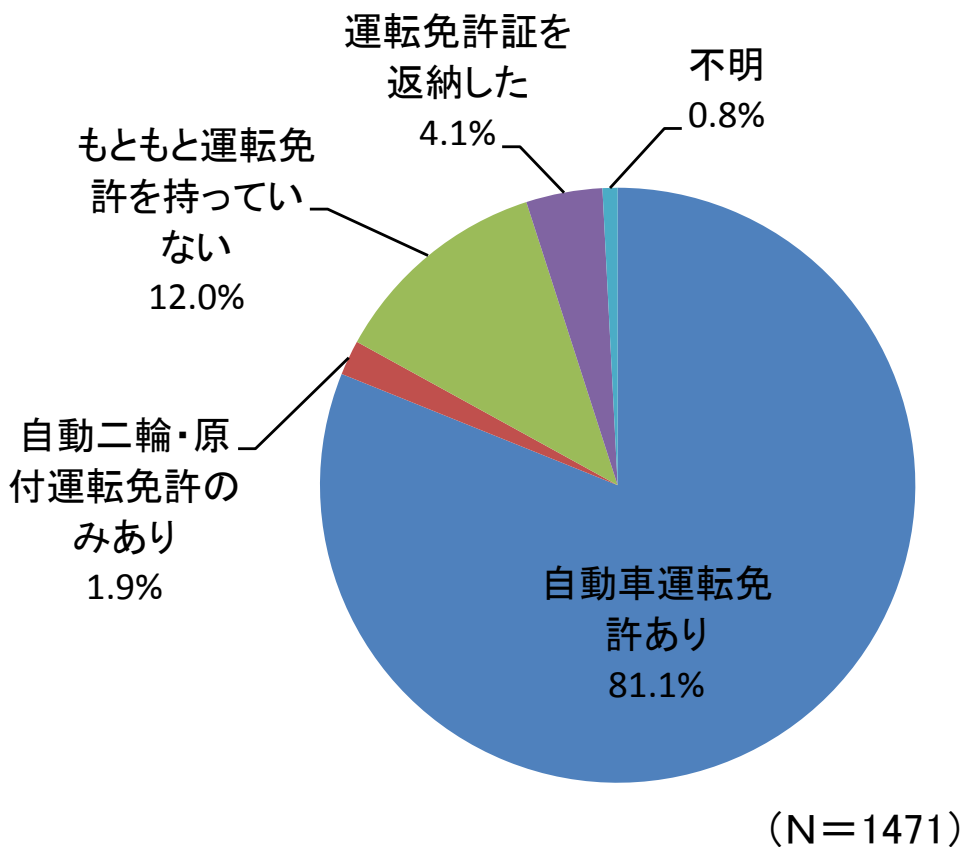
▲ 職業



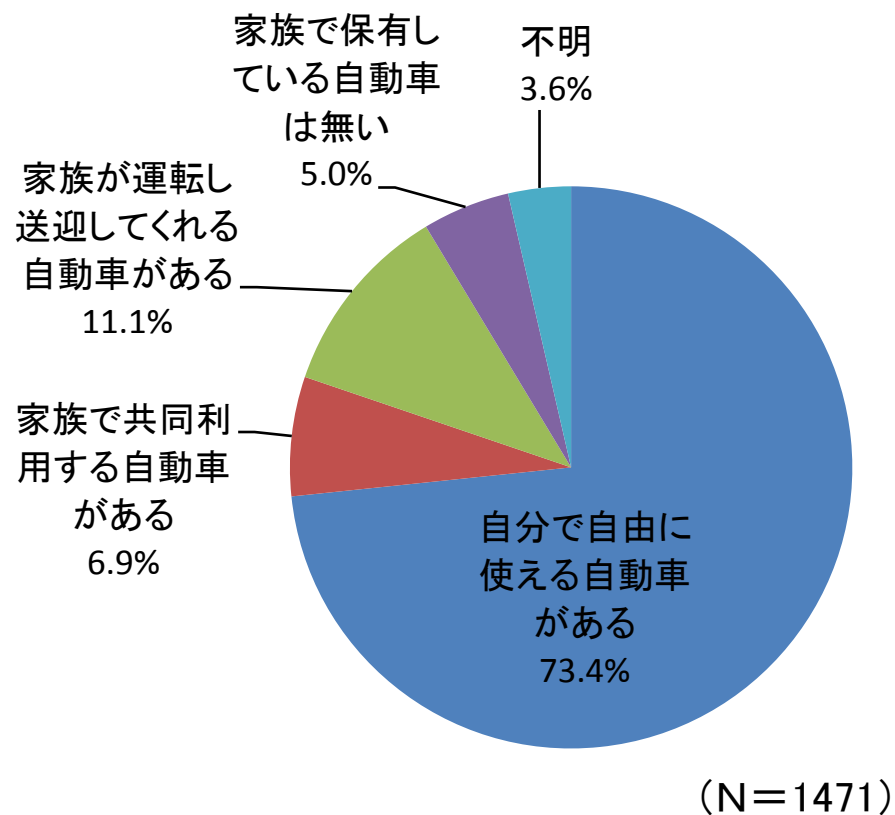
▲ 居住地(小学校区)

①属性（自動車免許証・自動車の保有状況）

- 自動車免許証の保有状況については、市民の約81%が免許証を保有している。
- 免許証を返納したと回答したの、約4%となった。
- 自動車の保有状況については、「自分で使える車がある」が約73%で最も多く、次いで「家族が運転し送迎してくれる自動車がある」（約11%）、「家族で共同利用する自動車がある」（約7%）となった。



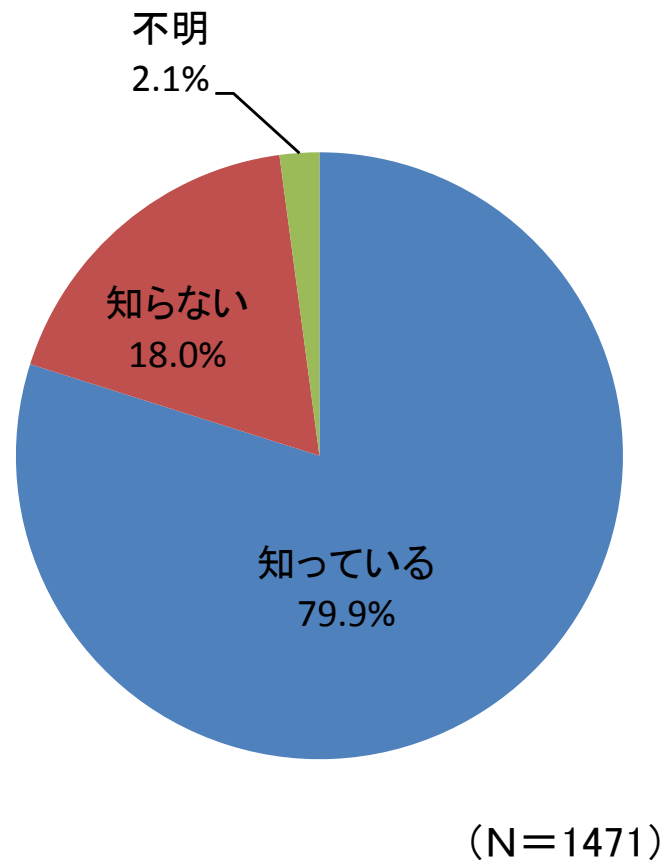
▲ 自動車免許証の保有状況



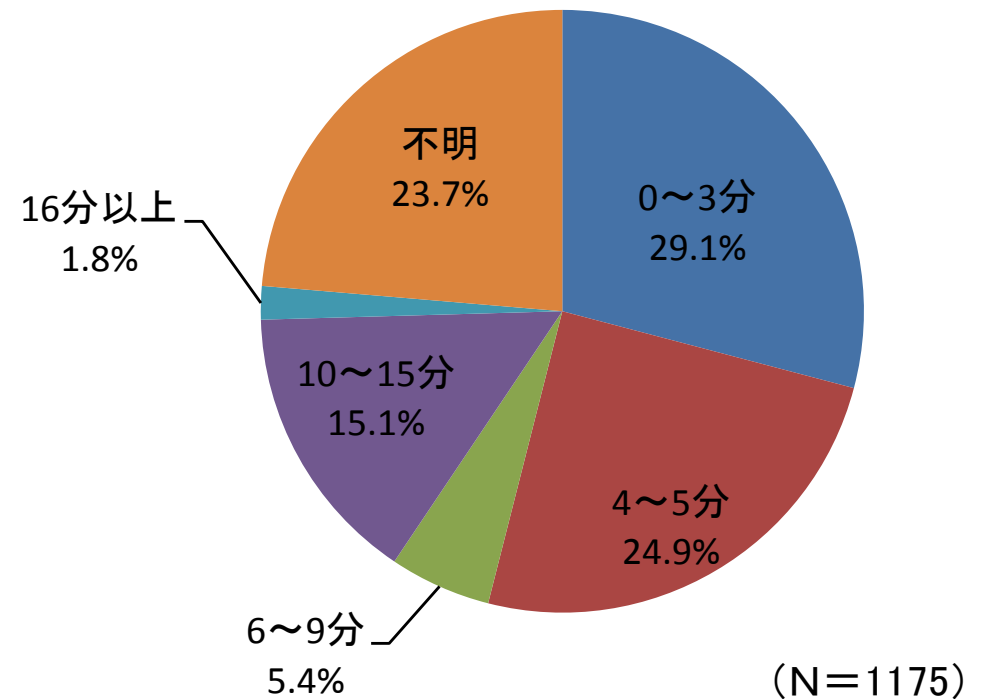
▲ 自動車の保有状況

①属性（最寄りのバス停の認知状況・バス停までの所要時間）

- 最寄りバス停について、「知っている」が約80%、「知らない」が18%となった。
- 最寄りバス停までの所要時間は、「3分以内」が約29%で最も多く、次いで「4～5分」（約25%）、「10～15分」（約15%）となった。



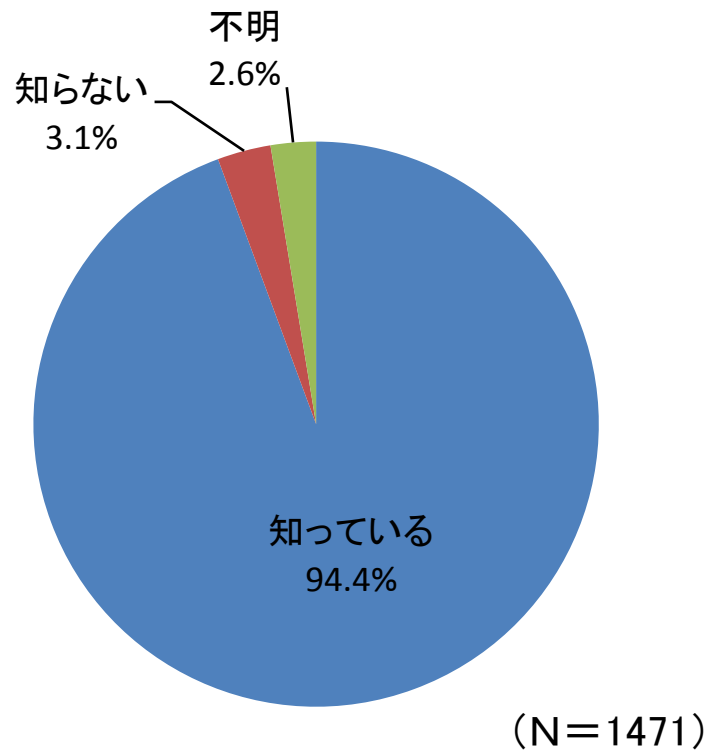
▲ 自宅から最寄りのバス停の認知状況



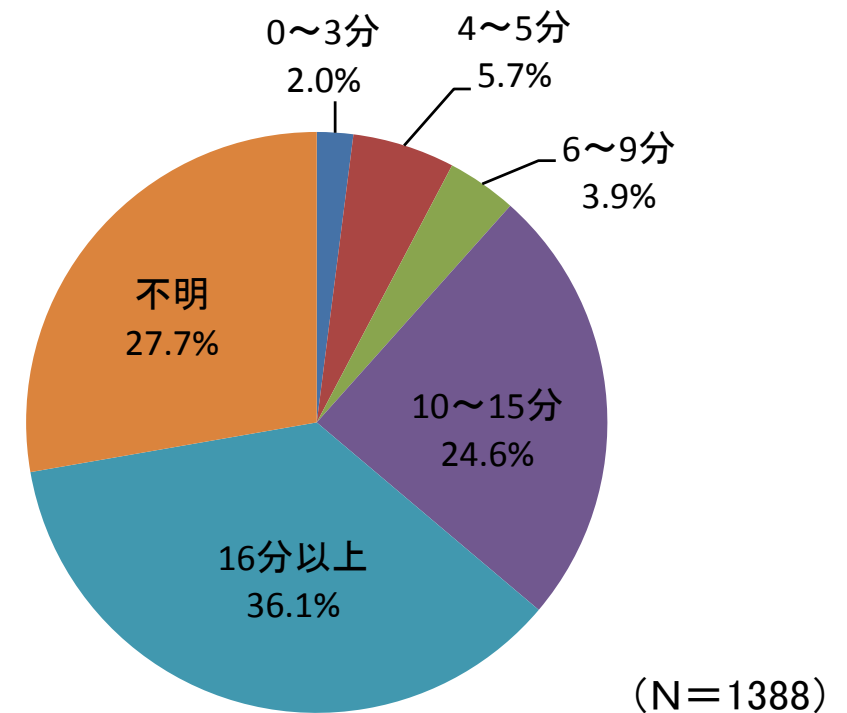
▲ 自宅から最寄りバス停までの所要時間

①属性（最寄り駅の認知状況・駅までの所要時間距離）

- 最寄りの駅について、「知っている」が約94%、「知らない」が約3%となった。
- 最寄駅までの所要時間については、「16分以上」が約36%で最も多く、不明を除くと、次いで「10～15分」が約25%となった。



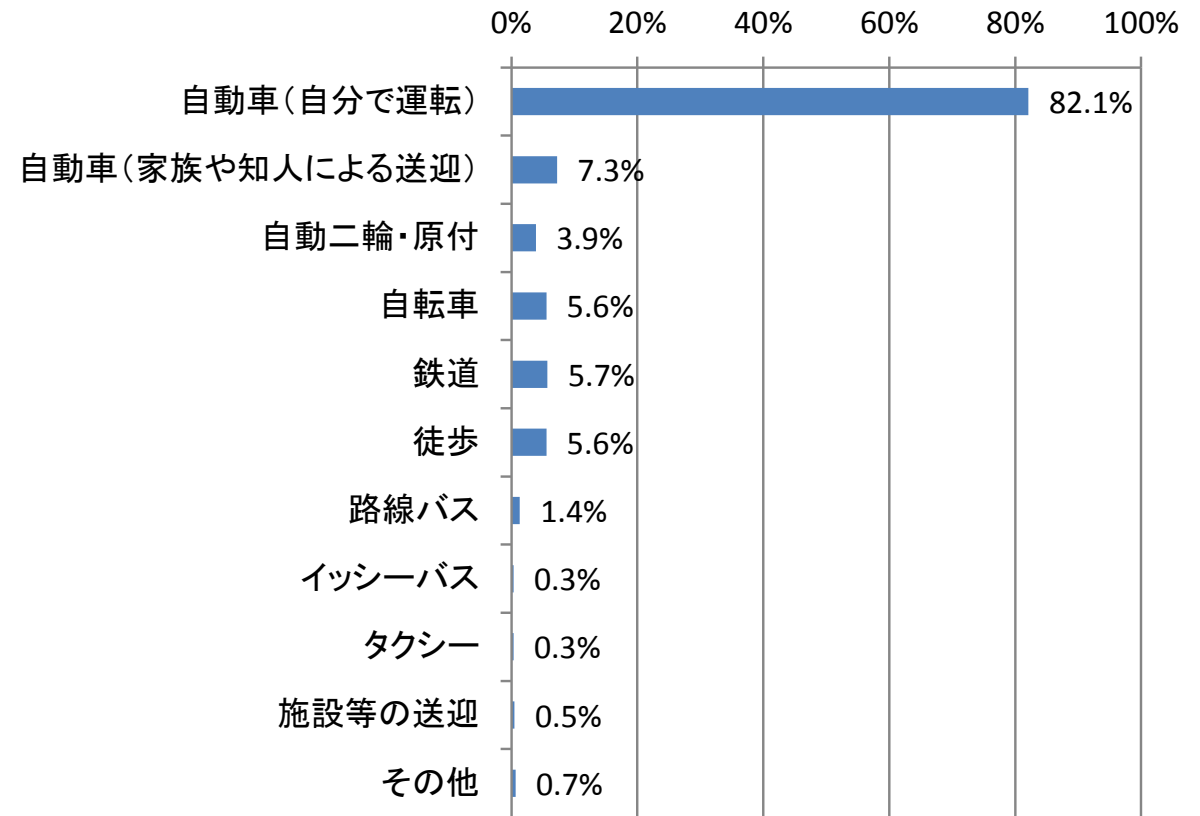
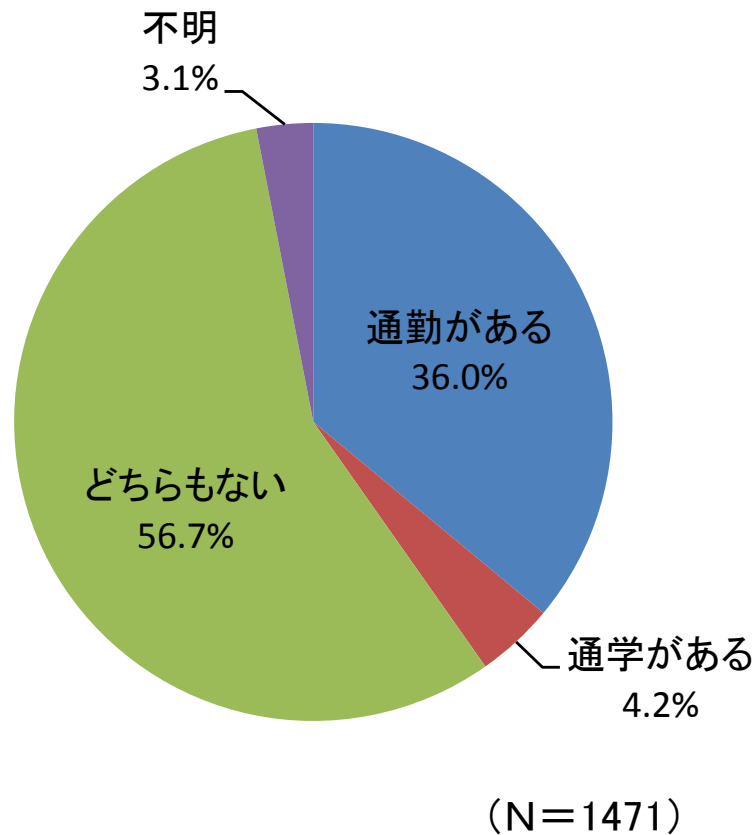
▲ 自宅から最寄りの駅の認知状況



▲ 自宅から最寄り駅までの所要時間

②通勤・通学を目的とする外出状況

- 通勤・通学の外出状況については、「通勤がある」が約36%、「通学がある」が約4%となった。
- 通勤・通学の移動手段に関しては、「自動車（自分で運転）」が約82%で最も多く、次いで「自動車（家族や知人による送迎）」（約7%）、「鉄道」（約6%）となった。

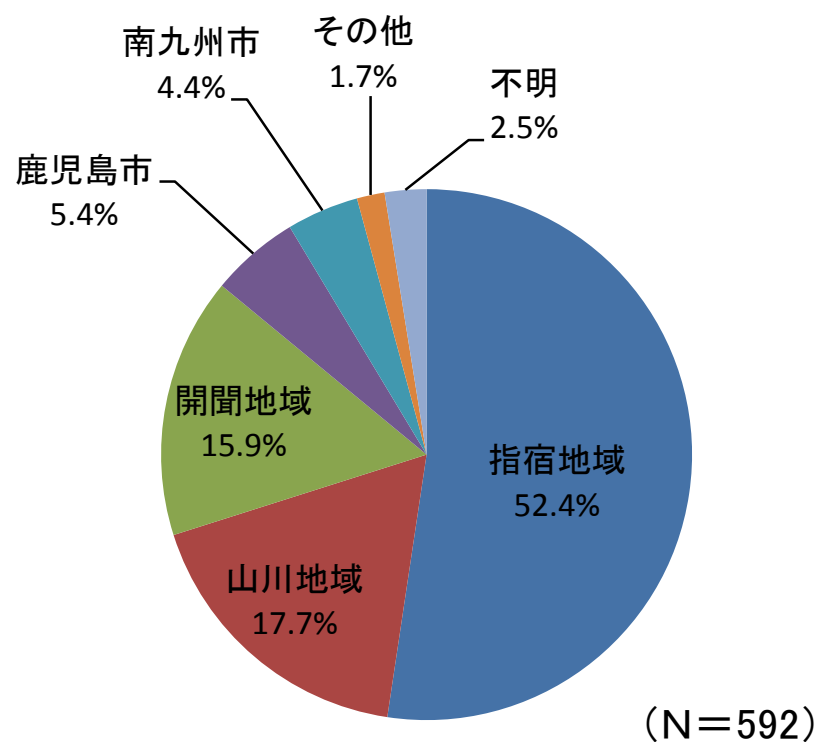


▲ 通勤・通学を目的とする外出状況

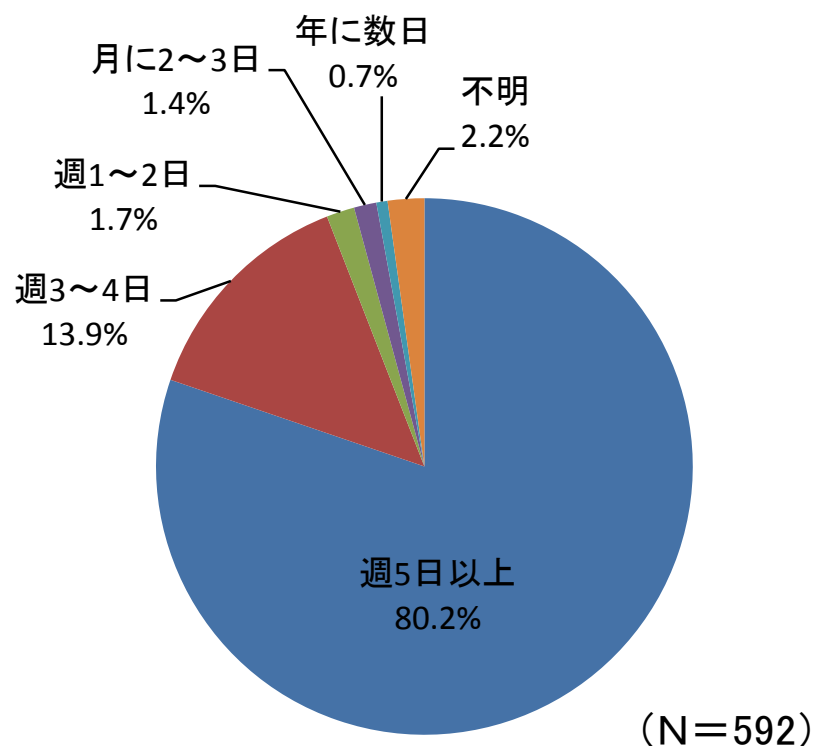
▲ 通勤・通学の移動手段

②通勤・通学を目的とする外出状況

- 通勤・通学先に関しては、「指宿地域」が最も多く、約半数を占め、次いで「山川地域」（約18%）、「開聞地域」（約16%）となった。
- また、指宿市外への通勤・通学が約1割となっている。
- 通勤・通学の頻度としては、「週5日以上」が約80%で最も多く、次いで「週3～4日」が約14%となった。



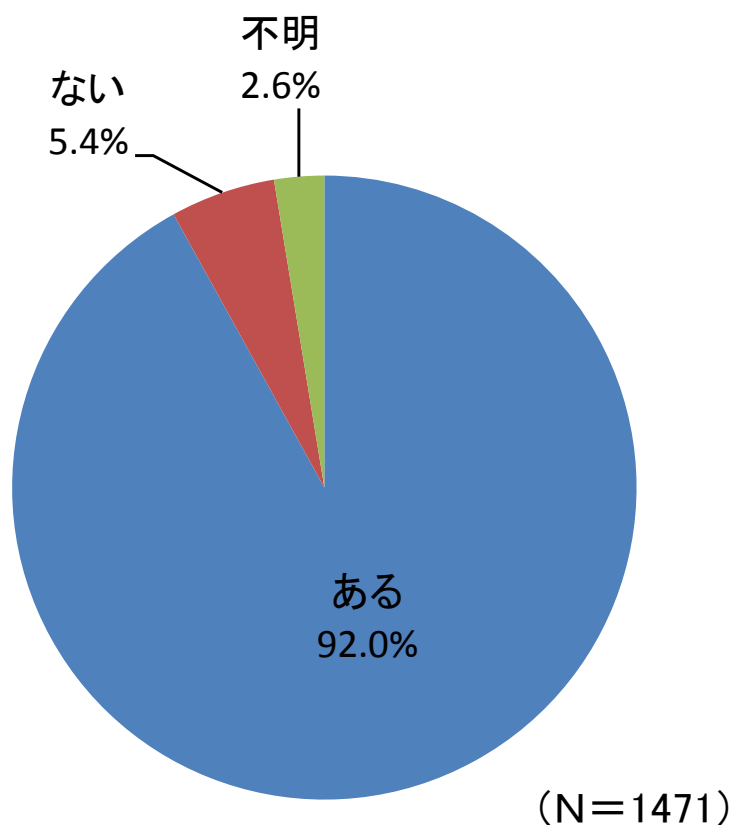
▲ 通勤・通学先



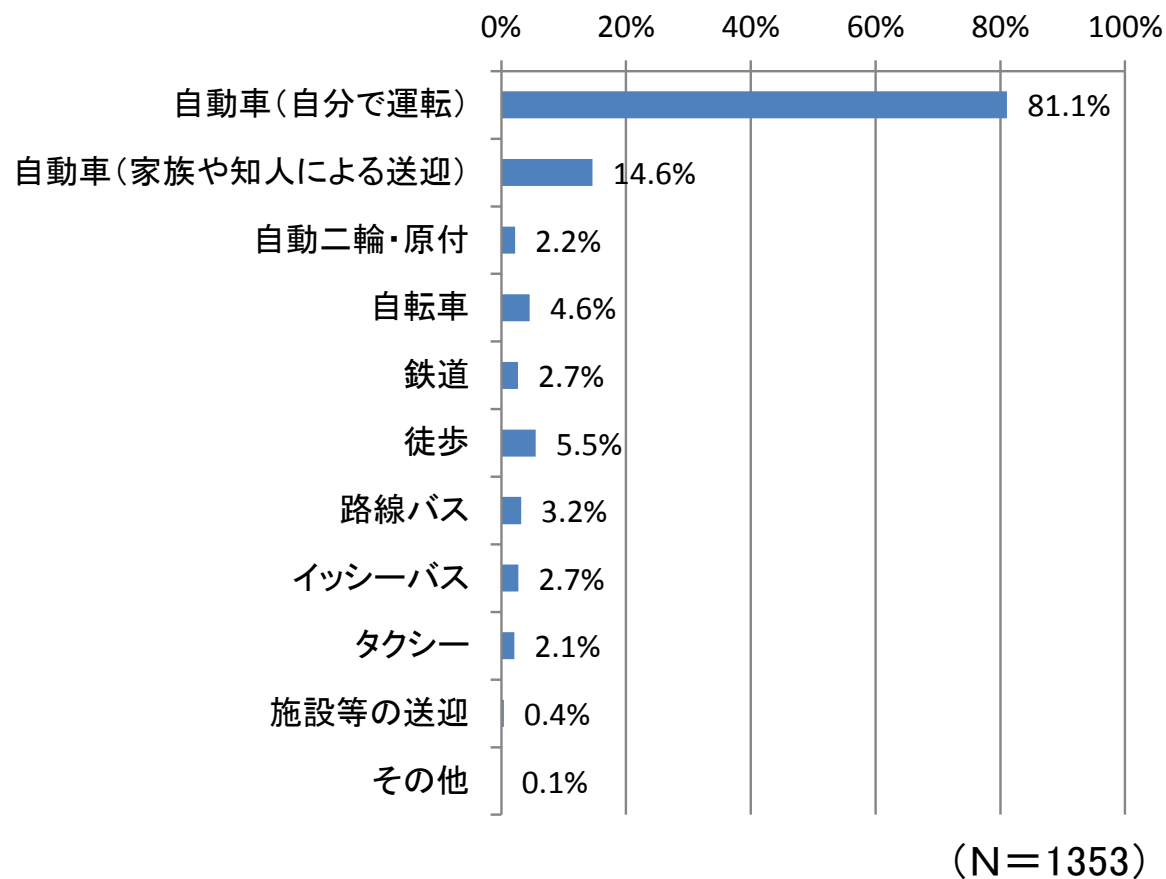
▲ 通勤・通学の頻度

③買い物を目的とする外出状況

- 買い物を目的とする外出状況に関しては、「ある」が約92%であるのに対し、「ない」が約5%となった。
- 買い物における移動手段としては、「自動車（自分で運転）」が約81%で最も多く、次いで「家族や知人による送迎」（約15%）、徒歩（約6%）となった。



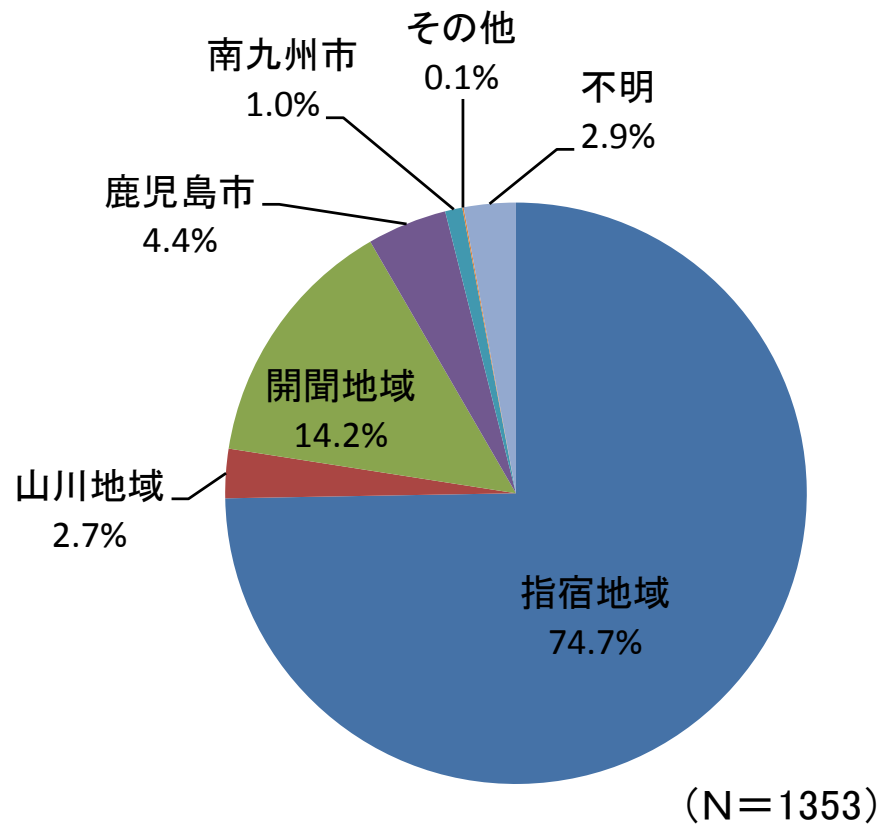
▲ 買い物を目的とする外出状況



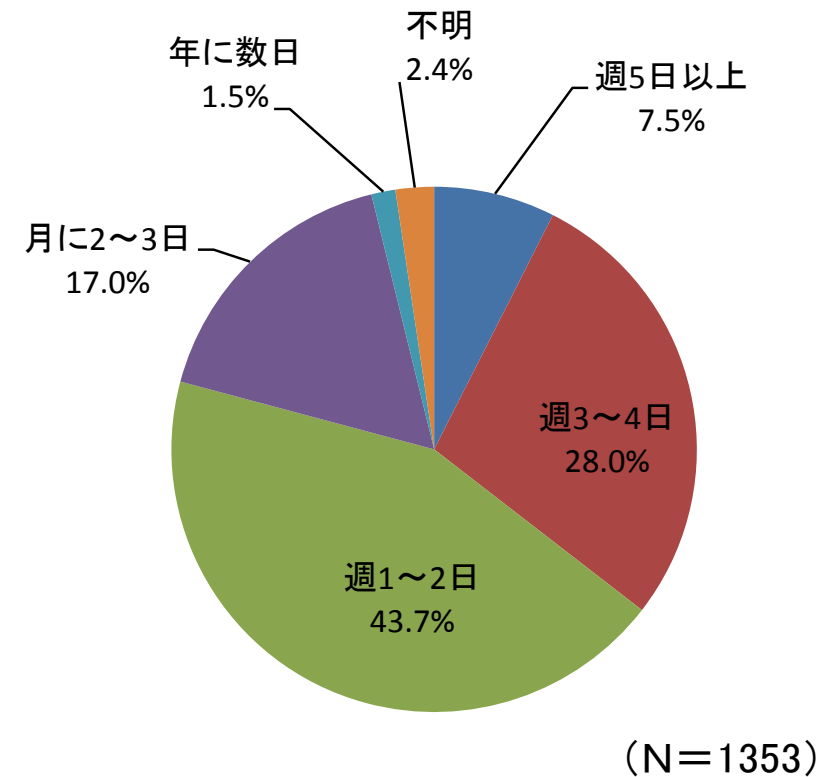
▲ 買い物の移動手段

③買い物を目的とする外出状況

- 主な買い物先としては、「指宿地域」が約75%で最も多く、次いで開聞地域（約15%）、鹿児島市（約4%）となった。
- 買い物の頻度としては、「週1～2日」が約44%で最も多く、次いで「週3～4日」（約28%）、「月に2～3日」（約7%）となった。



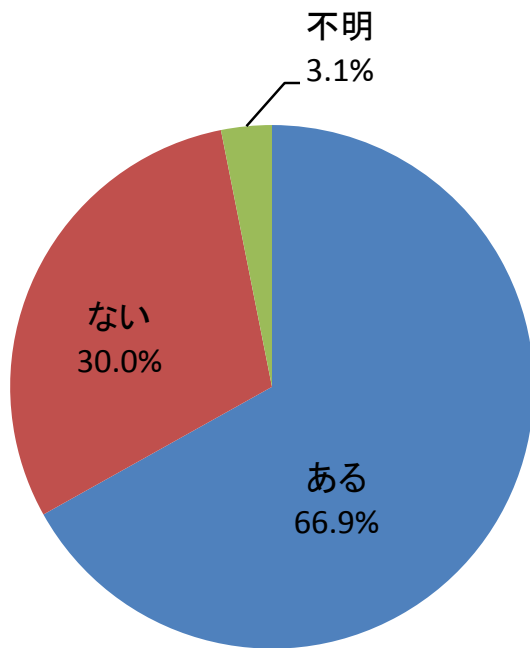
▲ 主な買い物先



▲ 買い物の頻度

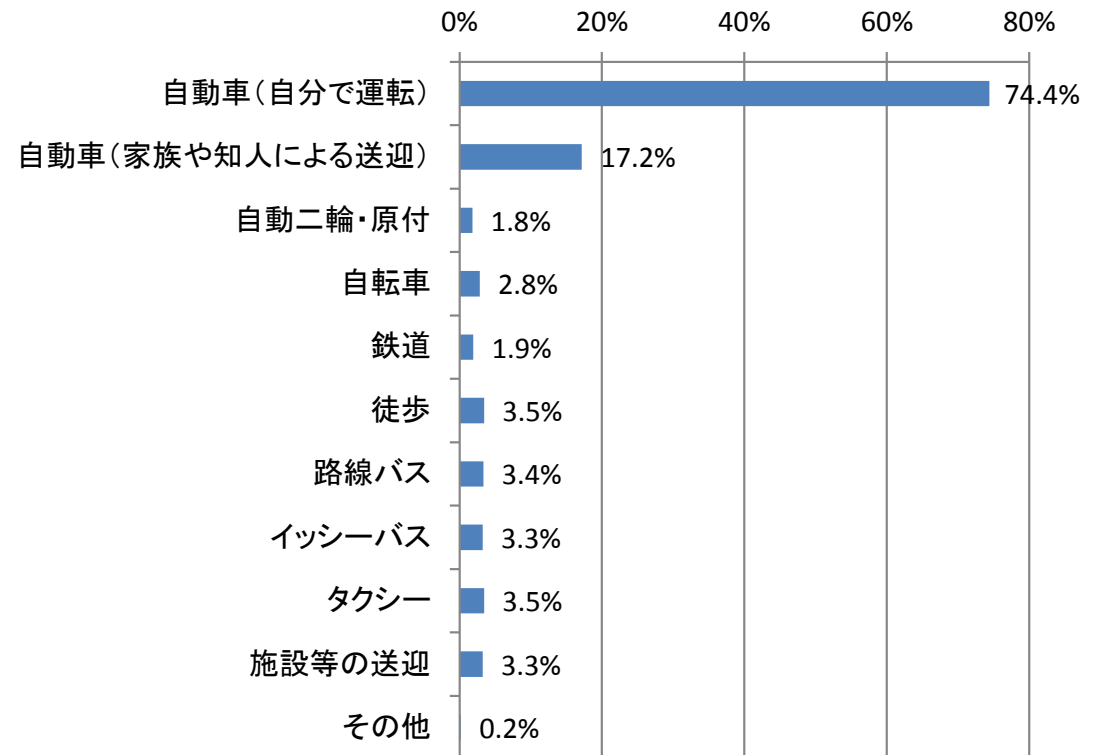
③通院を目的とする外出状況

- 通院を目的とする外出状況に関しては、「ある」が約67%であるのに対し、「ない」が約30%となった。
- 通院における移動手段としては、「自動車（自分で運転）」が約74%で最も多く、次いで「家族や知人による送迎」（約17%）、徒歩（約3.5%）、タクシー（約3.5%）となった。



(N=1471)

▲ 通院のための外出状況

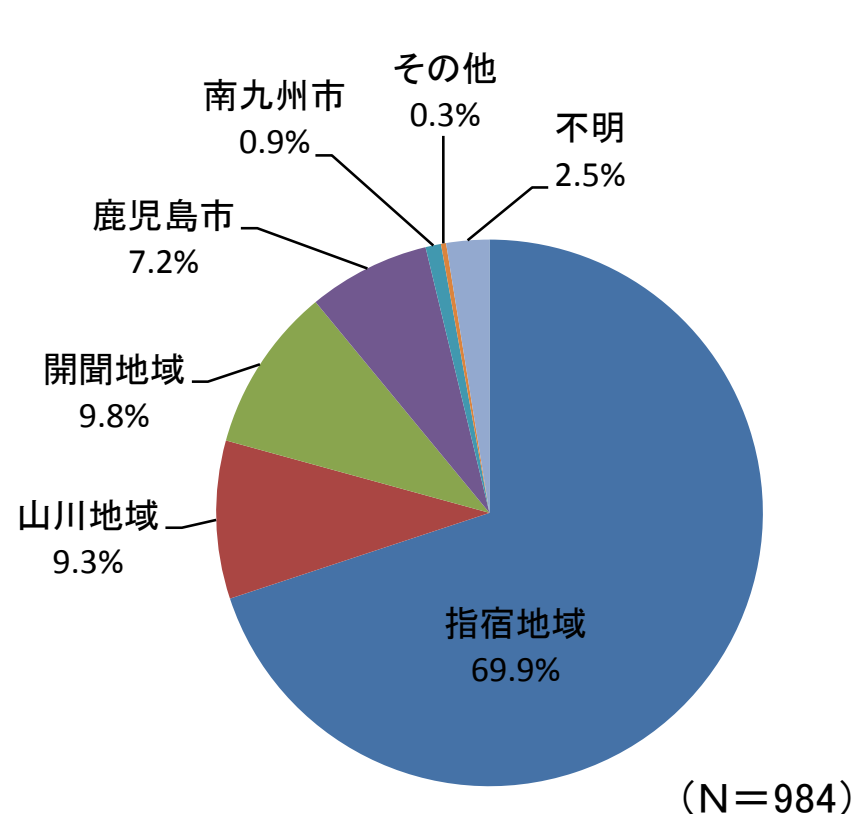


(N=984)

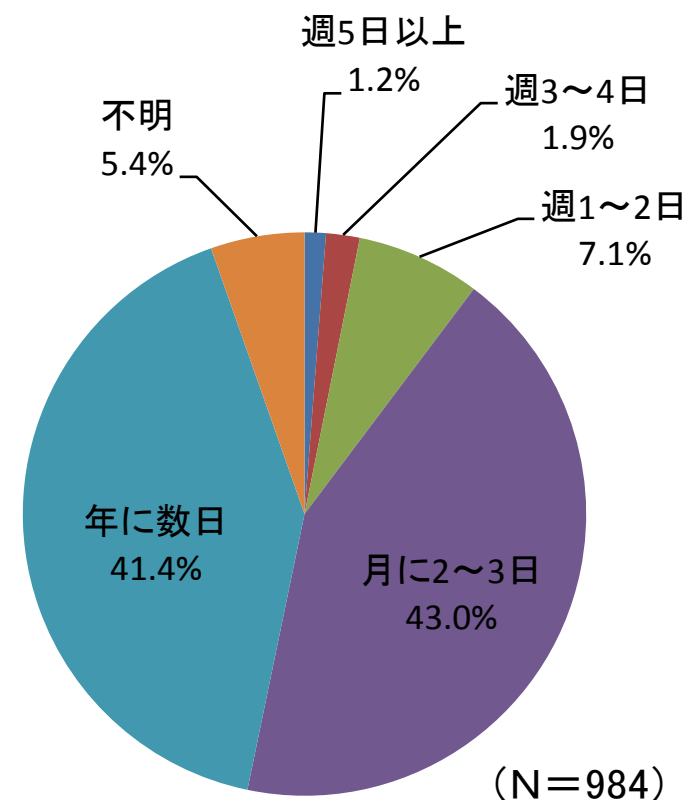
▲ 通院のための移動手段

③通院を目的とする外出状況

- 主な通院先としては、指宿地域が約70%で最も多く、次いで開聞地域（約10%）、山川地域（約9%）となっている。
- 市外への通院は、約8%となり、市外への通院は大半が鹿児島市となっている。
- 通院の頻度としては、「月2～3日」が最も多く、約43%となり、次いで「年に数日」（約41%）となった。



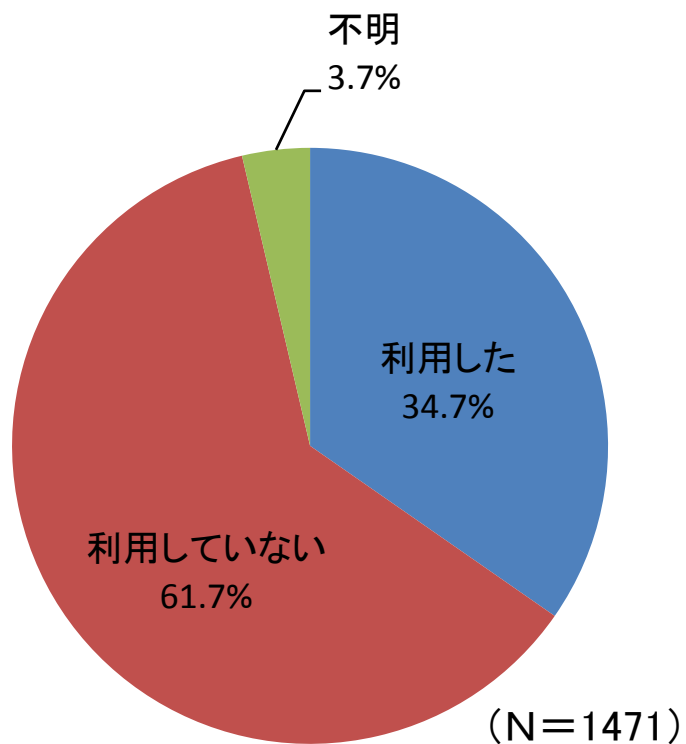
▲ 主な通院先



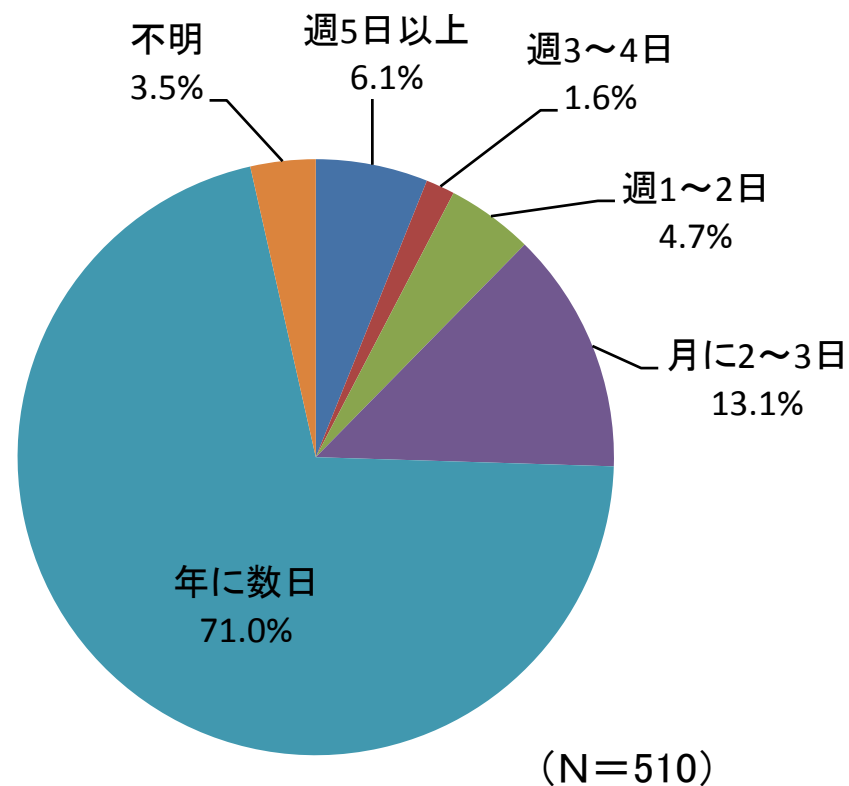
▲ 通院の頻度

④公共交通の利用状況

- 1年間の公共交通の利用状況については、「利用した」が約35%であるのに対し、「利用していない」が約62%となる。
- 公共交通を利用した市民の利用頻度について、「年に数日」が最も多く、71%を占めており、次いで「月に2～3日」（約13%）となった。
- また、公共交通を利用した市民の約12%が週に1日以上公共交通を利用している結果となった。



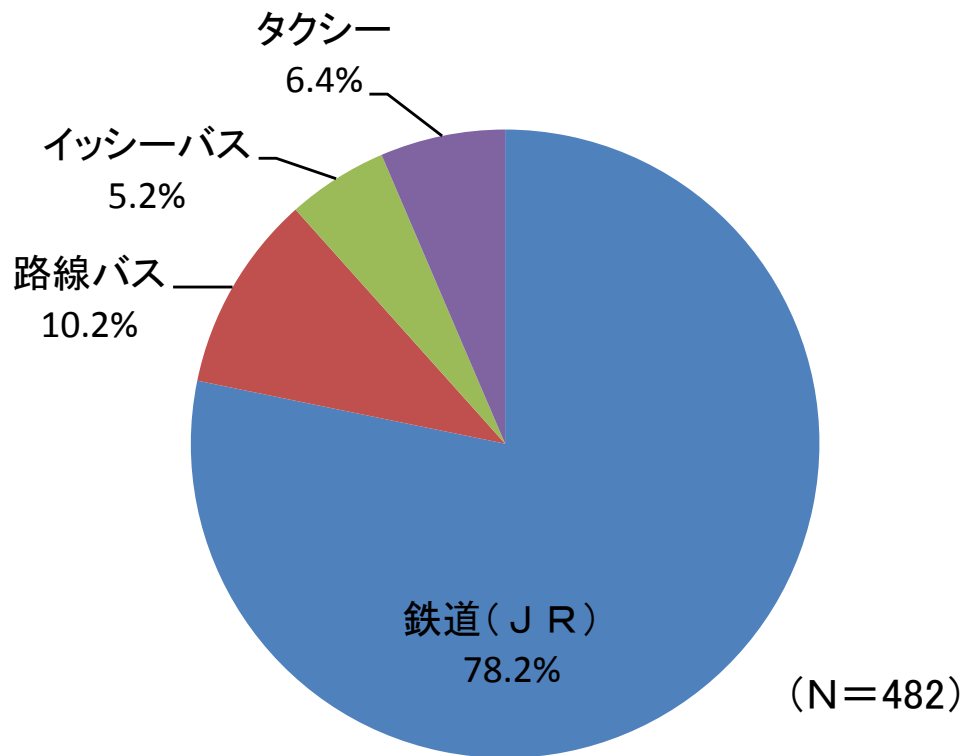
▲ 1年間の公共交通の利用状況



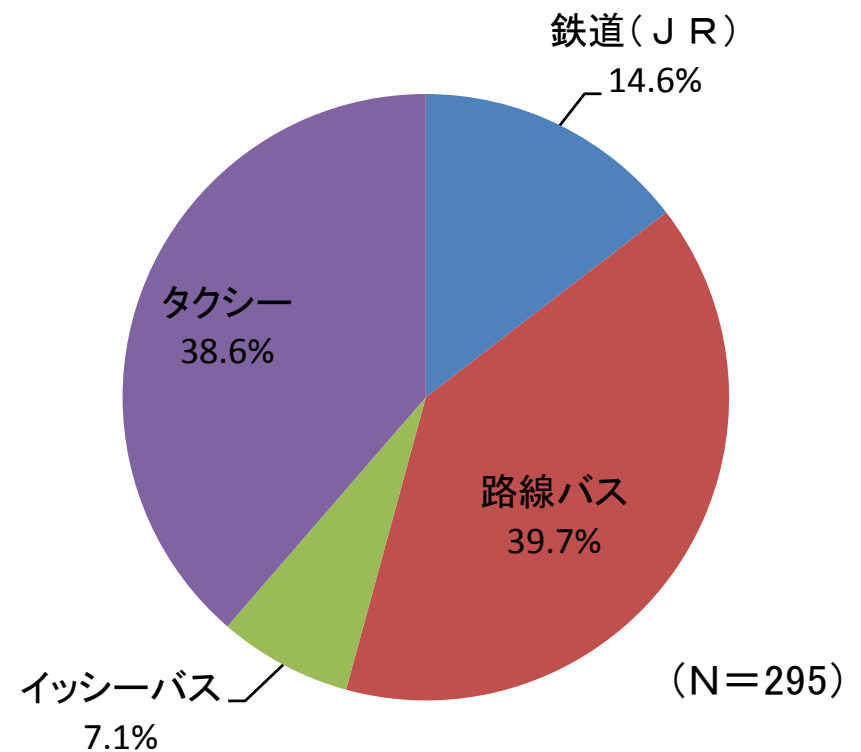
▲ 公共交通の利用頻度

④公共交通の利用状況

- 最もよく利用する公共交通手段については、「鉄道（JR）」が約78%で多く、次いで路線バス（約10%）、イッシーバス（約5%）となる。
- 2番目によく利用する公共交通手段については、「路線バス」が約40%で最も多く、次いで「タクシー」（約39%）となった。
- 「路線バス」と「イッシーバス」では、いずれも「路線バス」の方が利用率が高い。



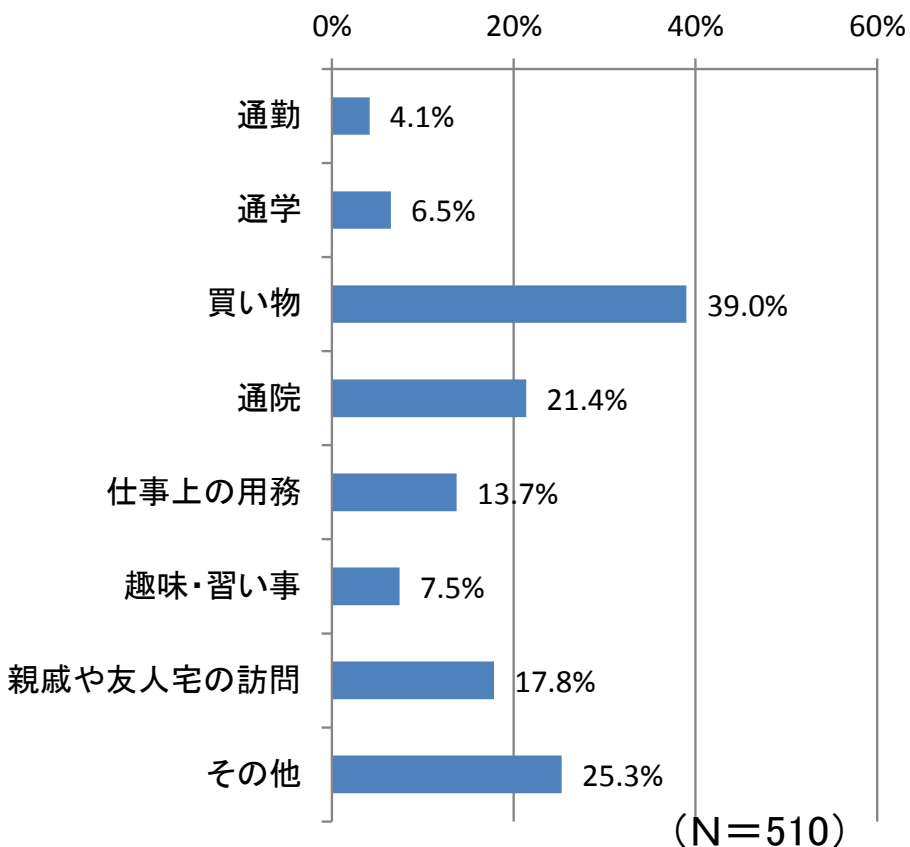
▲ 最も利用する公共交通手段



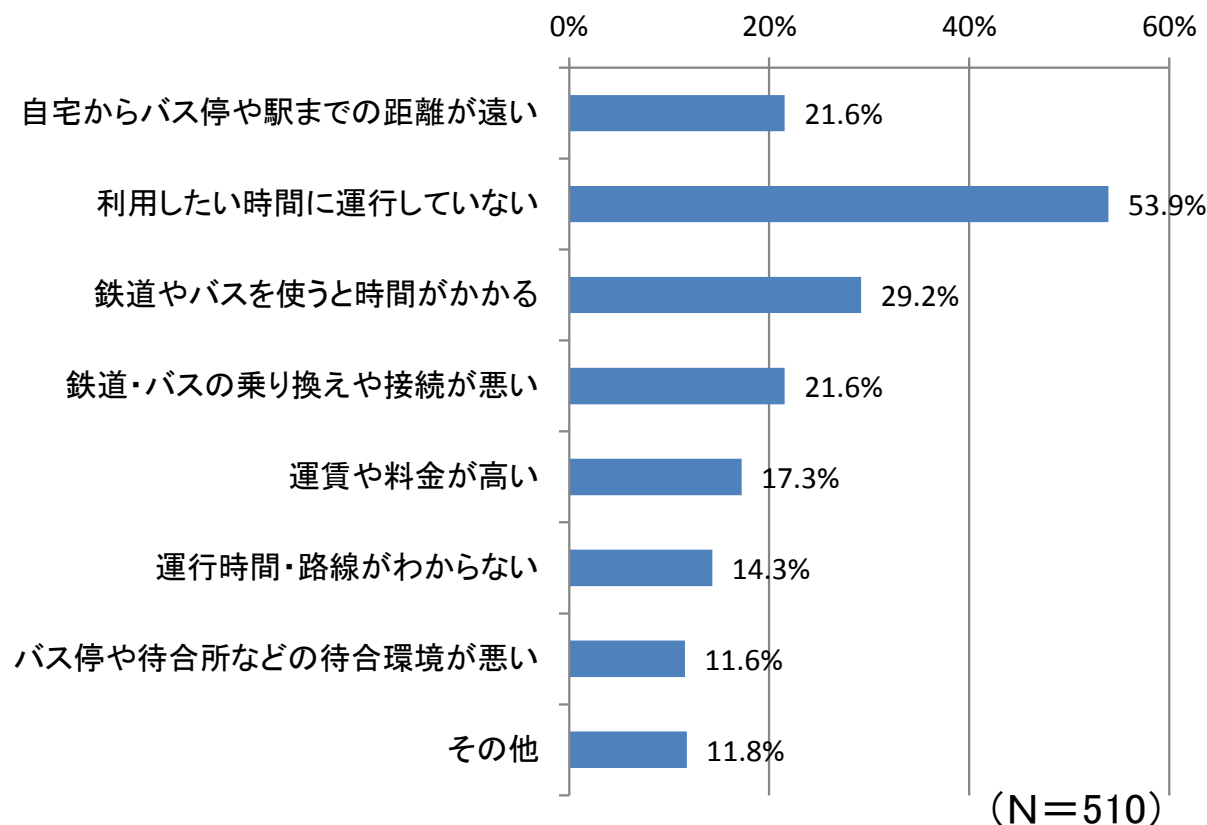
▲ 2番目に利用する公共交通

④公共交通の利用状況

- 公共交通で外出する目的としては、「買い物」が39%で最も多く、次いで「その他」（約25%）、「通院」（約21%）となった。
- 公共交通で不便・不満なことに関しては、「利用したい時間に運行していない」が約54%で最も多くを占め、次いで「鉄道やバスを使うと時間がかかる」（約29%）、「自宅からバス停までや駅までの距離が遠い」（約22%）、「鉄道・バスの乗り換えや接続が悪い」（約22%）となった。



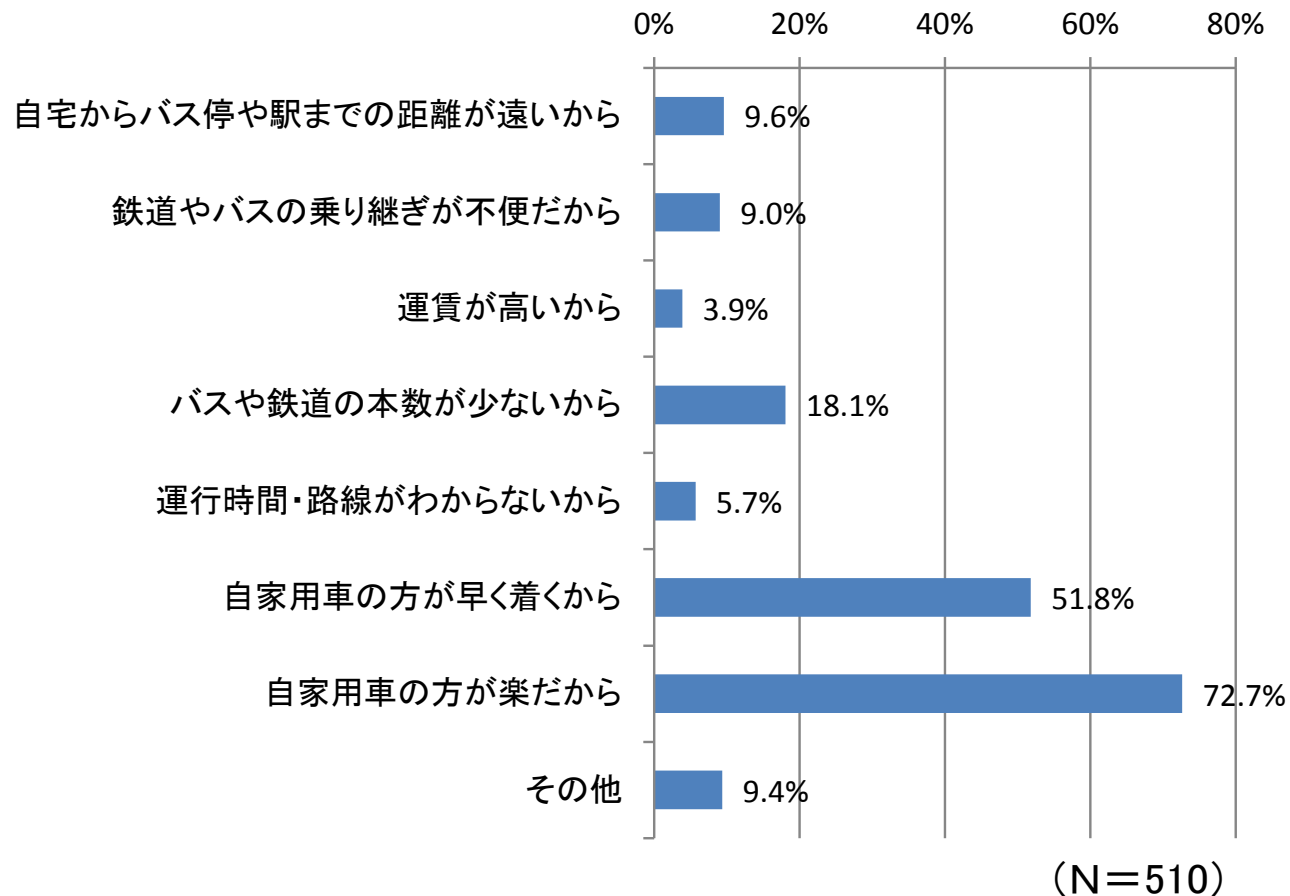
▲ 公共交通で外出する目的



▲ 公共交通の不便・不満なこと

④公共交通の利用状況

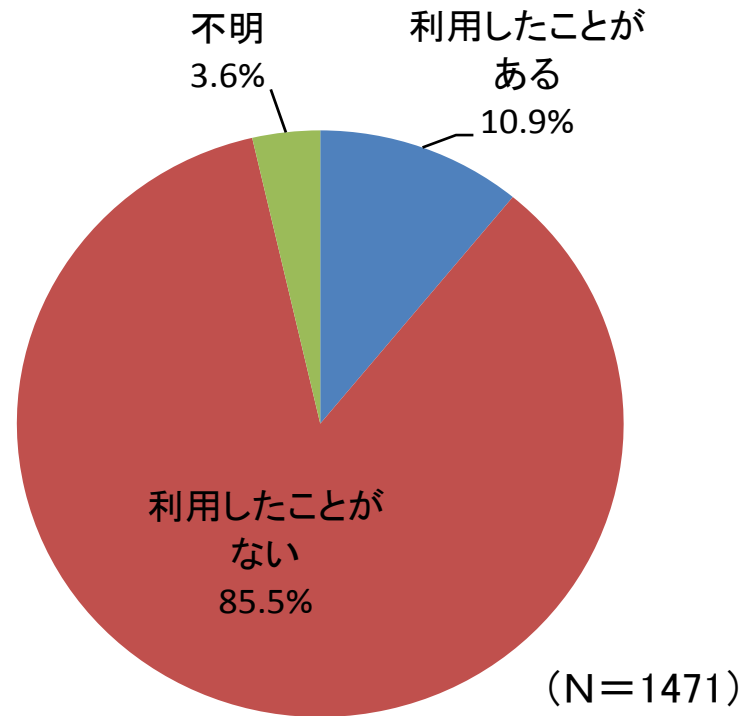
- 公共交通を利用しない理由は、「自家用車の方が楽だから」が最も多く、約73%を占めており、次いで「自家用車の方が早く着くから」（約52%）、「バスや鉄道の本数が少ないから」（約18%）となっている。



▲ 公共交通を利用しない理由

⑤ イッシーバスの利用状況・利用意向

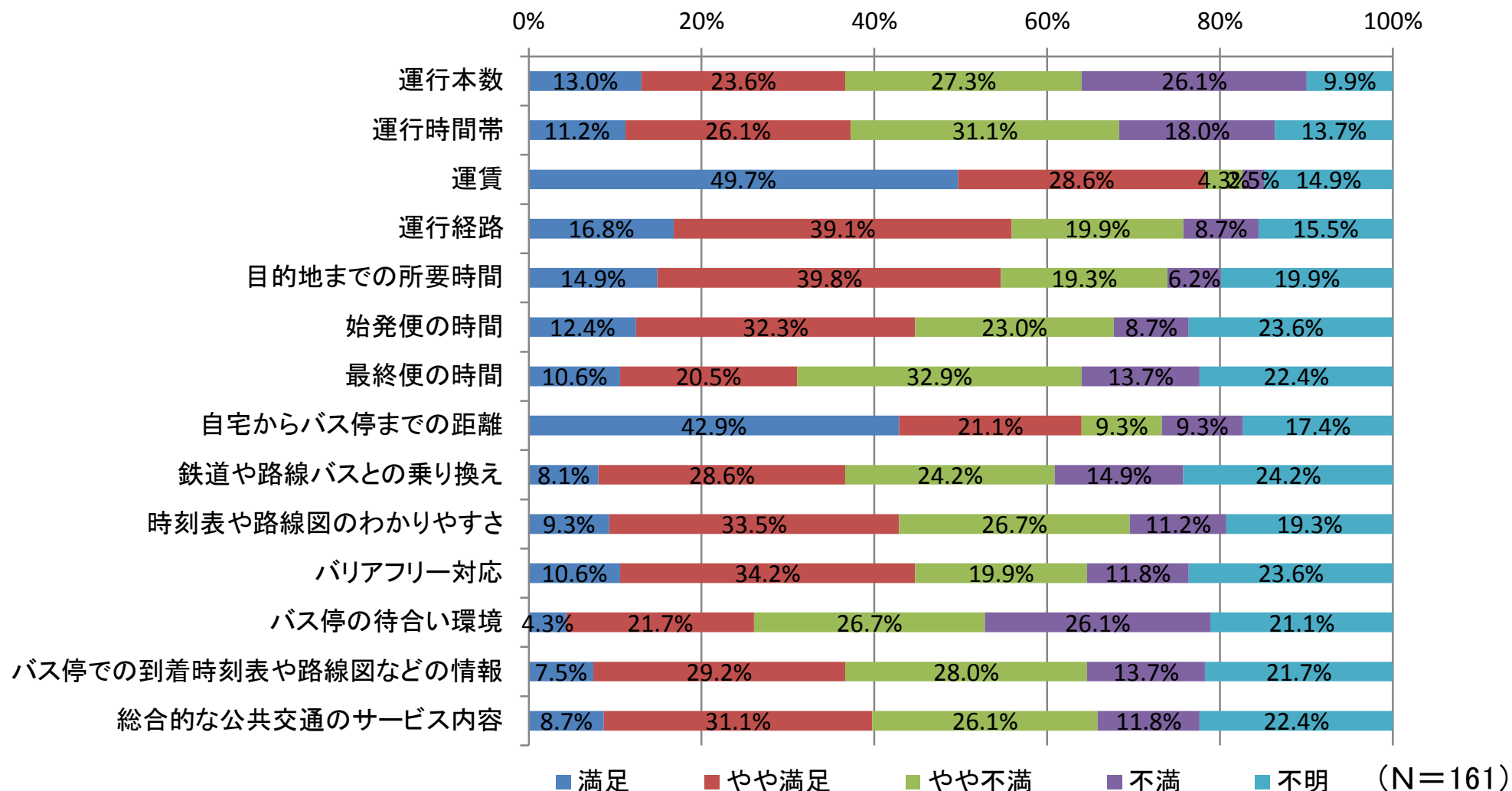
- イッシーバスの利用状況に関しては、「利用したことがない」が約86%であるのに対し、「利用したことがある」が約11%と、ほとんどの市民が利用したことがない結果となっている。



▲ イッシーバスの利用状況

⑤ イッシーバスの利用状況・利用意向

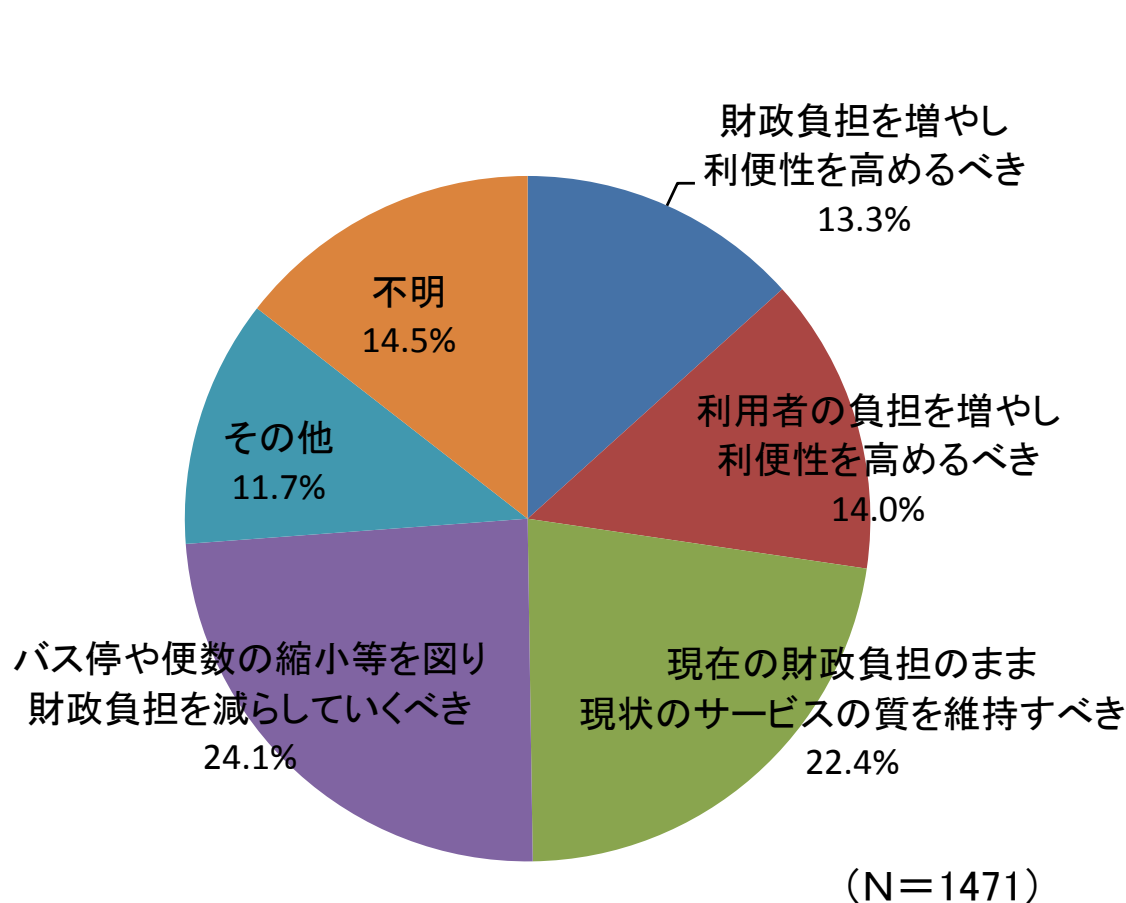
- イッシーバスの満足度に関しては、「運賃」や「自宅からバス停までの距離」に関しては、他の項目と比べて、「満足」、「やや満足」の割合が高い結果となっている。
- 一方で、「運行本数」、「運行時間帯」、「バス停の待合環境」に関しては、他の項目と比べると、「不満」、「やや不満」の割合が高い結果となっている。



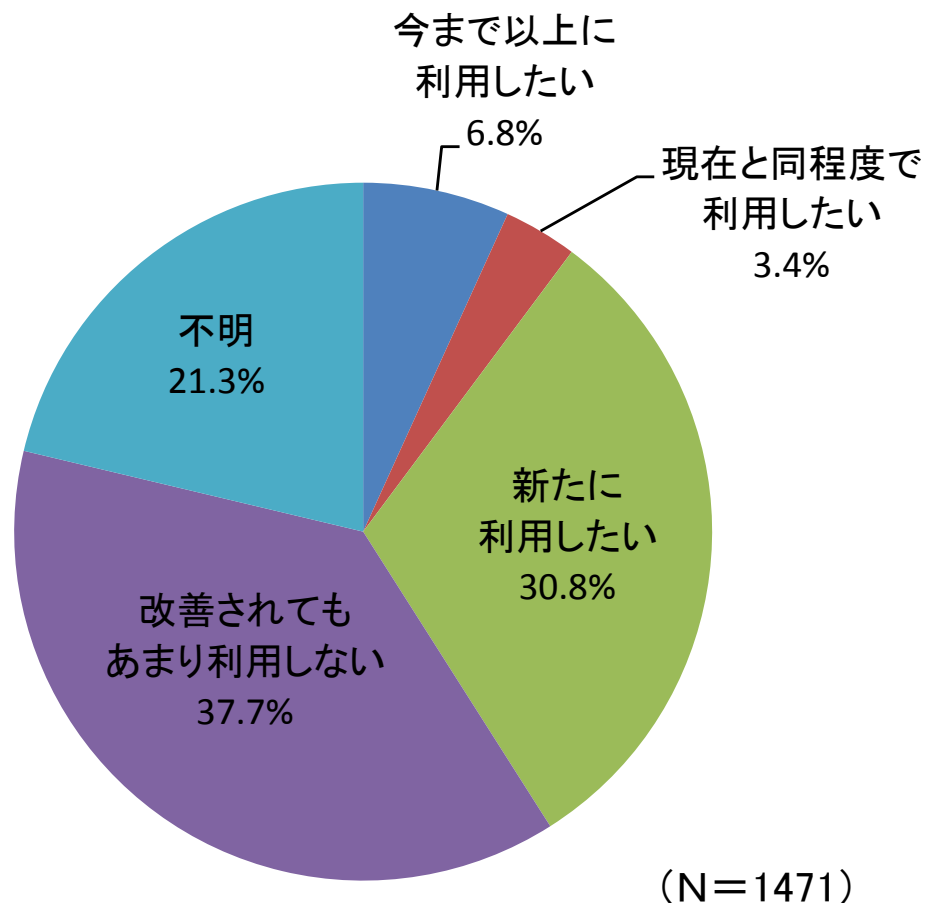
▲ イッシーバスの満足度

⑤ イッシーバスの利用状況・利用意向

- イッシーバスの今後の運行に対する意向としては、「バス停や便数の縮小等を図り、財政負担を減らしていくべき」（約24%）が最も多く、次いで「現在の財政負担のまま現状のサービスの質を維持すべき」（約22%）となった。
- 一方で、財政負担や利用者負担を増やして、利便性を高めるべきという回答も約3割となる。
- イッシーバスの今後の利用意向に関しては、「改善されてもあまり利用しない」が最も多く、38%となり、次いで「新たに利用したい」（約31%）となっている。



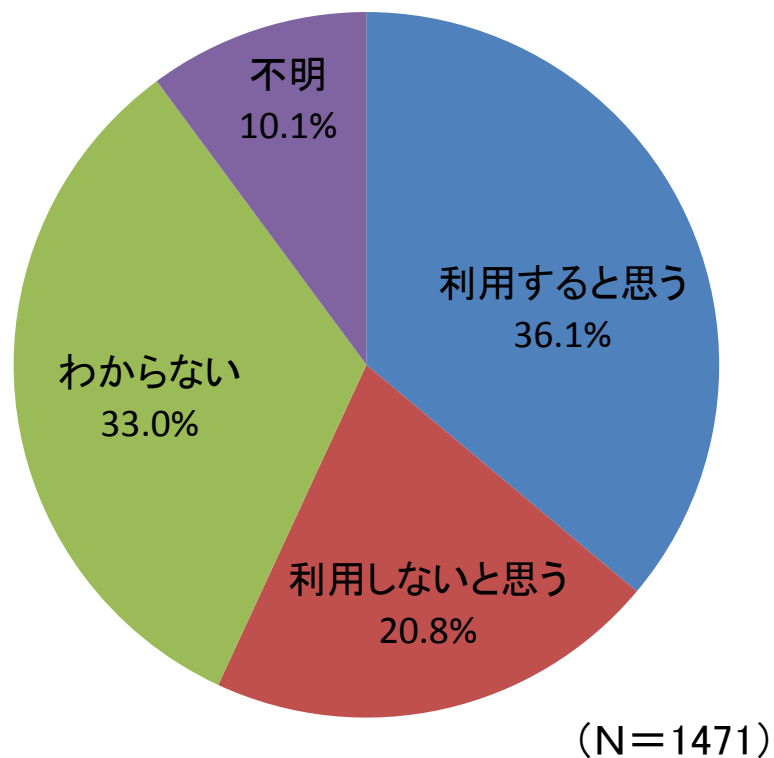
▲ イッシーバスの今後の運行に対する意見



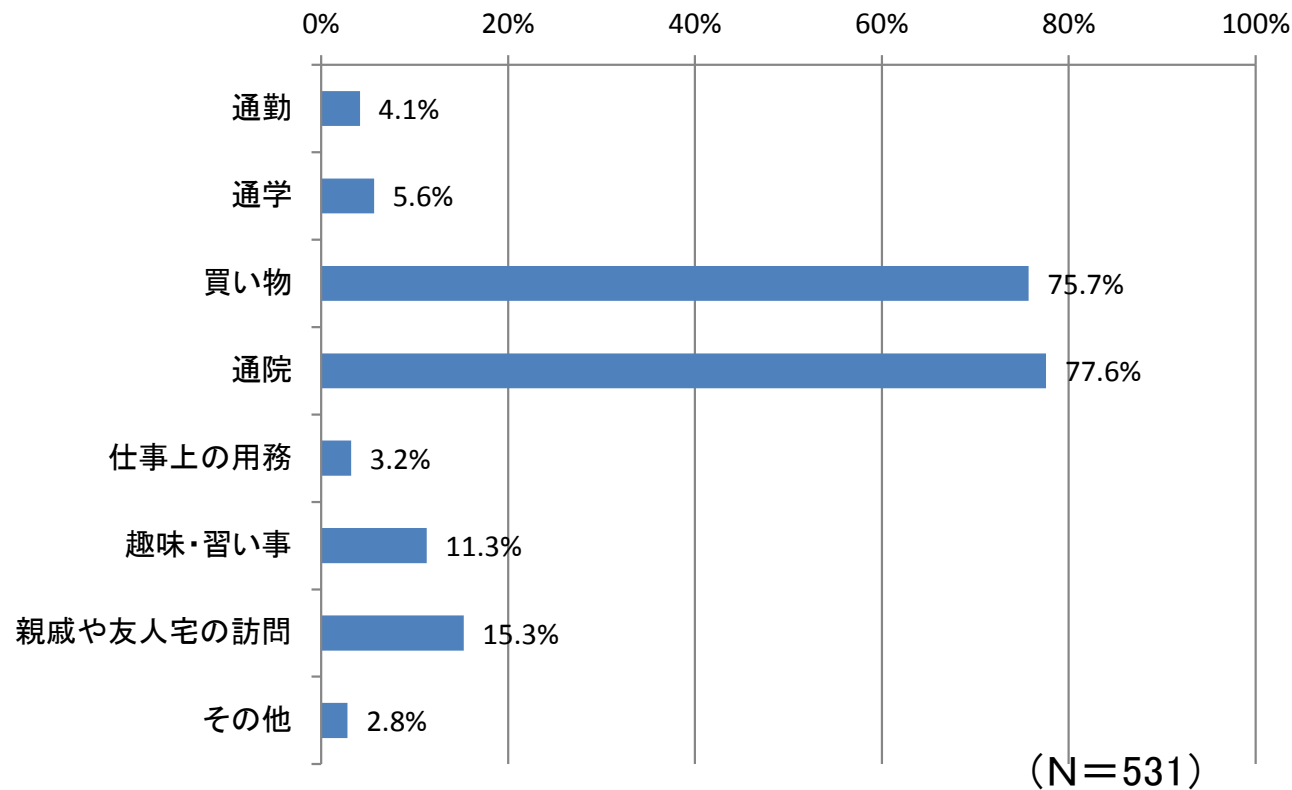
▲ イッシーバスの今後の利用意向

⑥ デマンド交通に対する利用意向等

- デマンド交通の利用意向に関しては、「利用すると思う」が約36%であるのに対し、「利用しないと思う」が約21%となった。
- 利用目的としては、「通院」、「買い物」が約8割程度となり、その他に「親戚や友人宅の訪問」（約15%）、「趣味・習い事」（約11%）となった。



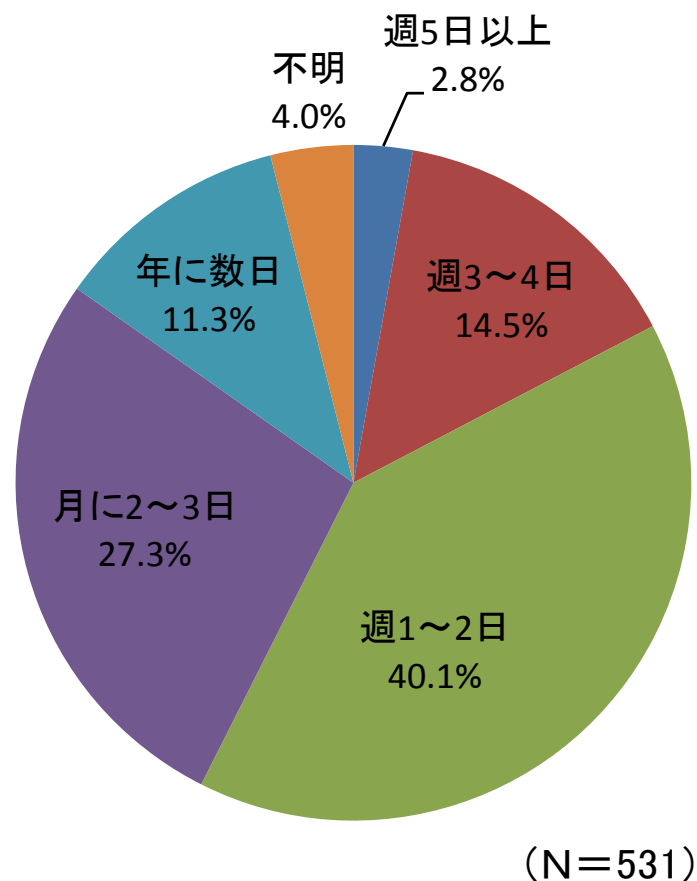
▲ デマンド交通の利用意向



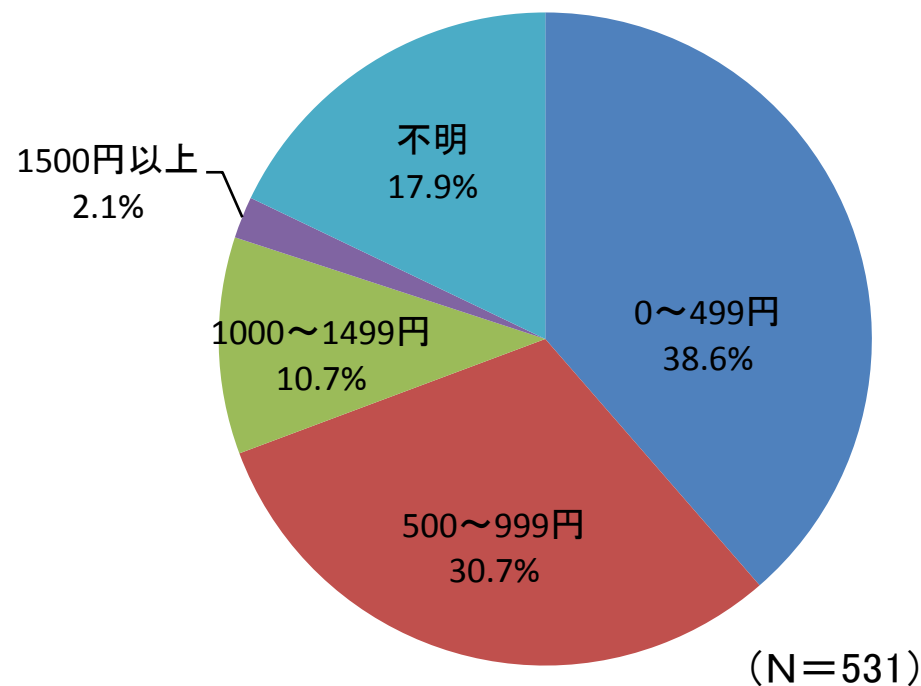
▲ デマンド交通の利用目的

⑥ デマンド交通に対する利用意向等

- デマンド交通の利用頻度としては、「週1～2日」が約40%で最も多く、次いで「月に2～3日」（約27%）、「週3～4日」（約15%）となった。
- デマンド交通に対する支払可能金額としては、500円未満が約39%で最も多く、次いで500円以上1000円未満（約31%）、1000円以上1500円未満（約11%）となった。



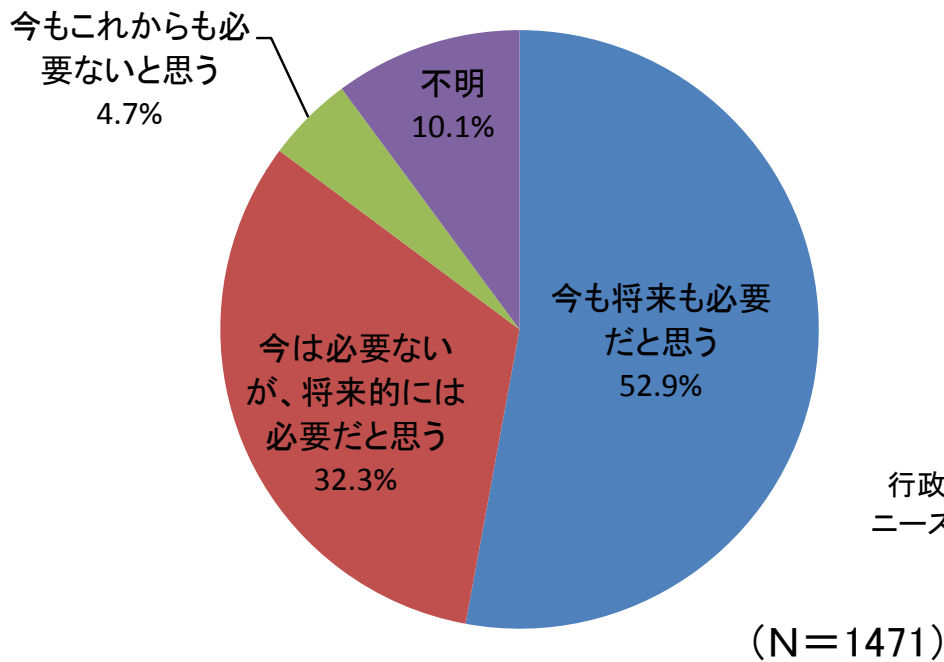
▲ デマンド交通の利用頻度



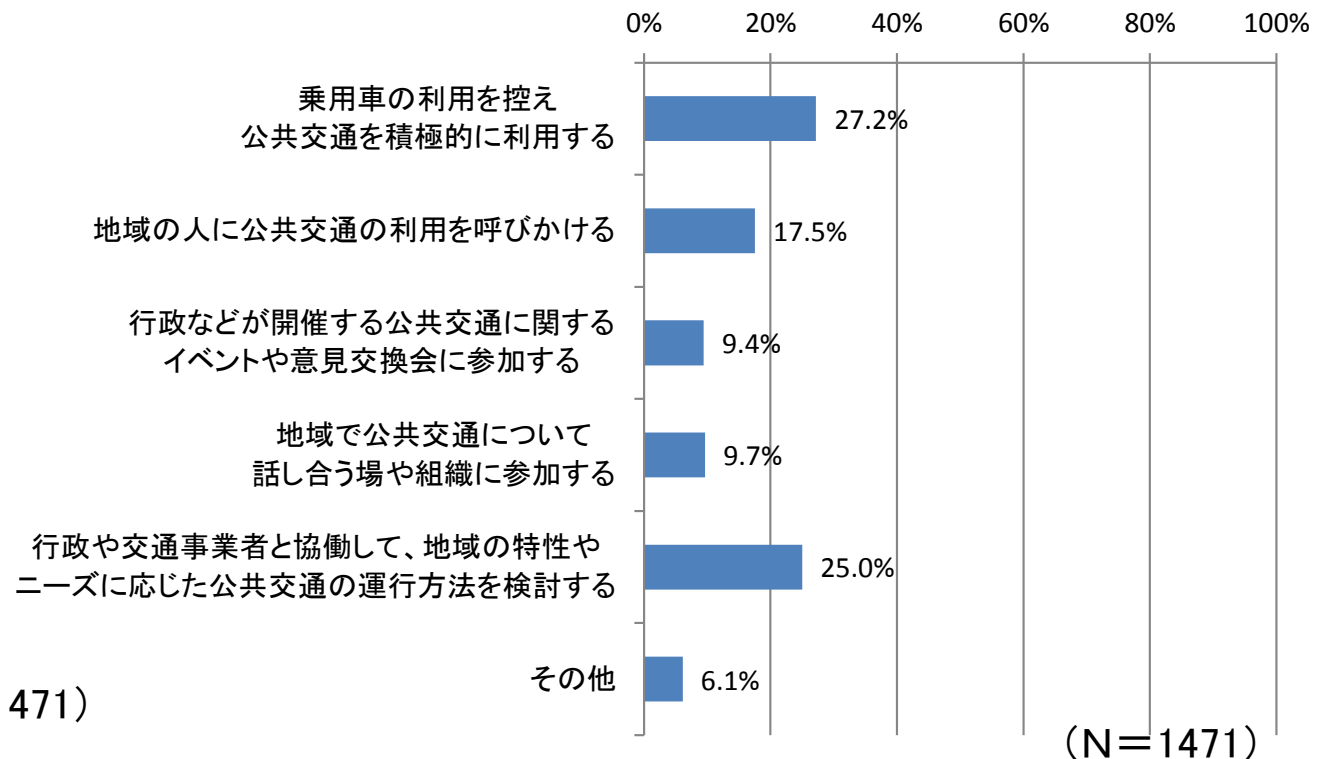
▲ デマンド交通に対する支払可能金額

⑦指宿市の今後の公共交通のあり方

- 公共交通の必要性について、「今も将来も必要だと思う」が約53%で最も多く、次いで「今は必要ないが、将来的には必要だと思う」（約32%）となっている。
- 公共交通を維持するための取り組み意向に関しては、「乗用車の利用を控え公共交通を積極的に利用する」が約27%で最も多く、次いで「行政や交通事業者と協働して、地域の特性やニーズに応じた公共交通の運行方法を検討する」（約25%）、「地域の人に公共交通の利用を呼びかける」（約18%）となった。



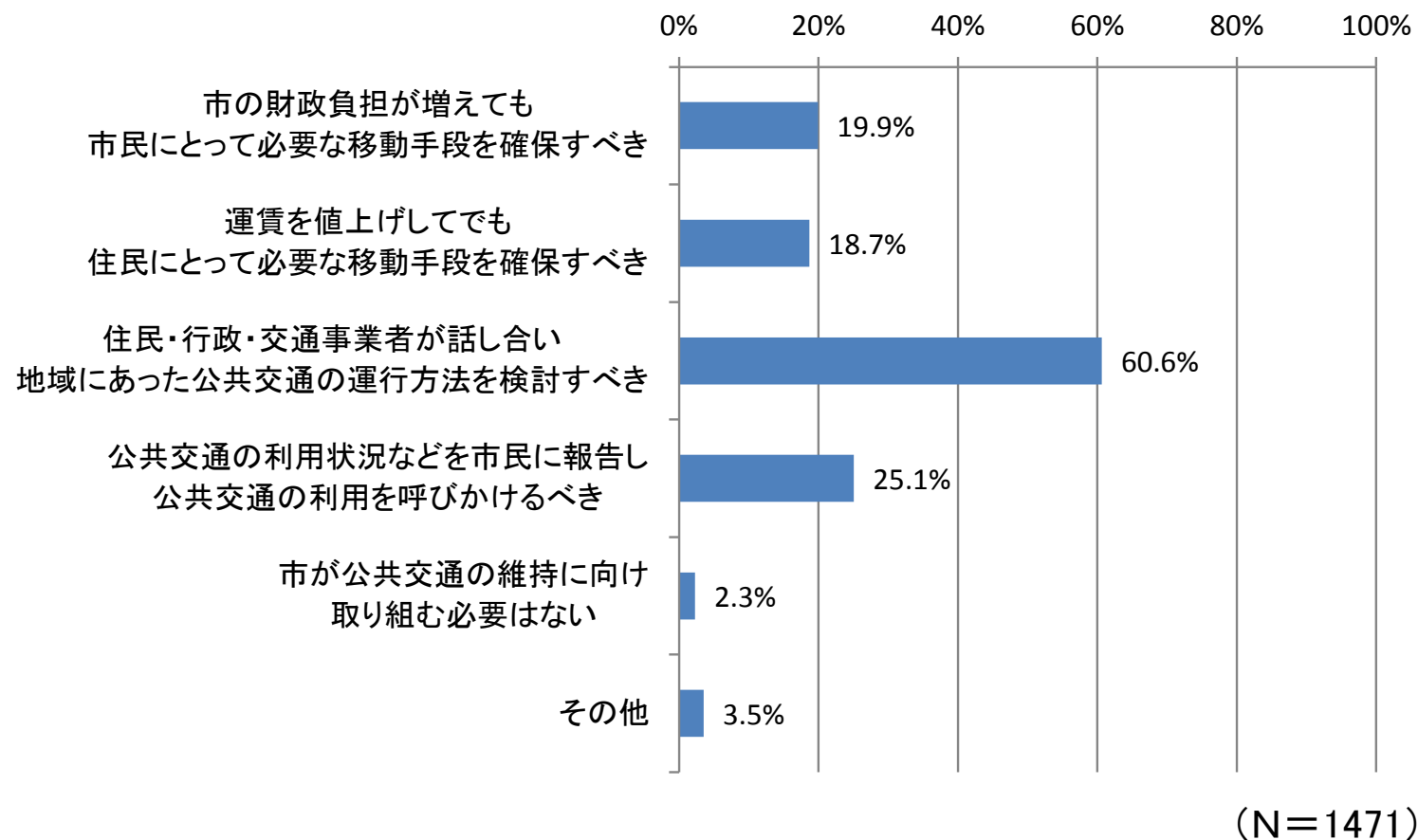
▲ 公共交通の必要性



▲ 公共交通を維持するための取り組み意向

⑦指宿市の今後の公共交通のあり方

- 行政に必要な取り組みに関しては、「住民・行政・交通事業者が話し合い、地域にあった公共交通の運行方法を検討すべき」が約61%で最も多く、次いで「公共交通の利用状況などを市民に報告し、公共交通の利用を呼びかける」（約25%）、「市の財政負担が増えても市民にとって必要な移動手段を確保すべき」（約20%）となった。



▲ 市民の移動手段確保等に向けて行政に必要な取り組み

5. 調査結果まとめ

自治会長アンケート調査

- 1割の自治会長が外出に利用できる公共交通がないと回答。
- 指宿地域、山川地域、開間地域の市内全域において、主に利用できる公共交通は、路線バスとなる。
- 買い物先として、指宿地域、山川地域からは、指宿地域への移動が多く、開間地域からは、開間地域内への移動が多い。
- 通院先として、3地域とも指宿地域への移動が多い。
- イッシーバスの今後の運行について、「現状の財政負担で、現状維持」という回答が約37%となる。

主要施設・交通拠点ヒアリング調査

<主要施設調査>

- 施設への移動手段としては、自動車（自分で運転）による移動が多い。
- 指宿市街地に立地する一部の施設では、イッシーバスやタクシーの利用も見られた。
- 路線バス、イッシーバスの利用に関しては、ともに約9割が利用していないと回答。
- 公共交通に対する改善点として、運行日数・運行便数の増加に対する意見が多い。

<交通拠点ヒアリング調査>

- 指宿駅、山川駅ともに、市民利用については、駅周辺に居住する市民の利用が多い。
- 指宿駅では、市外在住者の利用も多い。
- 指宿駅における利用者の外出目的は、通勤、通学、通院、観光等、様々となる。
- 山川駅における利用者の外出目的は、通学、観光が多い。
- 市民利用者の駅から目的地まで移動は、指宿駅では、自動車、徒歩が多く、山川駅では、徒歩、路線バスが多い。
- 市内で乗り継利用をした利用者は、約1割程度で、鉄道と路線バスが最も多い。

イッシーバス乗込み調査

- 利用目的は、主に買い物、通院となり、一部の路線では、高校への通学手段として利用されている。
- 利用者は、主にバス停徒歩圏に居住する高齢者、及び学生となる。
- 利用者の約4割以上が、週2日以上利用しており、固定利用者が多い。
- イッシーバスを利用する理由として、「行きたい場所に行ける」という理由が多い一方で、開間・徳光・成川線では、運賃が安いという理由が約71%を占める。
- 利用者が求める改善点として、便数やダイヤに関する意見が多い。

市民アンケート調査

<市民の外出実態>

- 通勤・通学先は、指宿地域が過半数を占め、自動車（自分で運転）による移動が約82%となる。
- 買い物先、通院先は、ともに指宿地域が7割程度となり、自動車（自分で運転、家族等の送迎）による移動が多数を占める。

<公共交通の利用状況と利用意向等>

- 直近1年間で公共交通を利用した市民は、約35%で、よく利用する公共交通としては鉄道となる。
- 市内の公共交通の不便・不満点としては、利用したい時間に運行していないという回答が約54%で最も多い。
- イッシーバスを利用したことがある市民は、約11%となる。
- イッシーバスの今後の運行に対しては、財政負担や利用者の負担を増やし、利便性を高めるという回答が約3割を占める。
- イッシーバスの不便点が改善された場合、「改善されてもあまり利用しない」という回答が約4割を占める一方で、「新たに利用したい」という回答も約3割となる。
- デマンド交通に対する利用意向として、利用するという回答が約36%となる。
- 公共交通を必要だという市民は、約8割を占める。

<その他>

- 最寄バス停を知っている市民は、約80%となり、その過半数が、自宅からバス停までの所要時間が5分以内となる。